
○関連資料

〈資料1〉有識者インタビュー要旨

〈資料2〉調査結果データ（東京都の拠点調査）

〈資料3〉調査結果データ（東京以外の拠点調査）

〈資料1〉 有識者インタビュー要旨

- ① 伊藤 穰一 マサチューセッツ工科大学教授 MITメディアラボ所長
- ② 伊藤 直樹 株式会社PARTY クリエイティブディレクター
- ③ 岩佐 十良 株式会社自遊人 代表取締役
- ④ 落合 陽一 筑波大准教授・学長補佐
- ⑤ 川村 元気 映画プロデューサー・小説家
- ⑥ 齋藤 精一 株式会社ライゾマティクス代表取締役/クリエイティブディレクター
- ⑦ 菅野 薫 電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/クリエイティブ・テクノロジスト
蜷川 実花 写真家、映画監督 ※菅野氏と2名でのインタビューを実施
- ⑧ 孫 泰蔵 Mistletoe株式会社 Founder
- ⑨ 田根 剛 ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTS主宰
- ⑩ 為末 大 株式会社侍 代表取締役
- ⑪ 畠中 達郎 株式会社アミューズ 代表取締役 社長執行役員
- ⑫ 名和 晃平 彫刻家、京都造形芸術大学教授
- ⑬ 船越 直人 松竹株式会社演劇本部 執行役員 統括部長
- ⑭ 真鍋 大度 株式会社ライゾマティクス取締役/メディアアーティスト、Rhizomatiks Research代表
- ⑮ 渡邊 賢一 株式会社XPJP 代表取締役 社長 / エクスペリエンス・デザイナー、一般社団法人 元気ジャパン 代表理事

※対談形式のインタビュー中の発言をセクションごとに抜粋し、要旨として掲載

1. マサチューセッツ工科大学教授 MITメディアラボ所長 伊藤 穰一

聞き手：株式会社ロフトワーク取締役 林千晶



プロフィール

MITメディアラボ所長。MIT Media Arts and Science 実務教授。ハーバード・ロースクール客員教授。株式会社デジタルガレージ共同創業者で取締役。PureTech Health取締役会議長。The New York Times、Knight財団、MacArthur財団のボードメンバー。ソニー株式会社戦略顧問。金融庁参与。金融庁「フィンテック・ベンチャーに関する有識者会議」委員。東京2020（東京オリンピック・パラリンピック競技大会）有識者懇談会委員。慶応義塾大学SFC研究所主席所員。PSINet Japan、デジタルガレージ、Infoseek Japanなど多数のインターネット企業の創業に携わる他、エンジェル投資家としてもこれまでに、Twitter, Wikia, Flickr, Kickstarter, Path, littleBits, Formlabs 等を初めとする有望ネットベンチャー企業を支援している。2008年米国Business Week誌にて「ネット上で最も影響力のある世界の25人」、2011年米国Foreign Policy誌にて「世界の思想家100人」、2011年、2012年共に日経ビジネス誌にて「次代を創る100人」に選出。2011年英オクスフォード大学インターネット研究所より特別功労賞受賞。2013年米大学機構The New Schoolより名誉博士号（文学博士）を受位。2014年SXSW(サウスバイサウスウェスト)インタラクティブフェスティバル殿堂入り。2014年米Academy of AchievementよりGolden Plate Award受賞。2015年米タフツ大学より名誉博士号（文学博士）を受位。2017年米Industrial Research InstituteよりIRI Medal受賞。2017年「9プリンシプルズ-加速する未来で勝ち残るために」（早川書房）共著。

○多様性や共生につながる視点

神道が世界中の原住民と日本をつなぐ

世界の中の日本、アジアの中での日本といった立ち位置の話より、日本は2020年に向けてもっとおおらかに世界とつながることを意識した方がいい。そのルーツになるのは神道だと思う。アメリカやオーストラリア、アイスランドなどの原住民の文化って、だいたい自然とつながっている。原住民の文化は基本的には自然を破壊しない。最近の文化っていうのは基本的には自然を破壊して文明を手がけていくことが多い。神道も自然なのね。そういう意味では、世界中の原住民と唯一ちゃんとつながれるのって神道だと思う。神道はアジアの中でも歴史が古く、古い文化というのはちゃんと世界とつながる。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

世界に見せるべきは技術よりも、環境問題や高齢化に対する考え方

日本が世界に見せるべきは、環境問題と高齢化に対する考え方。現状、日本は産業に対して技術革新を続けようとしているが、他国に先行されている。しかも2020年には、その差がさらに広がっている可能性が高い。それを考えると、見せるべきは神道や伊勢神宮などの精神性や考え方。産業や技術革新を一生懸命見せるよりも、神道をルーツに高齢化と付き合っていることや、自然と一緒にうまくやっている姿の方が面白い。

今、色々なところで環境を含めた複雑なシステムをどうやってマネージメントするかっていう話が出ている中、未来のテクノロジーのことだけを話しているの違うと思う。発展していない経済の中で日本はどうやってハピネスを保つか、神道を元に自然とどう生きていくのかという点を見せるのが一番タイムリーだと思う。

2. 株式会社PARTY クリエイティブディレクター 伊藤直樹

聞き手：エヌ・アンド・エー株式会社 代表取締役 / 森美術館 館長：南條史生



プロフィール

71年静岡県生まれ。早稲田大学卒業。テクノロジーとストーリーテリングの融合を追求するクリエイター集団「PARTY」のCEO。これまでにNike、Google、Sony、無印良品など企業のクリエイティブディレクションを手がける。「経験の記憶」をよりどころにした「身体性」や「体験」を伴うコミュニケーションデザインは大きな話題を呼び、国際的にも高い評価を得ている。2016年、Fast Company誌が選ぶ世界の「The Most Creative People in Business 1000」に選ばれる。最近の作品に、成田空港第3ターミナルの空間デザインやサンスターのハミガキIoT「G・U・M PLAY」、インスタレーション「でじべじ」の総合演出など。経済産業省「クールジャパン官民有識者会議」メンバー（2011、2012）。NYの国際広告・デザイン賞ONE SHOWの国際ボードメンバー。京都造形芸術大学情報デザイン学科教授。事業構想大学院大学客員教授。

○多様性や共生につながる視点

5Gケータイを、外国人に大量に安価に国策として貸し出す

「5G」は日本が先行しているとは言い切れないですけど、東京2020大会があるので間に合わせようとしてるんですよ。今。2019年の頭ぐらいにこういう端末が出てくると言われているので。まあ2020年の夏なんで、間に合うと思いますね。計画では、市民というか、普通の人がある5G対応のケータイを手に入れるようになるはずですよ。その5G対応のケータイを、外国人にも大量にレンタルする。空港とかでいっぱいレンタルとして。そういうまあ普段5Gのケータイ持ってない人たち、いろんなところから来た人たちに、安価に、国策としてレンタルをする。それを使うと観光も便利だし、東京2020大会のその道に迷うこともないし、エンタテインメントもイベントも楽しめる。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

日本が一番だと思えるのは「5G」、東京2020大会までには間に合う

テクノロジーで言うと、色々世界のテクノロジーあると思うんですね。テスラだったら自動運転とか。人工知能。日本がやっぱり一番よさそうだなと思うのは「5G」ですね。ネットワーク環境が、現状の今のネットワークの1000倍って言われているんですね。だってこれもう1秒間に10GBって言われてるんで、これ映画とかでもストンと落ちてくるようなことですよ。5Gになると、例えばスタジアムで映像配信やるって言うても、今やろうと思うと同時アクセスするともうパンクしちゃうという問題がある。この辺が解消できてたり。あとは新幹線のWi-Fi、今ありますけどほとんど使い物にならない。飛行機とかもWi-Fiありますけど、あんまり使い物にならない。これが5Gになると全部使い物になるという。これを東京2020大会に向けて、各キャリアとかネットワーク会社が始めようとしていて、東京2020大会までにはなんとか間に合うところまでいくなかって。

日本のGPSは誤差1センチに、東京2020大会に向けて謳っていきたい

日本がまあ世界との規格競争に勝てるかっていうのはあるんですけど、日本のGPS。これはやっぱり素晴らしいなと思ってるんですね。これは、「みちびき」という衛星による日本版GPSで、通常のGPSを補正して、誤差がMAXで1セ

ンチ。今は最大で10メートル誤差があります。誤差があるので、今のGPSではあまり精緻なことはできないんですけど、これが1センチになってくるとけっこうなことができる。例えばこのコップがどこにあるのか、今六本木ヒルズクラブの中のここにあるってことが全部分かるんです。そうすると、スタジアムのどの席に座ってってということも全部分かってきますし、電車のどこの席に乗ってってことも全部分かります。GPSに関しては世界でも日本は先行してるんですよ。GNSSという、世界が目指そうとする規格と、日本がやってる「みちびき」の規格ってちょっと違うんですが。これまたガラパゴス化するかもしれないんですけど、東京2020大会に向けて華やかに高精細GPSを日本が謳っていけば、多少風向きが変わるかもしれない。

○表現の可能性や試行性についての視点

ドローンは東京2020大会のときにバンバン飛んでいた方がいい（TOKYO360）

東京から日本の全方位に向けて魅力を発信する「TOKYO360」というイベントをやりたいと思います。これは365日前ではなく360日前から、世の中のこと、日本のことを余すことなく360度魅力を伝えていくというイベントなのか、そういうコンテンツなのか。それぞれの企画の総称を「TOKYO360」という括りでやりたいなと。

場所で言うと、ヘリテージゾーンと言われている東京2020大会の会場と、ベイエリアのゾーン。だいたいこの辺っていうのはご存じの通り、結構中心地になってくるわけですよ。一つは、こういった森ビルとかはヘリポートがありますので、ヘリポートの真上にドローンを常に常駐させて、本当に100台とか1000台とかのレベルで、常に東京をこう360度スキャンしているという状態をつくりたい。スタジアムの上もドローンを全部飛ばして。東京は飛ばすのに規制がある。これはまあ法律とかで緩和していくのかもしれませんが、東京2020大会のときはもうバンバン飛んでた方がいいと思ってるんですね。

乗り物の上が、今の日本を魅せる場所（TOKYO360）

「こんなところを使ったら面白いだろうな」というような意外性のある場所という、僕は乗り物の上だと思っています。例えば、飛行機。飛行機がなんでいいと思ってるかという、羽田の増便で渋谷の上とか飛行機が通るようになるんですね。数百メートル上を、渋谷の上空とかを通るように今計画がされています。そうすると、そこを通るときってというのは、乗ってるお客さんにとってはものすごく街を見るのに良い機会。たまに富士山とかが見えて「おお！」ってなるときってあるじゃないですか。ああいうことと一緒に、東京をこうスキャンしている良い機会なので、「窓」にARを入れたいなと思ってるんですね。東京の街並みのこれがどこかっていうのが全部分かるわけですよ。そうすると外国人が飛行機に乗って、仮に羽田からどっか鹿児島に行くというときに、日本を全部スキャンしながら見ていけるわけですね。

これは飛行機だけでなく新幹線もやりたい。新幹線、飛行機、はとバス、あとは空港からのリムジンバス。これらやることでだいたい、例えば東京2020大会の会場この辺ですよ、富士山こっちですよ、このおっきな建物は六本木ヒルズですよ。そういったことが全部分かってくる。

これらは結構日本じゃないとできないことで。それを2019年あたりから、はとバスとか新幹線とか飛行機とかをやっ

ていって。あとやっぱり乗り物がいいのは、東京に来て、そのままどっか地方に流れていってほしいわけじゃないですか。せいぜいみんな行くのは広島、京都、日光、鎌倉とかそういうとこ。それ以外のところにもっともっと行ってもらう。

動くピクトグラムと漢字が世界発信の鍵（TOKYO360）

テクノロジー視点から変わってデザインの視点でいうと、日本は1964年の東京オリンピックのときに、グラフィックデザインが成長したと言われていました。その中でもピクトグラム。サイン関係がやっぱり成長したと。じゃあこの2020年代のピクトグラムは何かとなると、今、iPhoneで「アニ文字」というのがあるように、サインが動いた方がいいかなと思っています。そうすると限りなく絵文字のようなものになってくる。動くときに、鍵になってくるのが「漢字」だと思ってるんですよ。漢字はもともとピクトグラムですから。漢字が動くだけで意味が分かるんですね。例えば「傘」という字も、屋根の中に「人」が入って棒があるわけじゃないですか。あれ全部その棒の中に人が入ってるってことを描いているわけですね。このように漢字というのはすごく意味があるので。ひょっとしたら、漢字を動かしてサインをつくるようなブームというのをつくって、日本中にそういう動くサイネージというのをつくることで、1964年のピクトグラムブームがあったように、今度は世界に向けて「動くピクトグラム」というブームが起こるのではと。それはひいては日本全体の魅力に。例えば傘って言っても和傘もありますし、色々な傘がある。傘のお化けもありますし。そうやって日本の文化を、漢字というものを通じて伝えていくというのがいいかなと。

そのときにもう一つ鍵になってくるのがスマートフォン。今やもう必ずしも建物の壁にピクトグラムがある必要はなくて、かざしたら別に出てくるわけですよ、その場所が何かって。そういうスマートフォンとかうまく連動させたり、乗り物をうまく連動して、乗り物に乗っていて出てくるものが動くピクトグラムだったり。そういうことをうまく使ってやっていくと面白いかなと。

伝統と現代というテーマでも「漢字」というものをトリガーにしてつなぎたいんですよ。漢字ってのは昔ながらの伝統の意味を必ず持っているので、それを漢字を通じて教えていきたい。

東京2020大会時期のテーマは「おばけとお盆」（TOKYO360）

東京2020大会が7月の終わりから8月9日までですよ。イベントを考えるとしたら「おばけとお盆」というのがテーマでいいかなと思ってまして。つまりARとかで何が出てくるかっていうと、日本のおばけが出てくると。これは夏の納涼という意味と、時期的にぴったしということで。おばけは、いろいろあるんですけど、着物着たり血だらけになってたりナイフが刺さったり、貞子みたいなやつがいたり。日本のおばけということで、外国人にもそのおばけを教えてあげられる。

東京2020大会のその後にはすぐお盆が来るんですよ。で、（TOKYO360の）360度っていうと、盆踊りはまさに、あの櫓を中心にして360度踊っていくわけですよ。360度のガラスとか、スクリーンが付いたような休憩所とか、サロンみたいなところで、もしくは、そこに座ってVRの装置をかけたりすると、擬似的に日本各地の盆踊りが見れたりすることもできるかなと。

3. 株式会社自遊人 代表取締役 岩佐 十良

聞き手：株式会社ロフトワーク取締役 林千晶



プロフィール

1967年、東京生まれ。武蔵野美術大学在学中に現・株式会社自遊人を創業。2000年、雑誌『自遊人』を創刊。2004年、新潟県南魚沼に事業の本拠地を移す。2014年5月に、『里山十帖』（新潟大沢山温泉）をオープン。持続可能な民家保存というコンセプトと斬新な手法が評価され、「グッドデザイン賞」のBEST100に選出、中小企業庁長官賞も受賞した。2016年よりグッドデザイン賞審査員を務める。著書に、『里山を創生する「デザインの思考」』（KADOKAWA）など。

○多様性や共生につながる視点

オリンピックが東京や京都や大阪だけじゃなくて、地方のものになると良い

正直新潟にいて、東京2020大会って本当にやるの？っていう。すごく先のことのような気もするし、関係のないような気もするし。ただ僕も東京に行くと、東京2020大会が近いんだっていう感覚があるんですよ。でも、新潟も含めてなんですけど、地方では東京2020大会が決まったからといって、何か特別なことが起きているわけでもなく、景気が良くなるわけでもなく。東京2020大会があることはわかっているけど、地方の問題からいうと（他に）切羽詰まっている話の方が多いわけです。人口減少問題なんかは、かなり切羽詰まった問題としてあるわけですね。その切羽詰まった状況が、東京2020大会を境に変わるのかっていうとわからない。みんな何かやろうってことを言っているわけなんですけど、現実的には何をしたらいいんだろうと。色んなことしているんですけど。地方の未来につながっていくのかと。だから、僕からすれば東京2020大会が東京や京都や大阪だけじゃなくて、地方のものになるといいなっていうのが正直なところですね。

オリンピックは啓発運動プロジェクトに変えられるかが鍵

「食」は日本中の色々なところでPRしようよと頑張っているんだけど、新潟も2019年と2020年にかけてどうやって存在感を示すかが一つポイントになっている。燕三条の食器とかも含めて、「食」を中心に産業環境まで持って行ってという話もしているのですが、GDPの14位の新潟県がどのくらい支えられるのかっていうとごくわずかでしかないの、僕らはDC（デスティネーションキャンペーン）を県の、県民啓発プロジェクトにしようって思ってるんですよ。短期のキャンペーンじゃなく長期のプロジェクトにしたい。オリンピックも短期間じゃないですか、DCと一緒に祭り過ぎないわけじゃないですか。どうやってプロジェクトとして住民啓発運動というか、県民啓発運動というか、地方に住んでいる人たちの啓発運動に変えられるかが、僕はオリンピックの鍵だと思っています。そうじゃないと単なるお祭りで、東京に行ったら東京2020大会やるよねって、僕に関係ないよねって、特に田舎だと関係ないよね、でっかいテレビでも買おうくらいの話になっちゃうんで。結構大変なところですけど、啓発プロジェクトにできないと、地方とか田舎とか山間部では生き残れないのかなってヒシヒシと感じていますね。

地域の人たちが、地域の宝物や文化を価値あるものだと認識すること

地方の人たちって、自分のところの地形の良さ、自分のところの国の良さっていうところを知らないんですよ。例えば、新潟にある野菜ってすごい貴重なんです。新潟って伝統野菜が多分京都とか金沢よりも埋もれて残っているんですよ。本物の伝統野菜。固定種、在来種と言われているやつが。日本でも極めて珍しいものがたくさん残っているんですが、そもそも固定種在来種に対して、新潟県民はそれが貴重だという認識が全くない。京都や加賀では京野菜や加賀野菜が観光資源化して、しかも付加価値がちゃんとついて、農業の活性化やサービス業の活性化にもつながっているにも関わらず。新潟にはそれ以上のものがたくさんあるのに、全く生かされていない。なぜかという、その価値に気づいていないからですね。僕らが思うのは、やっぱり地域の人たちが、地域にある宝物、保有の文化とか歴史とかを考え、どこかで流行ってるとかじゃなくて、もう一回価値あるものだと認識してもらうことが最初のステップだと思っていて、これをやらないと始まらないんですよ。観光キャンペーンにしてもオリンピックにしても地方創生にしても、地方の人はどっかで流行っているものをここでもやろうとか、あそこで成功しているからうちでもやらないかって話になるんです。そうじゃなくて、まずは自分たちの文化風土歴史をちゃんと見直して、自分たちが何を持っているかっていうのを考えましょうよって。これを県民運動とか市民運動的にしていかないと、みんな他力本願な話になっちゃうんですよね。

まず自分たちの魅力を一回掘り起こしてから先に進む

新潟をはじめ、僕がすごく感じるのは、地方のどこの県に行っても、自分の県がどういう地域で、歴史がどうでっていうことが忘れ去られすぎている。ここ何十年だかわからないですけど、やっぱり東京に見習ってという傾向がすごく強くて。地方の特に行政の人たちは、霞ヶ関に予算を取りいって、霞ヶ関が何を考えているのかっていうのを考えて、霞ヶ関が考えている通りに作文をして、予算を頂戴するみたいなのところがある。そうすると、文化とか歴史とか未来とかいうような話をすごく表面的に書く傾向になる。だから僕らは、まず自分たちの魅力を一回掘り起こさないと先に進めませんよと、そうじゃないとうちには何に特徴がないんですみたいな話が出てきちゃいますよと。そんなことないんです、ちゃんと掘り起こせばたくさん出てきますよって。この先何を考えるにしてもベース（特徴的価値）がなければ考えられないですよって。

地元の人が自信を持って語れる県は、旅をしたくなる

日本って、勝手につながるんじゃないですかね。国として小さいですし、新幹線だけでも相当走っているわけですし、なんだかんだ言って空港だって相当あるわけですから、飛行機乗ったらどこでも1時間半から2時間で行けちゃうわけですよ、東京から。だから地方そのものがちゃんとプロモーション、自県なり自分の地域をプロモーションできるのかどうかっていうことが重要。魅力のないところと知らないところに人はいかないですよ。あとと思うのは、地元の人が自分の県とか自分の地域に自信を持ってないところにも行かないです。僕は京都がなんであんなに強いのかという、理由は単純明快で、京都の人って、100人に聞いたら100人から京都自慢が返ってくるんですよ。京都のここがいい、いやこっちがいいっていう話があって、京都の人が京都に対して自信を持っている。京都の人はそれぞれに京都学・京都観があって、それを誰に対しても言えるから、今日の強さがあると思うんですよ。それが京都以外のところにもあるのかっていう、今はすごく薄い。ないわけじゃなく薄い。新潟も、新潟らしい、新潟ってこういうところなんだ、というところを語ってあげないといけない。人が旅するのって文化を知りたい、文化交流みたいなのところがあるじゃないで

すか。知らない文化を知りたい、知らない街を知りたいって。別に学問としては興味ないんだけど、旅したときには文化人類学がすごい重要で、その話を地元の人もしてくれなければ旅した感じがしない。

祭りをきっかけにして日常につなげる、観光地域づくり

お祭りはね、各地たくさんありますんで、ぜひお祭りに来てもらいたい。ただ来て欲しいのは日常なんですよ。だからお祭りをきっかけにして日常にどうつなげていくのかって話で。お祭りが行われている背景を、365日のうち364日のお祭り以外の日に感じられるような地域づくりができるのかどうかを鍵だと思っているんですよ。僕らの観光のことを「観光地域づくり」って呼んでいて、観光をベースにして地域づくりをしましょうと。昔の観光っていうのは、ばーんと来てばーんと帰っちゃう。でも僕らが今やっているのは、観光をベースにして地域を作ろうというもの。それを「観光地域づくり」と呼んでいるんです。「観光地域づくり」をすることが、これからの日本の一番の資源、観光資源になるのではないだろうか。

いくつかの地域をモデル地域にして数値化していく必要がある

成功事例を視察したり、あそこでやってたものを真似しよう、コピー&ペーストしようっていう風にみんな思うんですが、成功事例がないんですよ。オリンピックまでの間に地域の再生例、地域づくり例みたいなものをいくつかモデルを作って、2018年中くらいに一つ前例を見せていきたい。前例を作っていないと、2019年、2020年に加速しないですよ。2019年、2020年になってほらこんな地域ができたといっても他の地域が真似るには遅いので。やっぱり2018年がすごい重要だよって話をしながら、2019年、その後の2020年を見てます。ここからの3年間を着実にどういうステップでやっていくのがすごく重要で、金沢なのか新潟なのか高知なのか島根なのか佐賀なのかわからないですけど、そのいくつかの地域をモデル地域にして、なんの成果が現れるのかっていうのを見ていって数値化していく必要があるでしょうね。そうじゃないと他の県の人たちが真似できないですから。これは地方行政、色々な議員さんから本当に大丈夫なのか、成功例があるのかとか、数値目標的なものとか実績とかを求められるようになったから。今は地方にそういう事例がなくて、やろうと思っても余計にできないんですよ。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

自然があるよ、食べ物やお酒もあるし、色々あるし来てねでは、伝わらない時代

新潟って実はGDPでいうと14位なんですよ。京都13位ですから、東京から始まって、大阪とか神奈川とか福岡とか愛知とか来て、いわゆる太平洋ベルト地帯が来て、13位に京都が来て、14位が新潟なんです。だから、新潟県ってどちらかという潤っている県。潤っているっていうか、燕三条なんかには代表されるように産業が底堅いし、お米の農産物もきちんとでているしで、日本海側の中ではダントツに高いGDPなんです。その新潟県でさえ、オリンピックを境に何ができるかっていうと悩んでいて。その中で僕が一つやっているのがJRさんのDC（デスティネーションキャンペーン）。2019年の10月から12月に新潟県にそのキャンペーンが決まってまして、僕が総合プロデューサーをやることになってるんですけど、今まで民間の人が総合プロデューサーとかディレクターをするってことはなかったんですね。今までのキャンペーンは、新潟県自然があるよ、食べ物やお酒もあるし、海もあるし、色々あるし来てねってやってたんですけど、これだと伝わらない時代。そこで一人ちゃんとディレクターを立てて、訴えるポイントを明確にしてやろうって。僕がやっているのは食一本に絞って、食べ物に農産物と風土と文化とその歴史を含めたPRしようってこ

と。外国からのお客さんにも来て欲しいし、日本のお客様にも来て欲しいんですけど、これをどうやってつなげていくのかっていうのがテーマになっている。

伝統だけではなく、最先端の日本のものづくりも見 てもらおう

新潟で言いますと産業観光ってことだと、燕三条の工場(こうば)の祭典ってやってるじゃないですか。工場の祭典って今までのただの工場見学ではなく、見て楽しんでのアトラクションを加えて、実際に燕三条の技術を知ってもらう。めっちゃ機械化の進んでいる無人の工場から、玉川堂みたいなカンカンカンカンやっているものまで含めて、幅がめちゃめちやある訳ですよ。その幅広さを見ていただく中で、燕三条のものづくりの全体感っていうものを感じていただく。伝統ってことになると、玉川堂のカンカンやっているものとか刀鍛冶みたいな話だけになっちゃうんですけど、そうじゃなくて、最先端の機械化されているものも日本のものづくりとして見てもらう。

○それ以外の重要な視点

行政が応援して、取り上げられることでガラッと変わる

単純な話なんですけど、口先でいいんで応援してくれること。実例とか事例で色々な形で出してもらうこと。それこそテレビとかで全国放送されること。くだらないって思うかもしれないんですけど、NHKの全国放送で取り上げられることとか、民放でも良いんですけど、全国放送で取り組みがすばらしいって言ってもらった瞬間にカラッと変わりますんで。もちろんそこに対する補助金とか助成金とかっていうのがあればいいですよ。

4.筑波大准教授・学長補佐 落合 陽一

聞き手：エヌ・アンド・エー株式会社 代表取締役 / 森美術館 館長：南條史生



プロフィール

1987年生まれ。筑波大学学長補佐、准教授。ピクシーダストテクノロジーズCEO、筑波大学でメディア芸術を学び、東京大学大学院で学際情報学の博士号取得（同学府初の早期修了者）。人間とコンピューターが自然に共存する未来観を提示し、筑波大学内に「デジタルネイチャー推進戦略研究基盤」を設立。

○多様性や共生につながる視点

日本人は「同質性」が高いという強みを活かすべき

日本人は、同質性の高いコミュニティ。その強みを活かさないとダメだなという気がして。でも、同質性が極端に高くなってきた時はグローバルに敗北しているんですよきっと。昭和のはじめもそうだし、昭和の終わりもそう。明治のはじめもそうだし。次は平成じゃなくなるじゃないですか、オリンピックまでに。そのタイミングでどうやって同質性と受容性の高さを活かしたスタイルでモノを作れるかが大事。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

休みが自由に取れるようになるといい

将来の新しい仕組みとしては、もっと休みが自由に取れるようになるといいですね。兼業が重要だと僕は思っていて、もっとやったほうがいいと思うけど、兼業になるには、その前段階にあるのは何だろうと考えると、休みだろうと思っていて。日本って休みが自由に取れるようになってない、有休使わないじゃないですか。半分教育の問題で、キャリアマネジメントという教育をあまりやってこなかったの、それをやっていくにあたっては、不安がるユーザーをなだめないといけなくて、誰か羊飼いか牧羊犬にならないと。いつでも休めるようにするのは、リモートになっていて意外と平気で、だって、同僚がいなくてもとりあえず電話すればわかるじゃん、みたいな状態って、だいたい携帯電話があれば意外と成立している。

○表現の可能性や試行性についての視点

山手線っていう広大な空き地をうまく使いたい

東京の電車のネットワークについて、僕は夜の時間帯がポイントだなと思っていて。たとえば、LEDを外装に付けた電車はあちこちで走っているので、強烈なアニメーションがバー————ツと出ているとか、光の電車を走らせるのはいいなど。あとはごはんトレイン。ごはんを食べるトレインがあってもいい。山手線は人類史上最強のベルトコンベア、近代の象徴なんですよ。ベルトコンベアは商品が乗っているけど、東京では人間を乗つけたっていう。朝になると自動

で人が乗ってきて、詰め込んで、輸送する。山手線の面白いところは、山手線の外側と内側でよく議論があるように、あらゆる場所を通っているんですよ。だから、ビルから見えるようにするとか、ビルに向かって都市とコミュニケーション取るとか、光を放つ、音を聞く...いろんなことができる。山手線上で全然違うものが走っているとかでもありだし。あと、山手線の上空は空いているので、たぶんどローンが飛んでも大丈夫なはず。あの上でレースをやるとか。終電があるから電車が走っていない時間帯が確実にある。しかもそれが100%保証されている。山手線っていう広大な空き地をうまく使いたいですよね。深夜2時から朝の4時までには絶対に空いているんで。空いている時間帯は見つけられる。ダイヤグラムは一般道と違って正確なので。若しくは夜山手線の上に光を乗せて走れば、宇宙からも見える、見える。東京の環っか、リングみたいなのが見える。中央線まで入れたらけっこういい感じになるかも。

○それ以外の重要な視点

5G回線でこれまで現実的じゃなかったことができる

5Gになるはずなんですよ。5G回線についてはなんかやったほうがいいのかと思っていて、5G回線だとできるようになることっていうと、いわゆる動画配信より画像が重くていいので、たとえば立体で中継するみたいなことは全然できる。あと、よく言うのは、そのまま機械学習してもモデル取ってこられるので、任意の言語を翻訳しようとしたときに、その言語のデータベースに落としたりしてもいいし。今だったらソフトに落として準備するのに時間が3~4分かかるから現実的じゃなかったことが、その場でソフトも同時に落としながらなんかできるということはインターナショナルにはかなり強いと思いますよ。たとえば、海外の人としゃべるとか、逆に言うとコミュニケーションをとるみたいなのはめちゃくちゃ向いていると思う。

日本の中の距離の遠さの感覚を、海外ベースにラッピングし直すといい

外国人からしたら東京に遊びにきた人が京都に行くのは余裕なんですよ。これを意外と日本人は過小評価していて。石垣島まで行っても3時間なんですよ。全然大したことないんですよ。これね、僕らからすれば、東京に行ったついでに京都に行くってあり得ないじゃないですか。でも、向こうの人からすれば東京に行ったついでに京都に行くんですよ。で、この感覚をうまく新幹線使ってやったら、新幹線と羽田空港を使って演出したほうがよくて、なんか石垣行こうぜとか、石垣近いみたいな。なんか日本の中の距離の遠さの感覚を、海外ベースにラッピングし直すといいと思っています。

サンフランシスコに行ったついでにロサンゼルス行くのは普通じゃないですか。出張でロス行ったあとサンフランシスコ行って、サンフランシスコ行ったあとニューヨーク行って帰ってくるみたいなのは、けっこうよくあるじゃないですか。でも、実際ニューヨークからサンフランシスコはすごく遠いんですよ、国内換算では。我々ドメスティック換算でインバウンドの人たちの距離を測ろうとするからよくなくて。東京まで一度来てしまえば、石垣島に行こうが沖縄行こうが京都行こうが。北海道も人気で、距離は変わらないんで。なんか同じことすればいいと思うんですよ。山手線の改札口で北海道の釧路までの切符が買えるとか。

普通に定食屋入ってソーキソバ食べて、うまい！と思っても、その次の日に沖縄に行くことはまずないでしょ。だけど外国人からすれば、ノープロブレムで、朝一番にいて昼行って帰ってくるなんて全然できる。これはもう全然アリ。ただ、3時間で石垣島まで行けるってことを知らないし、それが次の日に押さえられるようなプランを考えてないんですよ。あれはね、紐づけさせることはできる。つまり地方までの距離は本質的には近いはずなんで、我々が遠いと思っているだけで、あまり遠くない。

5. 映画プロデューサー・小説家 川村 元気

聞き手：エヌ・アンド・エー株式会社 代表取締役 / 森美術館 館長：南條史生



プロフィール

1979年生まれ。『電車男』『告白』『悪人』『モテキ』『おおかみこどもの雨と雪』『寄生獣』『バケモノの子』『バクマン。』『君の名は。』『怒り』などの映画を製作。2010年、米The Hollywood Reporter誌の「Next Generation Asia」に選出され、翌2011年には優れた映画製作者に贈られる「藤本賞」を史上最年少で受賞。映画『君の名は。』は観客動員1900万人、興行収入250億円を超える大ヒットとなり、アジア各国で歴代の日本映画の最高興行収入を記録。欧米においても、ロサンゼルス映画批評家協会賞・長編アニメーション賞、シッチェス・カタロニア国際映画祭・最優秀長編作品賞を受賞し高く評価された。2017年、『LOST』『スターウォーズ』のJ.J.エイブラムスのプロデュースでハリウッドにて実写映画化が決定し、当プロジェクトに日本人プロデューサーとしての参加が発表された。小説家としては、2012年には初小説『世界から猫が消えたなら』を発表。同作は140万部突破の大ベストセラーとなり映画化された。2014年には、絵本『ムーム』を

発表し、同作は『Dam Keeper』にて米アカデミー賞にノミネートされた、Robert Kondo&Dice Tsutsumi監督によりアニメ映画化され、現在32の国際映画賞を受賞している。その他の著書として小説『億男』『四月になれば彼女は』、絵本『ティニー ふうせんいぬのものがたり』『パティシエのモンスター』、対話集『仕事。』『理系に学ぶ。』『超企画会議』など。本年は、3月公開の『映画ドラえもん のび太の宝島』脚本をつとめ、小説『億男』が大友啓史監督により映画化され秋公開予定。

○表現の可能性や試行性についての視点

人が集まるアイコンとなるものを作るという発想から始めるのも良い

ルーブル美術館のピラミッドやベルリンの国会議事堂のドームのような、象徴的なものはやっぱりみんな見に行きますよね。お金はかかるんだけど、場所に何かを建てるとアイコンになる。例えば皇居の前にこんなものが建ち、こんな人たちが集まってくる、という順番で発想する方法もあると思います。テーマの側からだけ始めると視野が狭くなったりもする。東京2020大会に外国人が来たときに「皇居前に面白いものが建っているらしい」みたいなことで人を呼び込んで、そこで日本が本当に見せたいものを見せる方法もあるのかなと。

いくつかのイベントや場所同士で連携して、グロスで大きいものをつくる方法は面白い

開会式だったり文化イベントがそれぞれ連携して、グロスで何か大きいものをつくるのがあった方がいい。例えば東京2020大会の中でつくった何かしらの造形物を転用して、開会式が終わった後、世界中に配信された開会式のあれが、ここにいったら見られる、触れるというのは面白いなと思う。それぞれの予算を合体させて、何か大きくて面白いものをつくるという発想もあると思います。

海外の人から見た東京や日本の評価を表現する方法もある

日本のことが好きな外国人の目線をうまく混ぜて表現するということがあります。何を自己アピールするかというときに、海外の人から見た東京や日本の評価を表現としてもいいのかなと思います。そこまで広げて考えないと何を発信するかを定めるのは難しい。

6. 株式会社ライゾマティクス代表取締役/クリエイティブディレクター 齋藤 精一

聞き手：エヌ・アンド・エー株式会社 代表取締役 / 森美術館 館長：南條史生



プロフィール

1975年神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD)で学び、2000年からNYで活動を開始。その後AmellGroupにてクリエイティブとして活動し、2003年の越後妻有トリエンナーレでアーティストに選出されたのをきっかけに帰国。その後フリーランスのクリエイティブとして活躍後、2006年にライゾマティクスを設立。建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマーシャルの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている。2009年より国内外の広告賞にて多数受賞。現在、株式会社ライゾマティクス代表取締役、京都精華大学デザイン学科非常勤講師。2013年D&AD Digital Design部門審査員、2014年カンヌ国際広告賞Branded Content and Entertainment部門審査員。2015年ミラノエキスポ日本館シアターコンテンツディレクター、六本木アートナイト2015にてメディアアートディレクター。グッドデザイン賞2015-2016審査員。

○人々が多様なつながりをみせること

参加したい人だけでもいい、みんなで一つのものをつくっていく

みんながひとつになれることを、全部越えて作るべきだと思っていたんですよ。2012年に作ったKDDIの増上寺と東京タワーを使ったCMも、この前の紅白でのRhizomatics Researchチームの演出もそれに近かったと思うんです。セルリアンタワーのところからウィーンって出していて、ちょっとうちからは見えなかったですけど、近くの人みんな見えていた。やってるものが見えてる。この関係を作ってあげるとすごい気がするんですね。そのコンテンツがなんであれ、音楽なのか、光なのか、なんであれ、みんなでひとつのものをつくっていく。

前書いたの（企画書）に、最初に暗くなって、被災地の方に黙とうをしっかりとしよう。その後港区からつけください、大田区つけくださいと。バーツとつきはじめて、最後にはバーツとついて。あれ良かったと思うんですけどね、お金かからないし。例えば、一万人のキャンドルナイトとかも。局所的に消しているんですよ。参加したい人だけ消していればいいんですよ。ブラックアウトする必要はない。全部消える必要はない。お金がないから、足し算はやめようって。お金がなきゃ引き算にしよう。

○国・地域のあり方が持続する仕組み・考え方をつくること

一般の人たちが、いつも入れなかったところに入れるようにする

東京がひとつになるイベントが僕は一番やりたい。東京のどこを使いたいかといえば、全体ですね。あとは、夜間活用されていなかったり、一般の人たちがまだ入れていないようなところ。新宿御苑とかわかりやすい例ですよ。夕方5時以降使ったことがない。街灯もないんですよ。環境省の管轄で、今、文化とか民間活用とかをやっているみたいですが。迎賓館も最近のものによってはイベント活用できるようになったんですけどね。これを機に、普段使っていない場所を含めて、代々木公園もそうだし、公安さんが管理している海辺のところだって、イベントのときだけは入れるようにしたりとか。東京ってどこなんだろう、というのがわかるようなイベントになると、いいような気がしますね。いつもは入れなかったところに入れるとか、いつも人がいなかったようなところに行けるようになるとか。一日なのか、一週間なのか。あとは道を止めるとかというのもですね。

シャンゼリゼの使い方みたいな実例は東京にも残しておくべき

行政がかかわることで、使えなかったところが使えるようになるとか、止められなかったところが止められるようになるといったメリットがあります。ヘリテージとかビヨンド的に残していくべきところは、イベント業界って一回実例ができる、それはもうできるという仮定のもとに物事が進むところ。例えば、渋谷区さんもそうですけど。スクランブル交差点が止められたという既成事実を一回つくると、次も止められるけど何しよう？ということになる。今回の東京2020大会も、幹線道路の大丈夫なところだけ、例えば青山通りを止めましょう、環二を止めましょうと。これだけの場所を使って、これだけの期間止めていても大丈夫で、そこにイベントがある。という、それこそシャンゼリゼの使い方みたいな実例は東京にも残しておくべき。

秋葉原みたいな電気街とか、漫画の街とか、そういうブランドをしっかりと残していかないとダメ

仕組みとして、国家戦略特区なのに申請すると所轄に降りてくる。要は東京都に出して、警視庁だ、消防だなんだと周って、結局じゃあ麻布警察署と直接やってくださいみたいなことになる。そうすると、都度申請と変わらないんですよ。行政連携みたいなところをしっかりと作っていったらいいと思うのと、ちゃんと地区ごとに特色を持つべきだと思っています。今開発ばかりやっていて、品川とかもやっているんですけど、ふたを開けて見られるのが2019年くらい。開き始めたらみんなビビると思いますね。みんな同じで、びっくりすると思う。みんな「グローバルに開け！」「グローバルから来るような街を！」「文化が育まれるアートがある街！」って言っています。だから、結局よかったものが全部なくなっていくんですよ。それが露呈するのが2019年とか2020年とかだと思うんですよ。秋葉原みたいな電気街とか、漫画の街とか、そういうブランドをしっかりと残していかないとダメだと思うんです。このままいくと、全部うわべが削られて特色がなくなるので、それがまずいかなと思っているんですよ。だから、それぞれの文化をつくっていく、もしくはイベントをつくっていく必要があると。

日本の消えそうなお祭りや儀式は、逆に盛り上がってくる

2018年は大分が国民文化祭なんです。で、うちが北九州の豪雨の支援をちょっとやっていたことから、大分のもちよつとつくってよと。また大分の日田市がいいんですよ。行けば行くほどいいですよ。飯もうまい、酒もある。川もきれいな。たぶん、どこ行ってもそうですよね、日本って。そういう発見がある。そうすると、そこで消えそうな灯みたいなお祭りとか、儀式とかは、逆に盛り上がってくると思います。神楽とかも年々増えているし。外国人も来るようになるし。ただ、特性が都心に一番かたよっているもの、明るいとか、街頭があるとか、人口密度が高いとかみたいなのは、都心がやるべきことかもしれない。

新しいつながり方をコミュニティの中で作っていった方がいい

祭りをもう一回復活させようというのは僕はあまり意味がないと思います。新しいつながり方をコミュニティの中で作っていった方がいいですよ。例えば、大田区は第三土曜日に必ず街全体でフリーマーケットをやっているとか。自転車のイベントをやっているとか。なんかわからないですけど、そういうブランドを東京2020大会を機につくっていくといいなとは思っています。ニューヨークだと、ローワーイーストの方で飯食って、トーゴでお茶飲んで、ちょっと上

がった coronas サークルの方で酒飲みながら音楽聴こうとか、ありますよね。日本はそういうのがあまりなくなりましたよね。それがすごく気になっているんですよ。あるジャンルのレストランがこちらに集まるとか、そういうのがいいですね。街をあげて、ちゃんとキュレーションしていった方が良いと思うんですけど、それをたぶん行政だけに任せると難しく。

○表現について 試行・許容・発見すること

今の日本の新しい見せ方をしたハンドオーバーをショーケースに

日本のエンターテインメントのあり方が変わっていると思うんですよ。前回のハンドオーバーとかを僕がすごく良かったと思うのは、伝統だけではなくて、今の日本の新しい見せ方をちゃんとやってくれたから。あれは、日本のコンテンツ産業のショーケースになった。ゲーム、アニメ、音楽、アイドル、ダンス、サブカル、テクノロジー、メディアアート。あとは、モーショングラフィックスとか、そういうグラフィカルなこと。それらが全体的にあったんじゃないかと。いい意味で飛び越えた感じがしたんですよ。事情がわかっている人間からしても、よくこんなことできたという。それってクールジャパンでもできなかったし、日本の見せ方としてはあの中に色々詰め込んだなとは思いましたよね。

日本のクリエイティビティの繊細さを発信できていない

細かいところをこれだけつめるのは、海外の現場ではないですよ。ものすごく綿密に色んなことを話し合っ、考えられるリスクを全部リスト化して、それに対するリスクヘッジをしておくという考えは、イギリスも近いものがあるが、フランスもないし、アメリカもそんなにない。建築を見たら、すぐにわかる。その繊細さは、日本のクリエイティブにすごく表れていると思う。それが日本のクリエイティブの良さなのに、結局日本のクリエイティブが外に発信できていない。たぶん日本人の性格性もあると思うんですけど、しれっとナンバーワンになってしまった車産業とか家電もあるのに。その一位をコントロールしないというか、調和の方向に向かうというか。

世界と戦っている人たちはキリギリ的な発想の人

アリとキリギリス論で、アリの時代は20世紀、キリギリスがこれからの21世紀だと思う。メルセデスの発想ってキリギリスじゃないですか。これはどうあれ、やりたいからやるしって。買うやついるから大丈夫って。一方のアリってというのは、全体の調和を、隊列を組むっていうか。今までの日本ってそうだったじゃないですか。今までもこれからもそうだと思うんですけど、クリエイティブ産業が勝つとなると、キリギリ的な発想の人、突拍子もない人がいないと。傍から見たらうちみたいなのもそうかもしれないけど、世界と戦っている人たちは比較的そういう人達が多いと思うんですよ。日本の産業って、調査をして、調和をすぐ考えるというか、そういう人が多いですよ、特にコンテンツ産業は。広告とかコンテンツは自分たちで作れるものもあるし、そもそも劇場がどうだとか、お金出してくれる省庁がどうだとかってこともあると思うんですけど、あんまり自由度を与えてくれないっていうのもあると思うんですよ。要は、プレゼンしても通らないとか、やれないとか。ぶっ飛びすぎてから、日本では理解してくれないだろうとかはあるような気がしますね。

祭りvsアートから、テクノロジーwith祭りに

越後妻有で光る風船をやったときは「祭りvsアート」だったんですよ、僕たちの中では。でも、祭りに惨敗したんです。諏訪神社のあの強さには勝てないと。ですが、それを十年後に「テクノロジー with 祭り」みたいな感じで考えたんですね。で、祭りって、僕も年を取ってくると、ねぶた祭りとかにいくと涙が出るんですよ。なぜかという、そこにいるすべての人の強度と、いる人の方向が合っている空間から、一つになっているんだと思うんですよ。きやりーばみゆばみゆさんがと昔CMをつくったときは、それをテクノロジーを使って、あのときはスマホを使ってできないかと思ったわけです。涙を流していただいたのはすごくうれしいですね。それは祭りを見ている感覚に近いと思うんですよ。

東京が一つになれることをしたかった

本来であれば、オリンピックって、きれいな目で見てみると、少なくとも東京が一つになれるじゃないですか。以前企画したのは灯りを消して、それで、新聞で五色の色を配るので、大田区さんは赤とか、港区さんは緑とか。真っ暗になっている中、皆さんスマホの上に色紙を置いて、上空から見ると、赤になっていたり緑になっていたりっていうのがやりたかったんですよ。

もう一日でもいいから、皆さんで一つになれることを

車を止めている人はハザードをつけてもらうとか。なんかそういう一つになれるイベント。テクノロジーを持っていても持っていなくてもいいんですけど。そういう一つのイベントをずっとやるべきだと思っていたんですよ。それはよく比較されるロンドンでもできていなかったとされていて。ピカデリーが参加したのも一部の人たちだけで、比較的ロンドンっ子とかっていうのは対岸の火事的に見ていたの。もう少しそれを全部、もう一日でもいいから、皆さんで。例えば、前に冗談で言っていましたが、今日は日本が金メダルをとれなかったから、負けたから、ちょっと街頭を暗くするとか。それぐらいのことでやると雰囲気が変わってくるのかなと。

○表現について試行・許容・発見すること

自発的に行動している民間に、国が援助する仕組み

海外に出すっていうのは大いにやるべきだとは思いますが、国が援助をしてとか、お膳立てしてとかっていうのはちょっと違う気がして。当たり前普通に普通に出ているわけで、福岡行くのか、ニューヨーク行くのかの違いだけなんです。もちろん、国がお膳立てして、やれクールジャパンだ、ショーケースだってやるのはいいですけど、もっと民間の方が変わらないといけないと僕は思いますけどね。そもそもの考え方とか、もしくは社内に一人でも英語をしゃべれる人間がいるとか。そういうことをやらないと変わっていかないので。それをやった後に、国の援助がついてくればいいと思いますけどね。

最終的には日本人が日本を知るきっかけに

海外からの旅行者の人も、日本人も、東京2020大会期間中は日本の色んなところに行くと思うんですよね。どこかの調査で、東京2020大会の期間中に外国の旅行者が東京2020大会に携わっているパーセンテージは6%、残りの94%は何かやっているんですよ。地方に行ったり、自転車に乗りに行ったり、最近だと走り屋みたいなぶっ壊れた車を買って、壊して帰るとか。群馬の山奥かなんかで、走り屋が事故った車を買って、サーキットでぶんぶんぶんぶん走って、中古で売って帰るっていう。そういう特殊な文化が色んなところにあって、その面白さが日本にはあると思う。日本全体を見よう！みたいなキャンペーンを外国人向けにやったら、意外と日本人が反応したとなるような気もしています。。

富士山のことを外国人と日本人のどちらが知っているかといえば、外国人の方が知っているんですよ。日本人は、あのたたずまいとしての富士山は知っているけど、あの周りにいくつ湖があって、どういう風に水脈が流れているかとか知らないわけです。東京2020大会は日本人が日本を知るきっかけになる、それを外国人の方々も一緒に垣間見ることができるといえるか、体験できる。大義名分としてインバウンドを取るためにとってやる方が予算も通りやすいし、企画も通りやすいと思うんですけど、最終的には日本人が色々気づいてくれるといいなと思います。

7. 株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター／クリエイティブ・テクノロジスト 菅野 薫

写真家、映画監督 蛭川 実花

聞き手：JTQ株式会社 代表取締役 谷川じゅんじ



プロフィール

2002年電通入社。テクノロジーと表現を専門に幅広い業務に従事。本田技研工業インターナビ「Sound of Honda /Ayrton Senna1989」、Apple Appstoreの2013年ベストアプリ「RoadMovies」、東京2020招致最終プレゼン「太田雄貴 Fencing Visualized」、国立競技場56年の歴史の最後の15分間企画演出、GINZA SIXのオープニングCM「メインストリート編」、「リオオリンピック2016大会閉会式 東京2020フラッグハンドオーバーセレモニー」、BjörkやBrian EnoやPerfumeとの音楽プロジェクト等々活動は多岐に渡る。JAAA クリエイター・オブ・ザ・イヤー（2014年、2016年）/カンヌライオンズ チタニウム部門 グランプリ / D&AD Black Pencil（最高賞）/ One Show -Automobile Advertising of the Year- / London International Awardsグランプリ / Spikes Asiaグランプリ / ADFEST グランプリ / ACCグランプリ / TIAA グランプリ / Yahoo! internet creative awardグランプリ / 文化庁メディア芸術祭 大賞 / Prix Ars Electronica 栄誉賞 / STARTS PRIZE / グッドデザイン金賞など、国内外の広告、デザイン、アート様々な領域で受賞多数。



プロフィール

木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映画『さくらん』（2007）、『ヘルタースケルター』（2012）監督。映像作品も多く手がける。2008年、「蛭川実花展」が全国の美術館を巡回。2010年、Rizzoli N.Y.から写真集を出版、世界各国で話題に。2016年、台湾の現代美術館（MOCA Taipei）にて大規模な個展を開催し、同館の動員記録を大きく更新した。2017年、上海で個展「蛭川実花展」を開催し、好評を博した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事就任。www.ninamika.com/

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

違うから美しいというスタートに立つべき

パラリンピックのフリーペーパー「GO JOURNAL」を作っている時に思ったのは、違うから美しいということ。違うから世の中美しいというスタートに立つべきだと思う。「同じじゃない、平等じゃない」というのはやっぱり違う。「多様な国の人がいったりとか、違う景色があったりとか、男女で違うから、やっぱり世界って美しいよね」というところに立つべきだと常に思ってる。（蛭川氏）

多様な人々というのが本気で全部がまじりあうというのが文化の世界

『GO journal』をやった時に、カッコいいだけでなく、もっと先に行こうと思ってたんですけど、すごく難しく、当事者の人たちが「カッコいいのにして欲しい」というのがすごくあった。その段階なんだなと思って、当事者である彼らを中心において、とにかくカッコよくとるというのを、徹底した。物事の基準を組み立てる時に人を中心を置いて、文化という側面から人にアプローチしていったらどうなるか。例えば多様な人々を中心においた時に、いろんな人がほとんどの意味で共生できている、あるいはできる。自然な形でそこにいるという状況が、実際形として見えたとなったら、それはすごい未来。それが基準になってきたら。多様な人々というのが本気で全部がまじりあうというのが文化の世界になってくるんじゃないか。（蜷川氏）

○表現の可能性や試行性についての視点

一度しかないことの尊さ

オリンピック・パラリンピックのすごいところは、世界中がリアルタイムをシェアするという。これは映画とはまた違う。それ以外にその瞬間を共有することがもうほぼなくなってきている。その瞬間に見ることにみんな価値を見出して、生で見ることとか、もしかしたら失敗するかもしれないというものに対して向かって行って、実際に何かしら失敗してもいいと思うんです。そういった生々しさみたいなところは、アスリートとかはまさにそうですけど、一度しかないことの尊さを感じることをやっても良い。（蜷川氏）

発表の場を与えるということは、文化的な表現にとって重要

パラリンピックは特にロンドン大会の成果として一番強く言われますね。障がい者による劇団や表現チームは元々ロンドンが最も多かったらしいです。ただロンドン大会までは細々と公演をされていて、それを好きな人というのめかなり限られているという中で地道に活動していた。ロンドン大会の時の文化プログラムで、たくさん公演があって、沢山の人が見に来る中、みんな大舞台を踏むことができた。それで意識が高まり、もっとやりたいと思う障がい者も増えて、、、と良好にまわったというのが、ロンドンの実績としてすごく強い。やっぱりチャンスを与えるというか、発表の場を与えるということが、いかに文化的な表現にとって重要なことかっていうのは、その際たる例。実際にそこで、ものすごい評判が良かった公演やディレクターの人は、ロンドン大会が終わった後も、ものすごいお客さんが入る公演を、ずっと開けるようになって、スター化しました。（菅野氏）

記憶に残るようなテーマがひとつあった方良い。例えばパラリンピックをセンターに持っていくとか

父が亡くなっていく時に、だんだん体が動かなくなって、身体を欠損している人と同じような生活をするのを見てきた。いずれみんなそうなるわけですよ。人と違う、健常者と違う体になっても生きなきゃいけないというのは、実は自分たちの問題でもあるのに、みんな誰も真剣に考えてない。私は父が車いすになってどれだけ不便かというのを見たし、それでもその生活の中で創っていくというのも間近で見ていた。ああ、パラリンピックに特化させたらいいんじゃないかな。2020年が終わった時に「あれ以降、明らかに障がい者に対する身体表現や社会に対する見方変わったよね」という未来は作れるかもしれない。テーマみたいなものをつくるとしたら、そういう風に企画した方が良いんじゃないか。記憶に残るようなテーマが一本あった方が良いと思う。広く浅くやるというのが一番難しい。（蜷川氏）

どのように「東京はすごかったね」と言われるとよいかを考えるべき

結果論から想像すると、終わった時に「東京はすごかったね」と言われると仮に想定して、その時どこに対して、「東京はすごかった」と言われると良いか。例えば「東京2020大会で出てきたよね」と言われるような全然名が売れてない若い人が何人も出てきたことなのか、「よくあれに任せた」この勇気を称えたいと言われるか、「思い切った金額をこれにあてたね」なのか、見たことないくらい渋谷が大開放になって、その時期は全く車も通らないように閉鎖されて、「すごい文化プログラムがそこでいくつも出てきてすごかったね」なのか、東京2020大会が終わった後に印象的に残るものを考えたほうが良い。（菅野氏、蜷川氏）

法規制の面で若い子にチャンスを与える

上海で展覧会をやったんですけど、とにかく取材に来る子が若い。若い子たちが、自分で決めれる権限を持っている。人数も違うし、年齢も違うんだけど、圧倒的に若い子たちにチャンスがある。私よりかなり年下の子が、「蜷川さんは商業とアート行き来してますけど、それについてどうお考えですか」と聞くわけですよ。そうすると「それは色々あるんだよ」「分かるか、君」と思わず前のめりになってしまう。今の中国の子たちってすごくチャンスがある、だから責任も生まれてくるし、生命力にあふれている。もちろん同じようにはできないんだけど、もう少し若い子にチャンスあげたい。例えばお金はこれ以上出なかったとしても、法規制を緩和して表現の面でチャンスを与えるというもある。（菅野氏、蜷川氏）

表現に対して寛容な場所を作る

2020年のこのタイミングだけはドローンがどれだけ飛んでもいい、ものすごい高度なプロジェクションをするなど、表現ファーストとしてアーティストに委ねることも必要ではないか。法規制などはその表現を実現するために、どんな方法であればできるかという手順で、特別扱いみたいなことを、色んなところで作った方がいいかなと思っています。今回だけの特例をやるのに、2020年は最もふさわしいタイミングだと思うんですよね。渋谷でこんなこと今までやってこないよね、と言われるような。やったことないことをやるということはアーティストにとって、非常に重要な表現のひとつ。「よくこれやったな」ということが、実は褒められることの半分くらいだったりする。だから、「よくやったな」ということを作らせてあげるような、表現に対する寛容さが重要だと思います。2020年のこの瞬間だけは東京も日本も、表現や文化に対して、全力で応援する。例えばこの数カ所だけはアーティストの言うことに委ねて協力するなど、もちろん法規制の専門家を横につけて調整はおこなうべきですが、難しいことだとは思いますが、意志を持っている人にドンとやらせてみる、というようなことも大事だと思う。（菅野氏）

○それ以外の重要な視点

基本は普段から素晴らしいと言われてることに磨きをかける

東京とは、日本とは、と肩肘はって難しいことをするよりも、冷静に日本で素晴らしいと言われているクリエイションや表現に磨きをかける方が良い。日本の良いところについて、実は盲目的になりがちなどころがある。黙って電車に乗るだけで、海外からは感動されたりする。電車が時刻通りに来たり、パブリックスペースの清潔感とかもそう。普段から素晴らしいと言われてることにより磨きをかけて、丁寧に対応していくということが、9割ではないかなと思います。（菅野氏）

08. Mistletoe株式会社 Founder 孫 泰蔵

聞き手：JTQ株式会社 代表取締役 谷川じゅんじ



プロフィール

1972年生まれ。佐賀県出身。東京大学在学中にYahoo! JAPANの立ち上げに参加。その後、インターネットのコンテンツ制作、サービス運営をサポートする会社を興す。2002年、ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社を設立、デジタルエンターテインメントの世界で成功をおさめる。その後も、様々なベンチャーの創業や海外企業との大型JVなど、ある時は創業者、ある時は経営陣の一人として、一貫してベンチャービジネスに従事した後、2009年に「2030年までにアジア版シリコンバレーのベンチャー生態系をつくる」として、スタートアップのシードアクセラレーターMOVIDA JAPANを設立。2013年、単なる出資にとどまらない総合的なスタートアップ支援に加え、自らも事業創造を行うMistletoe株式会社を創業。21世紀の課題を解決し、世の中に大きなインパクトを与えるようなイノベーションを起こす活動を国内外で本格的に開始、ベンチャーの活躍が、豊かな社会創造につながることを目指している。

○多様性や共生につながる視点

どこの国の人も自分の身近に感じられる仕組みを

平和という言葉の定義は難しいですが、すごくシンプルに考えると、どこの国の人であっても、自分と身近に感じられるってことだと思います。実際に会えば、どこの国のだって同じ人間です。だけど、実際に会う機会がなかなかない。たまに、日本は内向きだって批判する人もいますが、会ったことがなければ外に関心を持ちにくいのは当たり前です。例えば、Airbnbのようなカルチャーが浸透し、ホストするという仕組みをたくさん作ることで、いろいろな国の人を身近に感じられる機会を増やすことができるのではないだろうか。ホテルに泊まって、東京2020大会見て観光して帰るだけでは日本を魅力的に思うかという、そうでは無いでしょう。日本を好きになってもらうとか、もっと言えば、東京2020大会を通じていろんな国の人に出会って、国が違ってもしっかり同じ人間同士だと身近に感じられれば、平和に繋がっていくのではないのでしょうか。そういった意味でも、日本の多くの人たちが世界中から来る人たちをホストするような仕組みができれば良いと思います。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

若者がチャレンジできる環境をデザインする

運営に関しては、準備委員会とか企画委員会が企画を決めて上から落とすのではなく、若者が色々なチャレンジできる環境を用意する。僕らのような大人は環境デザイン側に回って、どんどんやっていいよと。別に大きいことじゃなくて良いと思うんですよ。例えば、選手村の全体のアーキテクチャーとかではなくて、選手の方々をおもてなしする機会、もしくは試合は終わった後、リラックスをして日本を楽しみたい人を案内する機会とか、できることは山のようにあると思う。日本の若い方々の中でやりたい気持ちはあるけど、こんな企画をしたら怒られるかもしれないと感じている人も少なからずいるのではないのでしょうか。僕は今の日本は暮らしやすい国ですが、あまりにもシステムが出来上がりがすぎていて、「自分が何かをして世の中を変えられる」という感覚を感じにくくなっていると思っています。会社に入っても、「自分みたいな平社員が何かやったところで会社を変えられるわけない」と決めつけている人も多いのではないのでしょうか。

これは決して誰が悪いということではなく、「自分たちが何かをすれば変わる」「世界や社会に働きかければ、実際に自分が思う方向に良くなる」という経験がないからなんです。自分たちが描いたものが実現するという実感を持てれば、将来の復興とか未来に繋がっていくと思います。

そのため、僕は特に若者が自発的に様々なことを運営できる環境を作るということを大切なコンセプトにしたら良いのではないかと思います。どこで何をするか上から決められたことばかりになると、結果的に冷めた東京2020大会になってしまうのではないのでしょうか。

「シェア（共有）」と「総有」

最近、2つのテーマに注目しています。1つは、「新しいコモンズ」を作るということです。これまでのコモンズは、公的機関が創り提供される共通の施設や資産でした。しかし、新しいコモンズでは、行政や民間ということは関係なく、みんなでシェアをして作りあげるものにしたいと考えています。例えば、海外から来た方々をホストする際に、みんなで一部屋ずつ出そうとか、この時間だけトイレを出し合おうとか、そうすると町全体に泊まれる場所や公衆トイレができます。また、その町のヨガ好きな人同士で集まれば、空いている建物の屋上や庭が巨大なヨガスペースになります。これは、従来の公民館や多目的ホール作って、そこのヨガの講習やりますということと、目的は同じですが、作り手と使い手が一緒になっているという点でプロセスが違います。そのため、情報ネットワーク、プラットフォームが1つであるかのようにうまくオペレーティングするというのがシェアを基にした新しいコモンズの考え方だと考えています。もう1つは、「総有」です。「シェア（共有）」と「総有」は似ているように感じますが、実は違うんですね。

「共有」っていうのは持分という概念があります。例えば、共同のマンションは、マンションの1室1室は自分で持っていてそこは売却できますよね。つまり、その持ち分に関しては、売却とか分割請求ができるということが共有です。それに対して「総有」は、持分っていう概念はなく、みんなが持っている総有物の使用权や収益権はみんなに分配され、売却はできません。わかりやすい例でいうと、漁業組合です。漁業権を持った漁師さんたちが、みんなでその海を守っているのだから、そこで取れる海の幸は漁師さんのものですよね。もちろん、海は持ち分に分割できないので、海自体は、みんなで持っているってことになるわけです。だから持分を売却することもできません。我々の中で、この考え方はすごく良いねと話をしているのですが、その理由がオーナーシップです。

オーナーシップがあると、個々がサステナビリティを意識するようになります。もちろん、自分もオーナーなので、何かあれば言いたいことを言うことができます。オーナー同士で議論した際には、多数決ではなく意見を出し合って、とことん議論し尽くすようになるのではないかと考えています。

これらの環境をデザインする上で、お金に変えられない価値を交換できるトークンエコノミーのようなシステムがあると良いのではないかと考えています。あえて貨幣とは切り離れた経済を作り話すことで、知識や体験など色々な価値交換が進んで行くのではないのでしょうか。

09. ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTS 主宰 田根 剛

聞き手：エヌ・アンド・エー株式会社 代表取締役 / 森美術館 館長：南條史生



プロフィール

建築家。1979年生まれ。ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTSを率いてパリを拠点に活動。2016年に開館した〈エストニア国立博物館〉では旧ソ連軍の軍用滑走路の延長に建築を設計し、話題になった。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

経済が出ると負けてしまうのは、文化を経済側の言語で語れていないからじゃないか

日本では経済と資本が一緒に考えられているが、経済と資本は別のものだと思う。資本主義は封建制以後、近代の生産様式だけ、経済は古代からある。文化文化と言いながら、経済の話題が出ると文化が負けてしまうのは、文化を経済側の言語で語れていないからじゃないか。

モノがある、そのモノ自体を資本主義だと、すべて資本で語ってしまう、すべてを数値化してしまう。建築の分野でも、日本は建物を数値化できる資産という価値でしかとらえていないように思います。でも、文化は資産でなく財産だと思う。例えばイタリアは、経済力（資産）という点では日本に劣るけれど、文化というものを財産と考え、守ってきた歴史があり、財産はたくさん持っている。イギリスなんかもcreative industryというコンセプトを打ち出した。すぐ数字にしてダイナミズムを生もうとするけれど、そんなことを繰り返していると文化が失われてしまうと感じるし、こういったラテンの文化（気質）も大事じゃないか。財産は数字じゃない。

○表現の可能性や試行性についての視点

日々の生活の中に、フランスで喜ばれるものとのギャップがある

日本と中国はどう違うか。と聞くと、中国はパワーだ、日本はエレガンスだと。そういう認識が海外では非常に強い。とすると、日本が推すべきものはその辺ですかね。文化力、食文化、建築文化、その辺がすごく評価が高いのに対して、日本に帰ってくると触れてもいない。日々の生活の中に、フランスで喜ばれるものとのギャップがある。彼らが好奇心を感じる日本、日々の生活の中にある日本らしさは、自分と同世代の一般的な地元の友人には、考えにギャップがあって遠いなど。

フランスの人たちからの、日本に対する敬意と好奇心と尊重みたいところはすごく強い

フランスから見ていると、10年前日本はエスニックな見え方だったけど、震災以降のこの5~6年間は、フランスの人たちからの日本に対する敬意と好奇心と尊重みたいところがすごく強くなっている。特にこの2~3年は、活動（日常生活）として日本が表に出てきたり。今回日本に帰国するときもびっくりしたんですけど、空港の警備員が「行ってらっしゃい」って言うんですよ。警備員が日本語を覚えているくらい、日本への関心はすごいことだと思います。

「やわらかい」「あたたかい」という感覚や概念を日本から発し、今に伝える意味がある

ハードなものでかっこよく作っていくじゃなくて、もてなしや優しさ、精神的な心地よさとか快適さとか、そのものが持っている感性的な部分。感覚的にいうと、「やわらかい」「あたたかい」という感覚や概念を日本から発し、今に伝える意味があるんじゃないか。

ええじゃないかみたいなのは、大切。

江戸の町人文化みたいなものは、整理されていないけれど色々なものが流転しながらぐちゃぐちゃの状態のまま盛り上がる。食、生活、家族形態とか街とか祭りの文化とか職人の粋とか歌舞伎の華やかさとか、それに対する浮世絵とか春画とか。そういう多様なものがばんばん花火のように起こって、一回おじゃんになって、またがんばろうみたいな。

「ものあはれ」という中世の美意識とはまた違う、「ええじゃないか」という社会の余裕や許容力文化も大事な。今はそれが何かが起こったりと変わったりすると「しょうがない」という諦めの方にいってしまうが、「ええじゃないか」みたいなのは、（これからの日本社会に）大切だなと思いました。

10. 株式会社侍 代表取締役 為末 大

聞き手：株式会社ロフトワーク取締役 林千晶



プロフィール

1978年広島県生まれ。スプリント種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。3度のオリンピックに出場。男子400メートルハードルの日本記録保持者（2017年3月現在）。

現在は、スポーツに関する事業を請け負う株式会社侍を経営している。主な著作に走る哲学、諦める力など。

○多様性や共生につながる視点

自分が抜けて自分の体が器になるという感覚

僕はオリンピック・パラリンピックで記憶に残っていることが二つくらいあります。一つは、僕が最初に出た2000年のシドニー大会のとき。当時オーストラリアは「ワンオーストラリア」というコンセプトにしていました。現地住民と移民でいさかいがあるようなものを、大会を機に一つになろうというコンセプトだったんですね。（オーストラリア代表に）キャシーフリーマンという方がいて、彼女にほとんどの期待がかかるという状況の中、最後の直線で抜いて優勝。隣の人の声が聞こえないほどの歓声が3分ほど続き、競技場が揺れているのに、キャシーフリーマン本人は茫然とそこに座って天を見上げて動かなかったんです。皆が喜んでいる中、主役は魂が抜けているような状態、異様な風景。我に戻ってウィングランをするんですけど、キャシーフリーマンはその試合がほぼ最後。そのあとは一回も確か勝てないまま引退していくんですね。人間の極限の力が出る舞台装置という意味で、オリンピック・パラリンピックはすごいなと思いました。

最後の最後の主体性のなさ。キャシーフリーマンが自分の意志で走っていたかわからないけど、自分すら器になったような感じで走っていて。古来宗教のケチャとかで最後にトランスに入ると、自分が抜けて自分の体が器になるという感覚があると思うんです。ああいった祭りが持っている祝祭性みたいなものがあるのではないかなと。

ボーダーがなくなっているような

僕にとって最後の大会だった北京のとき。選手村は24時間空いているので、コーヒーでも飲みに行くかと深夜2、3時まで座っていました。そのとき北朝鮮の選手が何かを探していて、後ろに座っていた、韓国の選手がそれをとって渡したんですね。その自然さがすごいなと。各国の代表であるより、アスリートであるというアイデンティティの方が出ている。あのボーダーがなくなっているような感じが最後の最後に面白いなと思いました。

共感がずっとごちゃごちゃ混ざっているような世界は面白い

例えば、長嶋さんが「ビュンときてガンなんだよ」という話をするじゃないですか。ほとんどの選手は分からなかったのに、松井さんは一人うなずいていたという話があります。何かというと、過去に体験したことがある人は分かるんだけど、そうじゃない人には言葉をつくさないとならない。スポーツ現場の矛盾って、体験したことがない人には論理的に説明しても、体験と異なるので本当の意味ではよく分からない。だから感じてみるまで、言葉すらうまく伝わらない。

体感してみることによってコミュニケーションが成立するというのは技術の世界ではあるんですけど、アートの世界でもあるのではないかと思います。同じものを見たとか、同じ体験をしたことによって、それらが感じられるような世界。今の技術では感触などがあるのでは。誰かが触った感覚を皆で味わったり、共感がずっとごちゃごちゃ混ざっているような世界は面白いのではないかな。

皆が違うんだけど、同じように感じられる機会があったら

インディビジュアルという分けがたい個性的な個人がある、ということが多様性ではないですか。そこに矛盾をいつも感じていて。もし分けがたい個人がなければ多様性と言えるのかなと。そういったところに世の中の揺らぎがある気がして。皆が違うんだけど、同じように感じられる機会があったら面白いなあと。

力みがないというのはとても重要、慣れると偏見はなくなる

豊洲の施設（新豊洲Brilliaランニングスタジアム）は、義足をはめたりするところがあるのですが、風景としていいなと思ったことが二つあって。栗栖さんが車いすの人の演技についてめっちゃ怒っていたんですよ。車いすの人がめっちゃ怒られているって、絵として結構衝撃で。もう一つは、義足の人や耳が聞こえない人を子どもたちが気にするのは最初の2回くらいまでで、障がいのある人に声をかけなければいけないというものすら（感じ）ない。力みがないというのはとても重要だなと。慣れると偏見はなくなるというのは思ったこと。パラリンピックにフォーカスするとしたら、障害ってなんだろうなということを考えます。いろいろ不便だなとは思いつつ、障がいはどう捉えたらいいのかなと。「チャレンジド」と海外では言うけど、何か力みがあるような。「チャレンジする人」って、皆しているだろうって気もして。いい言葉はないですかね。特に力みなく、足がない、手がない、耳が聞こえないということを社会が、とはいっても困ることだったら（力を）合わせて、というような感じ。スペインに行った車いすの選手がいて、スペイン人に話しかけられたら彼が通訳してくれるんですけど。そういう「困ったら、できる人が助ける」という社会の補い合いは、一方的に助ける人と助けられる人がいるという構造じゃない方がいい。それは思いました。

パラリンピックは関わる領域が許されている、残されている

オリンピックというのは関わるのが極めて難しいですけど、パラリンピックは関われるんですよ。まあ反対に言うと、助けないとできない競技が多いので。関わる領域が許されている、残されているというか。オリンピックに関わろうとなると、コーチになるとかそんな世界になるのですが、パラリンピックの場合は盲目の方を案内したり、本番で場所を教えたりというガイドが残されていて、参加者やサポーターが増やせる構造になっていて楽しいんです。

つなぎにいつつなげるのではなく、常時接続の仕方

過去に例があると思いますが、例えばブータンのカフェと日本のカフェがずっとつながっていたら。VRをかけたら非日常、外したら日常みたいな感じではなく、ずっとつながっていて。向こうでブータン人がコーヒーを飲んでてこっちも飲んでいてみたい。他の国でもいいんですけど、つなぎにいつつなげるのではなく、常時接続の仕方。本当につながっているような状況で、意識すらされないとなったときに、そのときの感覚ってどうなのだろうと思って。具体的には、地方の一カ所が何の力みもなく東京やバルセロナとずっとつながって、そこになんでもないおじいちゃんたちがお茶を飲んでいて、向こうではサッカー見ているみたいな空間をつくったらどうなんだろうなど。

「見えている世界がすべてだっけ？」という空気をつくる

僕は妖怪ウォッチって面白いなと思っていて、寝坊したのも妖怪のせいだったという感じなんです。起きている出来事はすべて妖怪のせいだと。雨が降ったら、それも神様が降らせたというように。現実社会ともう一つ別の世界がパラレルワールドでできていて、ときどき交差するという感覚。ああいうのは技術的にできるのだから、現実にも「八百万」をホログラムなどで出して世界観をつくると、「見えている世界がすべてだっけ？」という空気が出て面白いかなと思ったんです。

もっと体感的なつながりと、思い込みからどんどん放たれていく体験を

英語が得意ではないのかもしれませんが、インターネットで世界とつながったと言っても、「テキスト的」ではないかという気がして。ぼんやり眺めていると、活字の情報が多くはないですか。まあピクチャくらいはありますが。でも、もっと体感的なつながりがあった方がいいのではないかと。ブラウザがインターネットというには、あまりにもインターネットは狭すぎる気がします。そういうのと、人間がそうであるという思い込みからどんどん放たれていく体験があると、とてもいいなあと。

パラリンピアの世界というのは彼らの言葉以外で表現できていない

僕はパラリンピアの取材をしているんですけど、当たり前のことですが、同じように見えていて違う世界を生きていたりもする。そういうことを聞いているのが面白くて。例えば、全盲のサッカーの選手が「フェイントをかける」と話しているんですけど、考えてみると面白いではないですか。相手も見えていない。フェイントはつまりコミュニケーションなんだと。コミュニケーションなくフェイントはなくて、「僕はこのようなことをしたいよ」ということ（感じさせること）と、実際ははずすのがフェイントなんだと言う。それらが複雑に交差しているんだと。そういったことを僕は毎日考えているんだけどねって、結構深いじゃないですか。「僕らは目が見えないから人の気持ちが考えられないと生活できないんだ」とか。そういうパラリンピアがぼそぼそ語る世界観って面白くて、深く入ればすごく本質的な話だし。そういう世界というのは彼らの言葉以外で表現できていないので、そういうのを表現したりしても面白いなと思います。

神仏混合みたいな解釈を探す

日本は色々なところからもらってきている感じではないですか。色々なものが向こうから来て日本風に解釈していません、みたいなのが伝統というか。神仏混合みたいな解釈というんですかね。そういうのをいっぱい探したら面白いものが出てきそうだし、なんでもありというものもそれっぽくなったりする。うまく表現できないかな。

○それ以外の重要な視点

オリンピック・パラリンピックには「何かを表現して披露する」というような概念がある

スポーツとアートという文化プログラムというと、まずはスポーツをして文化もくっつけてしまいましょう、そんなところから来ているような気がするのですが、今、私は「デポルターレ」という名前で活動をしています。スポーツとテクノロジーをやりましょうというものですが、スポーツの語源はフランスの「デスポルト」、もともとはラテン語の「デポルターレ」と言われています。「デポルターレ」は辞書で引くと、「憂さを晴らす」「表現をする」「遊ぶ」といったものも入っていて、「詩を読む」「歌を歌う」というのも「デポルターレ」なんです。競争という概念が入ってきて大会になってきているんだけど、もう少しさかのぼると「人が何かを表現して披露する」というようなことだったと思っていて。そういうところから考えると、オリンピック・パラリンピックやカルチュラル・オリンピアドみたいな世界は無理やりくっつけているのではなく、そもそもそうだったねみたいな世界観では、と僕は納得がいつているんです。

日本を完全に消してしまっって人類の祝祭みたいにする

オリンピック・パラリンピックはともするととも国籍を強調する舞台。でもありますが、中の中まで入っていくとボーダーが下がるみたいな、同じ人間じゃないかという空気。皆いろいろ頑張ってきたアスリートだよ、みたいなことの方が国籍より強く出る感じなんです。今まで出てきたオリンピック・パラリンピックというと、中国ドカーン、アテネ発祥の地、ロンドンという感じできていて、日本がそっち（開催国の強調）にいくというのもありつつ、一方で、日本を完全に消してしまっって人類の祝祭みたいにするというのも、今までのオリンピック・パラリンピックの文脈からして正しくて面白いのではないかと思ったことがあります。

11. 株式会社アミューズ 代表取締役 社長執行役員 畠中 達郎

聞き手：JTQ株式会社 代表取締役 谷川じゅんじ



プロフィール

1957年11月、神奈川県生まれ。78年に、創業当初のアミューズに入社。99年、マネージメント部門担当執行役員。2001年、常務取締役マネージメント部門担当。副社長を経て、2007年6月、社長に就任

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

会場候補はまだまだあるはず

今、2年くらい先までコンサートや舞台、イベント等の会場が取れないという問題は、当然大きな規模の会場もそうですが、小さな会場にも影響が出ています。1万人が取れないと5,000（の会場）を2 DAYS に、5,000が取れないと2,500を2 Daysに、2,000の会場がないなら1,000位の会場に、となると全部が取れないという状況になってきます。先を見据えて継続する試みを考えるにも、会場が無いのでなかなか難しいということになります。では、会場を新たに作るしかないのかというと、他に選択肢が無いわけではなく、非劇場空間やパブリックスペースの規制緩和による仮設の会場や、パブリックな場所として実際は貸し出しはされていないのですが、例えば大学や企業がお持ちになっているようなホールやアリーナ、体育館等、オープンにはなっていないけれども、そういうところは東京近郊にも多く存在しており、新たな可能性があるのではと考えます。

規制緩和で、これまで出来なかったことが可能になるのではないか

あまり人の行かないところで催事をやろうとすると交通費・宿泊費がすごく負担になるのですが、例えば規制の緩和により、その地域の施設を民泊という形にして使えるようにして経費を下げるとか、そういう施策をちよつとずつつなげていくと、今までできなかったことや、わざわざ見に行ってみたって思うようなイベントが作れるのではないのでしょうか。どんな場所や都道府県でも、可能性は結構色々な所にあると思います。

そこに行けば何か面白いものに出会えるという場所

ロンドンのウエスト・エンドやニューヨークのブロードウェイのように、日本にもそういうエンタメの集積地があったらいいのではないかと、それこそシャランゼリゼではないですが、東京の中心街でもメイン通りを劇場街にしたいというお話も伺うことがあります。海外のお客様は日本のエンタメを探すときに、どこに行ったら、何をやっているのかがバラバラでわかりづらく、なかなか辿り着けないと聞きます。しかも上演チームが短い作品が多いので、どこの劇場でどんな作品があるのかも分かりづらかったり、チケットの購入方法がわかりづらいというお話も多いと聞きます。国内のエ

ンタメ作品の多くは海外からのお客さんも意識して演目をつくるということを考える前に、目の前のお客さんに向けて作る事が多い現状があります。今後の課題は見えていると思うのですが、リーチに至らない現実というのもあると思います。

一方、京都でロングラン公演をしている、「ギア-GEAR」が5年くらいずっと100キャパくらいの会場でやっていて、公演を続けていく事でロングランならではの改善やアイデアが加えられて、とても素晴らしい内容になっていると思います。海外からのお客様も意識されたナンバーバルな演目なのですが、とても楽しく拝見出来て、最後にちょっとホロっとくるような作品を作られていてリピーターも多いと伺っています。

毎年夏に開催されているイギリスのエジンバラフェスティバルの様に、劇場は勿論ですが非劇場の空間やレストラン等でもパフォーマンスが行う、世界中の人達が集まる様な事を日本でも出来たらいいですね。

「tkts」みたいな場所は、海外の人への情報発信基地になる

ニューヨークやロンドンの劇場街の中心にある「tkts」（劇場街のチケットを割安に売るブース）の様な場所が東京にもあると、エンタメの情報発信場所になると思います。海外の方が日本に来て、演劇、コンサート、伝統芸能、アート、スポーツは無論、日本のコミックやアニメを原作にした2.5次元ミュージカル等観たいといった時に、そこに行けば全ての情報が一覧になっていて一目でわかるエンタメプラットフォームです。東京でエンタメに触れたい時はここに行けば良いという場所があったらインバウンドは勿論、国内需要も高まるのではないかと思います。

キャラクター性がある街には回遊する楽しさがある

銀座とか表参道あたりは街を回遊する楽しさがありますよね。街歩きをして楽しい街にはキャラクター性があります。表参道、渋谷、青山エリアというのはファッションとカルチャーという匂いがあると思いますし、上野や六本木はアート、池袋や秋葉原はコミックやアニメの聖地になっています。

舞台、ミュージカルを始めとするエンタメにおいても、新たな集積地ができれば、日本のエンタメの街としてのキャラクターとなり、新たな需要をもたらしてくれるのではないかと考えます。

○表現の可能性や試行性についての視点

日本は、通りで何かを仕掛けるべき

表参道の街灯に今小さなLEDがたくさんついていて、その点灯チェックみたいなものをやっていたのです。点灯チェックなので、片側はついていないし、向こう側がたまにパツとついたりします。また、期待して（点灯を）ずっと待っていると、期待しているタイミングでこなくて、えっというタイミングで点灯したりします。表参道のこのイルミネーションは、点灯チェックだけでドキドキするイベントになっていてすごいし、やっぱり日本は、通りで何かを仕掛けるべきなのだと思います。

作り手を後押し出来る環境整備を

新しいエンタメの施設を作るにせよ、従来の建物や施設を改築によって新しい建物を作ってしまうと建蔽率が下がり小さい建物になってしまったり、手を入れられない事により思ったものが作れないという話は我々にも聞こえてくる話です。東京は勿論、地方都市においても、新しいクリエイションが規制の緩和によって出来るよう後押ししていただけると、アイデアを持った日本の優秀なクリエイターや、アーティスト、事業に携わる方々が積極的によりよいエンターテインメントを作っていけるのではないかと思います。

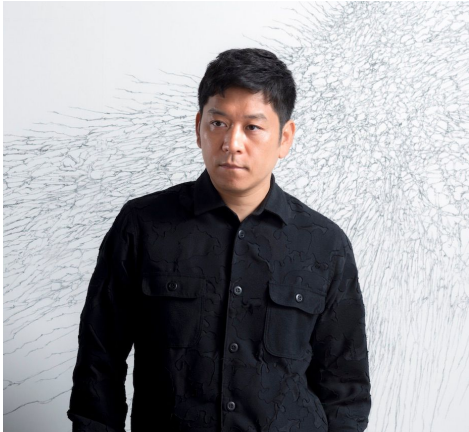
日本をもっともっと楽しめる国に

これから関東圏では2020年前後に向かって、コンサートホールや劇場、アリーナや文化施設が数多く出来る話を伺っています。現状から数万単位以上のキャパシティが増え、なおかつ2020年に向かって、改修や改築、建て替えが進んでいる会場も全て出来てくるという中で、2020年は勿論、オリンピック・パラリンピック以降も見据えて、そこに多くの方の才能と情報を集積させて、魅力的かつ発展的な文化環境を整え、日本のエンターテインメントが国内はもとより様々な国からいらっしゃる方々に、より広く、より深く、日本という国、日本のエンターテインメントを楽しんでいただける環境を作っていくべきではないかと考えます。それは、少し工夫をすることで始められることもたくさんあるように思います。それまで直接エンターテインメントに結びついていなかった、既存のモノ・サービス・環境を、少し発想を変えたり規制を緩和し活用していくことでエンターテインメントを活性化できたり、あるいはそれらの特徴を整理したり、明確な方向感を持たせたりして、丁寧に情報発信することで楽しみやすいブランドを作ったり。

国・地域・民間・個人ひとりひとりが知恵を持ち寄ることで、国内外の方にとって日本をもっともっと楽しめる国にしていきたいですね。

12. 彫刻家、京都造形芸術大学教授 名和 晃平

聞き手：JTQ株式会社 代表取締役 谷川じゅんじ



プロフィール

1975年生まれ。彫刻家、京都造形芸術大学教授。独自の「PixCell」という概念を基軸に、作品を構成する要素や質感を追求した作品を展開する。2009年より京都・伏見区に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げ、様々なプロジェクトに携わる。2011年

写真差し替えには東京都現代美術館で個展を開催。2013年には瀬戸内国際芸術祭やあいちトリエンナーレへ参加。また、韓国・チョナン市に巨大な屋外彫刻“Manifold”を設置するなど、国内外で精力的に活動する。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

その地にプラスのエネルギーが蓄積され続ける芸術祭の仕組み

先日、沖縄に行く機会があって、「やんばるアートフェスティバル」をみてきました。吉本興業が古い廃校になった小学校跡を舞台に、アーティストを20名ほど集めて、アートフェスティバルを開催していました。まだこじんまりした印象はありましたが、取り組みとしては今後に期待が持てると思いました。全国各地で芸術祭が開催されていますが、沖縄ではあまり大きくて印象に残るものがなかったんです。ただ、最近の芸術祭は行政の街おこしイベントになってしまいがちなので、その地で行う意味や意義を参加するアーティストが感じ、考え、見に来られる一般の方々に表現として伝わるものになったら良いですね。一過性のイベントではなく、その地にプラスのエネルギーが蓄積され続ける仕組みが大事だと思います。

海外で活躍するクリエイターの功績や能力を、国内に還元する仕組み

国の文化力というものを50年スパンで考えるべきだと思います。現代美術で言うと、例えば意識の高い若手の作家が欧米に出て行き、そこで10~20年エネルギーを注ぎ続けたとします。しかし、その経験豊富なミッドキャリアの作家達を国内で暖かく迎え入れる仕組みが日本には足りないんです。年齢も上がっているのに、国内でのポジションを確保しづらいんですよね。どんなクリエイターでも、求められると国内外での活動に注力し、実績をあげていきますが、アートシーンのインフラは欧米の方が盤石ですから、どうしても軸足はそちらに置かざるをえなくなります。海外の重要なギャラリーや美術館で日本の作家が個展をしたとしても、国内で知られることがないまま過ぎ去っていきます。その功績や能力を日本国内に還元できるようにした方がいいと思います。今は優れた作家達が海外で個人戦を続けているような状態。より大きなステージに立とうとする作家達はやるがいっぱいで、クリエイション以外のセルフプロデュースに奔走して消耗してしまいがちです。自身のクリエイションに集中して、そのパフォーマンスが最高潮に達するよう、もっと全面的にサポートすべきだと思います。この「サポート」と「還元」が最も効率良く文化力を引き上げ、プラスのサイクルを生むのではないのでしょうか。

○表現の可能性や試行性についての視点

ジャポニズム2018（パリ）への参加に向けて

今年パリで行われる大規模なジャポニズム展のなかで、ルーヴル美術館のピラミッドに大型の彫刻作品を展示することになりました。GINZA SIXの蔦屋で展示している「Throne(g/p_boy)」をトランスフォームして、高さ10.4メートルに巨大化させたものを現在制作中です。ピラミッドは何千年も前に建造され、まさに権力・権威の象徴です。人間の社会やその歴史を眺めた時に、権力・権威というのは、時代ごとに形を変えながらも存在してきました。そして今後もそれはなくなっていくんじゃないかと思うんです。しかし、コンピュータが加速度的に進化して、AIが政治や経済を司るようになったとしたら、国家さえもAIに従わざるを得ない状態になるのではないかと、そんな予感を「浮遊する玉座」として、表現しています。不在の玉座なので、裸の王様ならぬ、透明の王様ですね。山車や御輿などの造形的な要素が有機的に積み重なり、ピラミッドの中央に現れる予定です。

日本のアートと世界のアート、その距離感

戦後、日本の現代美術は感度の高い美大生やその卒業生が欧米に渡ったり、そこから雑誌や本を取り寄せて自習することで進化してきた経緯があります。いわゆるアメリカ的、イギリス的なアートがアートシーンの潮流を作っているという紹介のされ方をするので、ギャラリストもアーティストも日本にいながらにして、意識のアンテナはずっとそちらに向けているわけです。逆に日本のアートが書籍化され、定期的に海外で紹介されることはないで、欧米では日本から乗り込んできたアーティストがとにかく珍しく見えるでしょうね。でもその奥にある文化的なコンテキストや周辺の作家の影響関係まで汲み取って理解されることは本当に稀です。草間彌生さんや村上隆さんなどは、欧米のアートシーンでも広く認知され、リスペクトされていますが、それはまず欧米で認められ、築いた素晴らしいキャリアがあるからなんです。日本から発信するだけでは、どうしても単発で終わってしまいますよね。欧米のアートヒストリーに切り込む戦略を持たない作家が世界のアートシーンで生き残れないのは、単に情報不足で理解しづらいことが理由のひとつだと思います。日本国内におけるアトリテラシーや芸術教育のレベルが低いことも、全く同じ構造を生み出しています。

13. 松竹株式会社 演劇本部 執行役員 統括部長 船越 直人

聞き手：JTQ株式会社代表取締役 谷川じゅんじ



プロフィール

(66年11月生まれ。慶應義塾大学卒業後、91年に松竹株式会社に入社し、歌舞伎座支配人等を経て現職)

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

休眠地の美観を揃える、高さ制限の規制緩和

私は歌舞伎座の建て替え工事を担当させていただいたのですが、休眠中というかおやすみの工事期間中は（建物を）仮囲いっていうもので囲いますよね。諸外国だと、例えばパリのオペラ座だと、今までであったような風景を全面にラッピングする。東京の場合は高さ制限があって、そんなに高いものができない。そうするとやれる範囲がしょぼくなっちゃうのですが、そういうものができるようになると、例えば東京2020大会の期間、あるいはお祭りの期間でも、東京都内の休眠地が美観的に揃うというか。そういうことになるような規制緩和っていうものは、あった方がいいんじゃないかなって常々思っていました。

クリエイターとして考えるとやっぱり規制緩和の可能性っていうものは欲しい

歌舞伎座の2周年だかに、デジタルマッピングやろうよっていう話になったんですけども、東京都の東京駅の前例があって、非常に問題になって、警視庁ではちょっと規制がかけられちゃう。築地警察に相談に行ってもやっぱり東京駅の前例があって大混乱になっちゃうのでやめてほしいっていう話になり、デジタルマッピングではなく、ライトアップの色を付けるようなイベントをやったんですね。そういう意味では、規模感がスケールダウンしたかなっていう気はする。そういうところの規制緩和っていうものは、通行人の混乱という意味ではあんまり緩和しすぎてもいけないかなとは思う一方で、クリエイターとして考えるとやっぱり可能性っていうものはどこか欲しい。

有識者の第三者機関が規制の判断をする

商業目的が主ではない屋外広告規制を何らかの有識者の機関が評価するというのは、とてもいいことだと思いますね。実例を出すと銀座はそうで、銀座の建築物のデザイン会議は銀河通り連合会が判断していて。それは中央区が権限を委託しているわけですよね。だからそういう第三者機関でやった方が、その土地土地の風土にあった判断、地域の声が生きて言うメリットといった、膨らみがありますよね。

規制を全部取り切って、できた事例もある

銀座通りとか晴海通りで新開場や襲名での祝祭行事であるお練りを行うときは、交通の動脈になるところを長時間にわたって止めるわけにはいかないということで、ちょっとしょぼい形のイベントで終わるってことが昔からありますね。逆にやれたことだと、新丸ビルがオープンするときに行幸通りに仮設の小屋を建てて、屋外ステージを組んで「鏡獅子」という歌舞伎舞踊を披露したことがあります。鏡式を行った。ある意味ではそういう規制を全部取り切ることができるということですよ。

東京都と国、東京都と区の調整に民間が入るのは難しい

舟運の船の実験のプロジェクトを東京都さんと一緒にやっています、2年間やってわかったのが、やっぱり行政がトップダウンでやっていくとすごいやすい。防災船着き場っていう、いわゆる防災にしか使えない船着場も今回実験のために使わせていただいたりとか。秋葉原の和泉橋の下の今まで誰も使っていなかったところが開放されたりとか、トップダウンでやっていただけるとすごくよかったなと。船って行政間との調整が結構大変で全部絡むんですよ、国も東京都も。東京都の中はさらに都市整備と港湾と建設と3つの局に分かれていて。これを全部調整するとなると民間会社では絶対無理だと思う。こういう区とか国とか都を横断するには、国がトップダウンでまとめていかないとなかなか難しいのかなって思っています。東京都と国、東京都と区って横並びに近くて、その調整に民間が入ってというのは難しい。

○表現の可能性や試行性についての視点

イベントをやったら面白い場所

ひとまず理想郷を作っちゃったから、歌舞伎座っていう。歌舞伎をよそでってというのは、今のところはないんですけども、ただイベントやったら面白いなっていう場所は、皇居前とかそういうところはありますね。あとは御苑、浜離宮とかね。御浜御殿っていう芝居があるくらいですからね。

街中で歌舞伎をライブビューイング

サッカーでいうと、現地のスタジアムで見れない人のために、ライブビューイングとかやってるじゃないですか。例えば歌舞伎座をライブビューイングでしますってことを、あちこちでやってみたいなっていうのはあるんですよ。今、AKBのライブであたりっていうのって、全部映画館とかそういったところでライブビューイングやってるじゃないですか。どうせなら（歌舞伎は）街中でやりたいなって。東京2020大会の選手村の近くに大塚製薬さんが倉庫持っていて、すごくでっかい真っ白な壁があるんです。じゃあそこに歌舞伎を投影して選手村から見てもらうとていうアイデアがあって、それはすごくいいですよ。映画みたいにみんなで見れるってというのは。

14. 株式会社ライゾマティクス取締役 真鍋 大度

聞き手：株式会社ロフトワーク取締役 林千晶



プロフィール

東京を拠点としたメディアアーティスト、インタラクティブデザイナー、プログラマー、DJ。2006年Rhizomatiks 設立、2015年よりRhizomatiksの中でもR&D的要素の強いプロジェクトを行うRhizomatiks Researchを石橋素氏と共同主宰。慶応大学SFC特別招聘教授。身近な現象や素材を異なる目線で捉え直し、組み合わせることで作品を制作。高解像度、高臨場感といったリッチな表現を目指すのではなく、注意深く観察することにより発見できる現象、身体、プログラミング、コンピュータそのものが持つ本質的な面白さや、アナログとデジタル、リアルとバーチャルの関係性、境界線に着目し、デザイン、アート、エンターテインメントの領域で活動。

○多様性や共生につながる視点

その場所の条件と特性を見てなにかをやる

恵比寿駅から槍が先の交差点に行く、駒沢通りのあたりもよくイベントやろうとして断ち切れてますよね。中目黒とか代官山のあたりとか、あそこら辺も実はイベントしたら結構面白いエリアなんですけど、ショップがあって、クラブもあって、洋服屋さんもあって、道も大きかったりするんで。僕らは条件を与えられて、その場所の特性を見てなんかやる人が多いんですけどね。

(他にやってみたいのは) ここのすぐ横にある渋谷区清掃工場の煙突と目黒区立田道小学校の横にある煙突なんかは使えるんじゃないかなと。防衛庁の技術研究所なんかも、恵比寿のど真ん中にあんな広大な土地があって、もったいないかなって思いますね。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

レギュレーションが一体どこにあるのか、誰に聞くのかをはっきりすべき

2008年なんですけど、アルスエレクトロニカというメディアアートのフェスティバルの仕事で初めて映像を街中で大きく上映するイベントに関わり、その後2009年にはニュージーランドのオークランドでプロジェクターを大量に使った、国内だと東京駅のプロジェクションマッピングと同規模のイベントを行いました。こういったものは(街中で行うため)事故が起きるリスクはあるんですよ。それで信号の色に近いものを出すとか。もちろんシミュレーション用のソフトウェアとかも作るんですけど、「この場所でこの角度から見てこういう絵を出したら信号の色に間違えやすいからやめましょう」と、検証を行いながら実現に向けて進めていくのですが、割とレギュレーションがはっきりしていて、どうやったらそれを回避できるか対策を練って、立ち向かっていくんです。日本はそのレギュレーションが一体どこにあるのかよく分からず。僕らみたいなクリエイター側は直接警察とセッションするわけじゃないので、どこが一体問題になっているのかが企画を作る時点でクリアになっていないと、面白い企画を作っていくことが難しい。

良い企画を出すためのプラットフォームを

リスクを負いたくないからできないということで、いろんな企画が潰れてる。でも、これから野外のイベントは増えると思うんですよ。街中でなんかやるとか。そのときにアイデアを出しやすいよう、ちゃんとルールになってないところをルールにするとか。オープンにすること、透明性がすごく大事だと思うんです。よく分からないルールが多すぎる印象があります。良い企画を出すためのプラットフォームがあって、初めて企画を作れるという気がする。プロジェクションやレーザーは今だと、道路を跨いで光を投影しちゃダメっていうルールがあると思うんですけど、もちろんそれも例外が結構あるんですよ。例外でやってるのは、どういう事情でやってるのか分からないんです。僕らなんか、いいな、羨ましいなって感じで。ただ例外になった経緯がオープンじゃないんですよ。どう判断されたかとか公表されていけば、同じロジックで作れますけどね、そうじゃないですからね。ヨーロッパやカナダは面白いことを出来るだけ多くの人たちにやってもらえる様に考えられている。先日はドイツのデュッセルドルフでワークショップをやりましたが、アートを市民にということで、鑑賞者だけではなく制作側にも非常に開かれた環境がありました。

小さい成功事例とトライ&エラーを積み重ねて、大きくしていく

(海外だと) 成功した事例がちっちゃくても積み重なっていくと、この前500人オッケーだったから、今度は1000人。1,000人オッケーだったから2,000人っていうようになっていくんですけど、そういう初めの突破口も(日本では)今までなかったんです。東京2020大会を機にそういった突破口もできるのではないかと。ここはだめ、ここは大丈夫っていうのは本当にトライ&エラーで、ちょっとずつやってくしかないと思うんです。(海外のイベントでは) ドローンとか落ちて来たりしてますしね。僕はドローンのショーは2012年にアルスエレクトロニカで初めて見ましたがパブリックスペースで墜落していました。それでも、禁止せずにやって、今やもう街の名物のところまでいってるので。ちっちゃいイベントで色々エラーを潰して行って、大きくしていくのは、僕らはライブではスタジオから初めて、シアター、アリーナ、ドーム、というような形で必ずステップアップを重ねていきます。野外のイベントも同様に少しずつスケールアップをしていくのが良いと思います。もしかしたら最初は渋谷ってわけじゃなくて他のもう少しやりやすい場所で。最初にエラーを見つけて、それから渋谷に持ってってと、ちょっとずつとか。

○それ以外の重要な視点

海外の人にも分かってもらえる文化活動を増やすために

シンプルな話で、海外の人いっぱい来るんだったらやっぱり、多言語対応はできるようになってないとダメだよなって。当たり前のことなのですが。そういうことをイベント視点で入れますってやると、東京2020大会関係なく来ている海外の人にも分かってもらえる文化活動が増えたり、東京2020大会の後にも続いていたり。あるいはそれおきかけに、使えなかった場所が使えるようになるとか、変わっていけばいいよね。

15. 株式会社XPJP 代表取締役 社長 / エクスぺリエンス・デザイナー 一般社団法人 元気ジャパン 代表理事 渡邊 賢一

聞き手：株式会社ロフトワーク取締役 林千晶



プロフィール

栃木県栃木市出身。1995年 学習院大学卒。カリフォルニア大学サンディエゴ校、ワシントン大学BUSIP留学。国際電信電話（現KDDI）、朝日新聞社、内閣官房 地域活性化統合事務局に勤務後、2010年に地方創生プロデュース法人（社）元気ジャパンを設立し、世界各国を舞台にクールジャパン、インバウンド、輸出促進、文化交流分野の事業を展開。2015年に海外クリエイターとのパートナーシップを軸としたエクスぺリエンス・デザイン法人（株）XPJPを設立し、映像コンテンツ制作、デジタル・マーケティング、イベント・プロデュース等を強化。内閣府クールジャパン戦略アドバイザーボード、内閣府 地域活性化伝道師、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究所 研究員。日本ガストロノミー学会プロデューサー。

○多様性や共生につながる視点

地域ブランディングをジブンゴト化し、地域に火をつける

私が今地域活性化で深く関わっている福島県は復興6年目を迎えて、質的な変化が必要になりました。しっかりと地域の人々のチカラをつけようという機運が高まってきています。今年、復興庁やGoogle、Tripadvisor、SIGMAと地域の専門学校と連携し、LxD（ローカル・エクスぺリエンス・デザイン）という地域ブランディングとデジタル・マーケティング戦略を学ぶキャンプを実施しました。主にインバウンド振興が目的です。地域の中小企業には宣伝部やマーケティング本部や国際部がないケースが多く、海外展開やインバウンド戦略に攻めあぐねていることが多いのですが、こうしてノウハウと人的ネットワークをエンパワーメントすることで確実にチカラをつけることができる。例えば、この動画は猪苗代JC（猪苗代青年会議所）が作ったものですが、今回のLxD実施期間の6ヶ月でここまで吸収され、自らのチカラで世界に向けて地域の魅力をプロモーションできるノウハウを身に付けることができました。今、福島県の地域事業者はジブンゴト化をキーワードに基盤づくりに力を入れています。

○国地域の持続的な考え方・仕組みについての視点

テーマ型マーケティングによって、地域ブランディングを強化する

世界中の国際観光旅行者は約14億人います。そのうち9.9割は日本には来ていません。よく地方創生の名の下に海外に地名を売り込むプロモーションが主軸ですが、基本的には覚えられていないケースが多い。例えば、サムライというキーワードの知名度は、日本のどの地域の名称よりも普及しており、Googleでの検索数も地名の数倍も高い。世界が期待する日本文化を表現するテーマをしっかりと分析し、テーマ型マーケティングをすることが大切です。サムライといえはこの地域、アウトドアといえはこの山河、ヘルシーといったらここの郷土食といったように、まず売り込むべきは世界で勝負できる強いテーマ軸の発信です。脱地名型のプロモーションに大きく舵を切り、テーマ切りで地域ブランディングを推進すべきです。

武士道ブランディングは世界に通じる地域デザイン戦略

手応えを感じているのが武士道ブランディングです。世界には剣道、柔道、合気道、空手の人口が6000万人います。そのうち日本人の割合はたったの8.3%。武士道自体は完全に地球サイズでノーマライズされています。武士道にシンパシーを持っている方々は、戦いやマーシャルアーツ的な側面ではなく、精神性です。道を極めるというライフストーリーの在り方に価値を見出しています。面白いことに、世界各国でSAMURAIとGoogle検索をする方々のうち、60%は決闘や戦闘などのファイト分野ではなく、構えや瞑想などのスピリチュアル分野でした。現代は世界中のオン・コネクト状態でスマホやPCを通じて常時接続されている時代ですので、デジタル・マーケティング戦略を施すことである程度は各国からどんな風に日本が理解されているかを数値化できます。具体的には、今福島県、栃木県、茨城県と連携して展開しているインバウンド事業「ダイヤモンド・ルート」ではこうしたデジタル解析によるマーケット・イン型の地域デザイン戦略を進めています。例えば、戊辰150周年を迎える会津若松市はサムライ・シティーというライセンスを保有していますが、こうした地域資源を活用し、当事業では世界のサムライ関心層に対して、クリエイティブとマーケティングの力を駆使して、大々的にブランディングを展開しています。実際に今年度事業ではサムライ動画に各国から500万再生もののアクセスがあり、訪日客数も3年前の2倍に増加しました。武士道ブランディングの手応えは確実にあります。同じように世界が関心を持っている日本の強みとして、神社仏閣ブランディング、祭りブランディング、ガストロノミーブランディング、クラフトブランディングなども大きな可能性を秘めていると考えています。

デジタル・シフト時代に向けて、クリエイティブと数値化を一体化させる

大切なのは「伝える戦略（クリエイティブ）」と「届ける戦略（デジタル・マーケティング）」と「仕組み化戦略（プロジェクト・デザイン）」を組み合わせることです。特に現代はデジタル・シフトが加速化しており、今後より一層のIT化とネットワーク化が進展します。海外目線で日本の魅力の普遍性をコンテキスト化しわかりやすくスタイリッシュに映像や作品として伝えるとともに、それらをしっかりとデジタルライズし、どこの誰にどの様に届けるかという数値化戦略も重要です。特にリマーケティングという経年的な指標をKPI化し、しっかりと長い時間をかけて地域ブランディングを戦術にまで落とし込むことが大切です。そして何よりも共感を持った者同士が職業や国境の垣根を超えて、プロジェクトを開発し息の長い事業をつくってゆくという共感型のムーブメントを起こすことが重要です。

江戸のエスタブリッシュを再認識する

ローカルファーストという考え方が大切です。東京+アルファじゃなくて、逆にローカル+東京。東京は日本のショーケースですので、全てがあります。だからこそ、東京を構成しているローカルの要素を地域を伝えるエレメントとして可視化することが大切です。私は最近つくづく感じますが、江戸時代265年間の知恵と文化の物凄さを見直すことが今こそ必要です。まさに「江戸エスタブリッシュ」。今年は明治維新から150年経つ節目の年です。今までは近代化の影に江戸時代の文化洗練度が隠れていましたが、明治・大正・昭和の成長を国際化を支えた日本の底力は江戸時代に培われてきたものです。いわば、江戸の資産を活用してここまで来たといっても過言ではありません。今こそ、江戸の普遍的な知恵を未来型志向で再編集すべきではないでしょうか。そういった意味では江戸を支えた全国300以上の各藩の個性と文化資源を見直し、そこにインデックスを立てた地域エディットの在り方を前面に押し出し、ローカル+東京というフレームに落とし込めるむべきかと思えます。

世界の食料問題を解決する上杉鷹山の「かてもの」の知恵

世界中から料理人、食の教育者、国際機関の食糧部門の方々が訪れる町がある。それが山形県鶴岡市。かつての庄内藩です。日本には江戸時代、三つの大飢饉がありました。鶴岡がある庄内藩とお隣の米沢藩はその大飢饉で一人も死者を出さなかった地域です。その理由に注目が集まっています。その仕掛け人は時の米米沢藩主であった上杉鷹山。彼は「かてもの」という名の書物を藩内に配布する政策によって飢饉対策をしました。この「かてもの」、何が書いてあるかということ、ふきとか、ツクシ、こごみ、タラの芽など、山や野原で採取できる食べられる野草の種類とその採取方法、そして調理方法です。緊急被災食レシピ集といったところです。もしかしたら、当時のエマージェンシー版のクックブックです。日本には古来より、旬を活かした野草料理の文化があります。特にこの庄内地方には出羽三山の山伏文化があり、山伏の調理の知恵として山菜料理や精進料理文化が定着しています。この「かてもの」の背景にはこうした山伏の叡智が結集されています。この庄内地方の食の知恵が世界に知られる様になったきっかけは鶴岡市がユネスコ食文化創造都市として認定されたことに端を発します。以来、イタリアのスローフード運動のモデルとなったブラの町に本校があるイタリア食科学大学との連携や、スペインとの連携、辻調理師専門学校との連携など数々のガストロノミー連携を重ね、庄内地方の野草料理の知恵は世界の食糧問題を解決する知恵とまで評され始めています。私も鶴岡の山伏の方々と共にイタリアに訪問したことがあります。現地の方々と共に食べられる野草を探す旅をしましたが、どんだんに生えている植物を口にしてゆきます。初めは地域の方々も驚いていましたが、彼らが持つ野草料理の知恵の奥深さに驚き、最後は食料が増えたと感謝されました。今ではこうした知恵を体系立てて学ぼうという機運に転じ、年に数回ほど鶴岡に学生を派遣しています。このように日本にもともとある普遍的な知恵や地域資源を各国の課題解決のために活かしてゆくというコミュニケーションのあり方にも可能性があると感じます。

島の選択、開発とうらはらに失われる島文化に歯止めを

今、内閣府と石垣市で、アイランダーズ・プロジェクトという取り組みを進めています。石垣島は空港ができた後、観光産業が成長し、現在152万人の方々が国内外から訪問しています。最初は諸手を挙げて歓迎されていましたが、ここ数年のリゾート開発や温暖化の影響で島にもともとあった固有の環境や文化は急速に失われ始めています。現に日本最大級のサンゴ礁を持つ石垣近海のサンゴの56%は死滅し、97%が白化しています。人間だけが要因ではなく、地球温暖化や様々な環境要因が原因にあります。それに相まってリゾート開発も加速しており、このままゆくと制御できない観光産業とどう付き合うかが社会問題化してしまうという懸念がありました。まさに島の選択の時が近づいてきたわけです。今回のプロジェクトでは、島の宝を失うことにストップをかけ、等身大の島作りを進めようという社会ムーブメントを起こすことにしました。具体的には同じような課題を抱えている島国への声かけをはじめ、分かりやすく島の選択のメッセージを伝えてゆくためにミュージシャンやクリエイターと連携し、ラジオや映像などのコミュニケーション手法を使いながら、共感創出型の地域デザインをすることにしました。こうした島を愛する方々を「アイランダー」と定義して、世界中のアイランダーを結ぼうというプロジェクトを始めることにしました。まず初年度は音楽の力を信じ、世界にインターネット・ラジオ番組を配信し共感づくりを開始しました。幸い、BEGINさんにもご協力いただき「島人の宝」を課題曲として、海外に発信しています。早速、台湾のアーティストから台湾語版の「島人の宝」のカバーが送られてきて、少しずつではありますが、輪が広がっています。今年は、アイランダーズ・サミットとミュージックフェスタの融合を考えています。ハワイや台湾などとも連携を強化し、環境や社会、テクノロジーなど様々な分野で今島が取るべき選択について情報共有と考える機会をシェアしてゆく動きにつなげようとして準備を続けています。

○表現の可能性や試行性についての視点

祭り、伝統行事、伝統技能などを、海外の目線で再編集する

日本を世界に伝える際に、もっとも大切なことが外国人目線で地方をもう再編集することです。その地域に暮らしていると良さが見えづらくなることがあります。だからこそ、海外からの視点でその地域が持つ普遍性や時代を超えて伝播してゆくべきメッセージを浮き彫りにする作業が必要です。例えば、その地方でずっと継続している祭り、伝統行事、伝統技能なども、他所からの目線で見直してみると、「あ、なんだこういうような価値があったんだ」って新しい価値が見つかることも多いです。メタ発想とか、ノーマライズ思考という言葉をよく使いますが、地域目線と海外目線を戦略的に掛け合わせて、普遍的な価値を文脈化する仕掛け方が重要です。革新と伝統という狭間にあるのは、異文化交流による比較文化です。地域という概念でくくらず、国境を超えて通じる価値をどうエディットするかという発想で地域をデザインすることが大切だと思っています。それこそが「発展性」¹につながると考えています。

未来にバトンリレーすべき日本の地域資源

地域資源の未来への「発展性」を紡ぎ出す際、国境を超えても、時を超えても、そして人種や職業の壁を超えても陳腐化しないテーマはなんなのかを見極めることが大切です。例えば日本食、日本の工芸といったカテゴリーで考えるのではなく、「食と健康」、「長寿と豊かさ」、「学びと自己実現」のように地球上のあらゆる地域の方々にとって関心があるテーマ軸で今後の日本が世界に対して示してゆけるエグザンプルを紡ぎだすことが大切です。日本には長い歴史と多様な文化を土壤に、数多くの未来にバトンリレーできる知恵の体系と史実に基づいた事例があります。こうした発掘活動を行い、世界に対して分かりやすくかつ堂々と伝えてゆく事が大切だと考えています。

田園風景の魅力

世界的に著名なフラワー・デザイナーのニコライ・バーグマンさんと一緒に展開したプロジェクトがあります。それは日本の田園風景や野に咲く花々の見直しです。日本は世界に誇るべき草花文化があります。その多くは野や里、溪谷などに咲いています。こうした名もなき花々の美しさは本当に見とれるばかりです。そして何よりも瑞穂の国と呼ばれるほど、日本中に広がる田園風景は世界で日本にしか見られない美しさです。今回は、ニコライ・バーグマンさんと共に日本のいくつかの地域を旅しました。その中でインスパイヤされた野草や稲を積ませていただき、スペシャルなフラワーアートをつくっていただきました。この旅の様子を美しいプロモーション映像にして海外に対してYouTubeで配信し、一気に300万再生されました。やはり感性に響いたんでしょうね。何よりも大変に評価が高かったのは日本の田園風景の美しさでした。収穫時期の黄色いライスガーデンは唯一無二の風景でした。もっともっと日本に普通にある風景をデザインし直して表現するべきだと実感しました。

森と林と川、自然の中で走り回ることこそ地域の魅力

アウトドア大国。それが日本です。日本の国土の7割は森です。豊かな森林と清流、山河、溪谷だらけです。こうしたフィールドを存分に楽しむアウトドア型のライフスタイルこそ日本の魅力です。今回はカヌーやカヤック、MTBなどの日本チャンピオンや世界チャンピオンと強く手を組み、福島や栃木、茨城の大自然の中を思いっきり駆け抜けてゆくエ

¹ここでいう「発展性」とは、東京2020大会を機にアップデートしながら、未来に向けて歴史をよりつなげていくことを表す。歴史を踏まえた上での発展。伝統やヘリテージと言われるような日本が見せたい歴史をそのまま持っていくのではなく、未来に向けて発展させること

クスペリエンスを世界に発信しました。日本にしかない地形や景観があり、それらを自在に超えてゆくアスリートの身体能力がある。まさに日本という劇場で躍動するアーティストが、アウトドア選手だと思います。どうローカルを格好よく見せていくかという課題に対して、アウトドアという分野は可能性の宝庫です。

○それ以外の重要な視点

戦略的ガバメント・リレーションシップが益々重要に

1718ある地方自治体の戦略やあり方を根本的に変えてゆくことが重要です。企業も地域の人々も垣根を超えて巻き込んで、全員で未来型のガバメント・リレーションシップを考えてゆくことが大切です。オリパラを契機に思いっきり社会実験すべきだと思う。2021年がもっとも重要。この国の未来をデザインする大いなるチャレンジの一つの柱として、ガバメントとの協業モデルをバージョンアップしてゆく人や企業がもっと増えるべきであり、公共機関も前例踏襲型を打破した思い切った制作デザインをすべき。要するにやる気とアイデアと行動力次第で不可能はないはず。

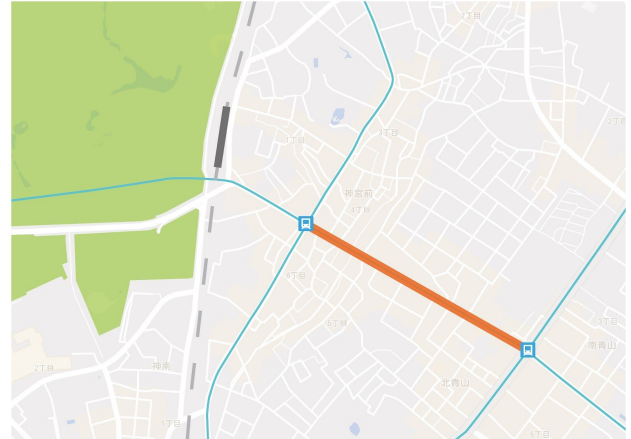
海外では「カミ」は「God」ではなく「Nature」

日本文化の根元の見直しが海外から始まっている。禅は「マインドフルネス」としてナチュラルイズ（一般化）されてきた。ショウジン（精進料理）も普通に使われている。最近では神社は「SHRINE」ではなく「ジンジャ」と呼ばれ直し始め、「カミ」は「ゴッド」ではなく「ネイチャー」と訳されることが多い。日本人が考える以上に日本への理解は深度を増している。こうした解釈の進化を受け止め、より私たちはコンテキスト・クリエイティブな文化発信を強化すべきではないかと感じている。

〈資料2〉 調査結果データ（東京都の拠点調査）

1. 表参道

詳細：明治神宮前駅から表参道駅間の通り（周辺商業施設を含む）



評価基準による採点結果

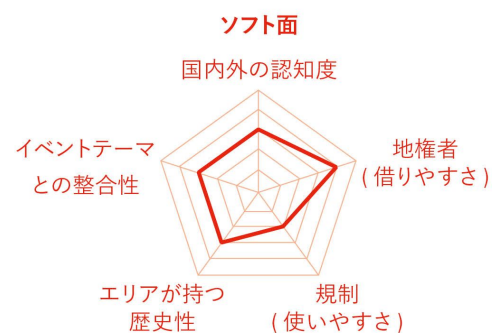
○ハード面のインフラ評価

- ・ スペース活用性や集客実績数で評価が5となるなどハード面での評価が高くバランスが良い。
- ・ 表参道ヒルズなど周辺の商業施設との連動実績がある。
- ・ 代々木公園や明治神宮との距離が近いので近隣エリアとの一体的な展開にも可能性がある。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 規制（使いやすさ）の評価がやや低く、イベント開催にあたっての留意すべき課題が比較的多い。
- ・ イベントテーマでは、16候補地の中で唯一、「日本のファッション」イベントの評価が6割を超えており、「日本の現代アート」も第1位、ファッション・アート系のイベントを開催するのに最も相応しい場所と言える。

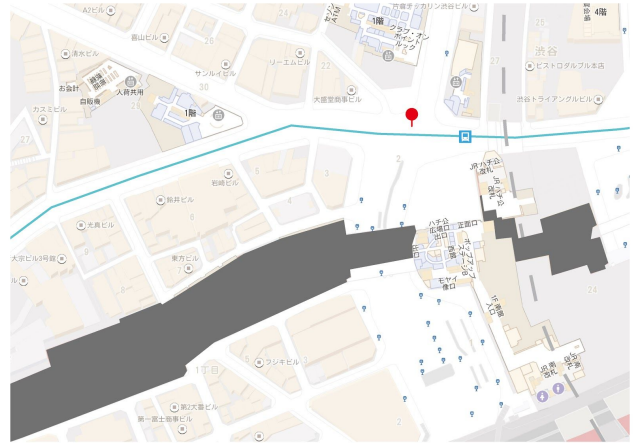


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 商店街振興組合に承認を受けた上で道路使用許可の申請が必要。
- ・ ハロウィン、スーパーよさこいといった既存イベントの日程と間隔をあける必要がある。

2. 渋谷スクランブル交差点

詳細：交差点からSHIBUYA109までの通りを中心に



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ シンボル性の評価が非常に高く、その他は平均的である。
- ・ 商店街や商業施設との連携についての実績があり、利用について可能性がある。
- ・ 交通量の多いところであり警備誘導の難易度は高い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 国内の認知度が非常に高く、50代以下ではどの年代でも16候補地の中で認知度第1位と、圧倒的な認知度を誇っている。
- ・ 「日本の映像」や「日本のパフォーマンス」イベントを開催する場所としての評価が16候補地中、第1位。
- ・ エリアが持つ歴史性に対する評価は低いので、伝統的なイベントには向かない。
- ・ 規制（使いやすさ）の評価がやや低く、イベント開催にあたっての留意すべき課題が比較的多い。



○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 開催されているのは、年末のカウントダウンと夏の盆踊りのみであり、特別な理由でない限り道路使用許可を取るのが難しい場所である。
- ・ 商店街・商業施設（SHIBUYA109等）との連携も必要となる。

3. 新宿御苑

詳細：芝生広場を中心とした庭園内



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ 旧皇室苑地であり、由緒ある沿革・性質に照らし、開催できるイベントの種類が制限されるが、開催できれば貴重な場所と言える。
- ・ 1万人以上の規模での催事実績がないため、集客実績数は他の場所と比べて低い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 日本ならではの歴史性を8割以上の方が感じると答えており、歴史性に対する評価が極めて高い。
- ・ 「四季に彩られた日本の自然」や「伝統文化・芸術」イベントを開催する場所としての評価が高い。

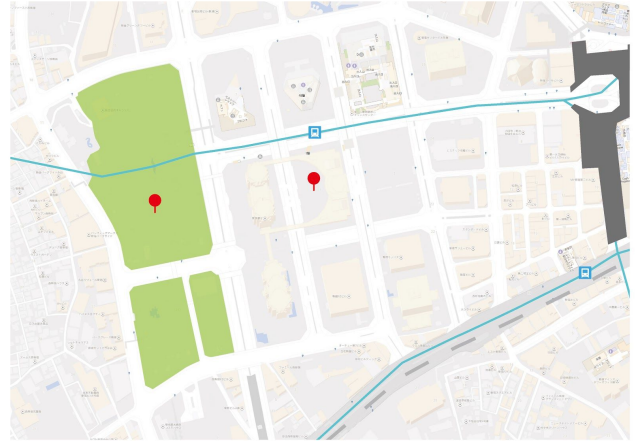


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 旧皇室苑地であり、由緒ある沿革・性質に照らし、開催できるイベントの種類が制限されている。但し、ルールの整備により、利用目的を広げることは不可能ではないと予想される。

4. 東京都庁前

詳細：都庁 都民広場+新宿中央公園



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ 都民広場だけの集客実績が少なく、スペースが限られているため、新宿中央公園まで合わせた場所での開催が必要。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 銀座は有名でも銀座中央通りに限って言えば、国内の認知度がそれほど高くない。
- ・ 「日本の食」をテーマとしたイベントでは16候補地の中で第1位の評価となっている。
- ・ エリアが持つ歴史性についても高い評価となっている。

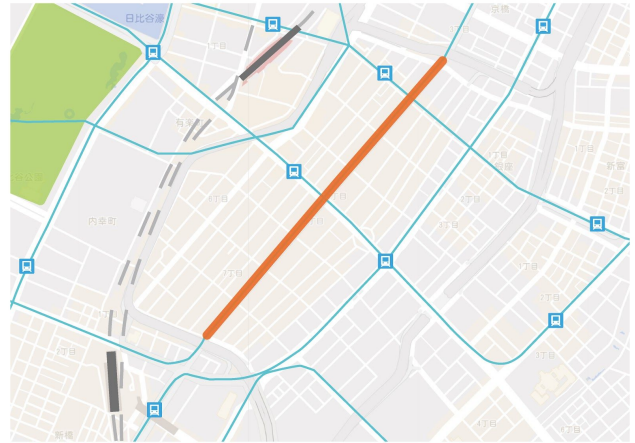


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 東京都主催・共催が優先的な場所であるとのこと。

5. 銀座中央通り

詳細：銀座通り口交差点から銀座8丁目交差点まで



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ シンボル性の評価が非常に高い。
- ・ 商店街や商業施設との連携ができる。（2020年に向けて街の活性化を図る「G2020」プロジェクトを展開中）
- ・ 交通量の多いところであり、警備の難易度は極めて高い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 日本ならではの歴史性を8割以上の方が感じると答えており、歴史性に対する評価が極めて高い。
- ・ 「四季に彩られた日本の自然」や「伝統文化・芸術」イベントを開催する場所としての評価が高い。

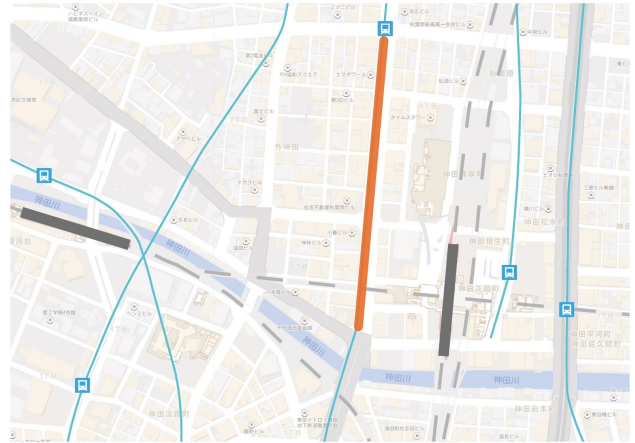


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 銀座の商店街連合会である「全銀会」の協力のもと築地警察署への道路使用許可申請が必要。（認可については計画次第とのこと）

6. 秋葉原中央通り

詳細：中央通り 外神田5丁目交差点から万世橋交差点まで



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

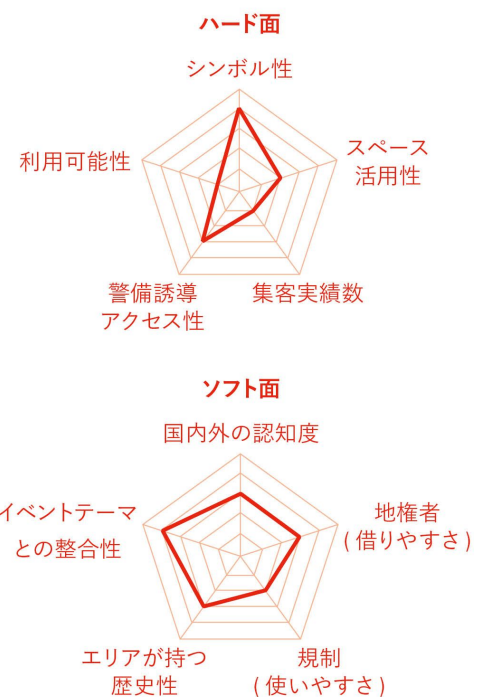
- ・ 国内アンケートでは7割以上の方がシンボル性を評価。
- ・ 国際的な街として外国人の知名度も高い。

○ソフト面のインフラ評価

- ・ 日本ならではの歴史性を8割以上の方が感じると答えており、歴史性に対する評価が高い。
- ・ 「四季に彩られた日本の自然」や「伝統文化・芸術」イベントを開催する場所としての評価が高い。

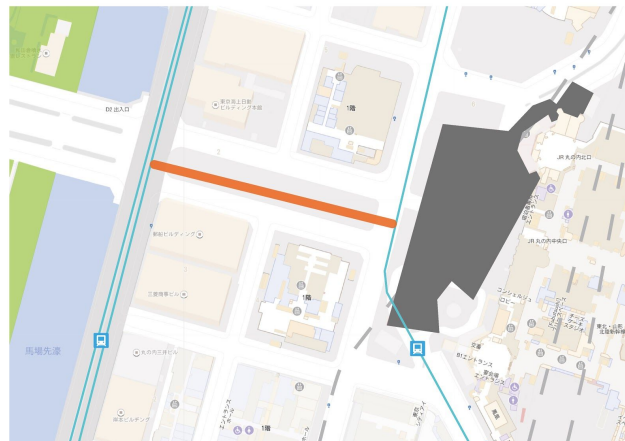
○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 歩行者天国の期間は、緊急自動車以外のすべての車両が規制対象となっている。



7. 東京駅丸の内口 行幸通り

詳細：行幸通りおよび周辺エリア



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

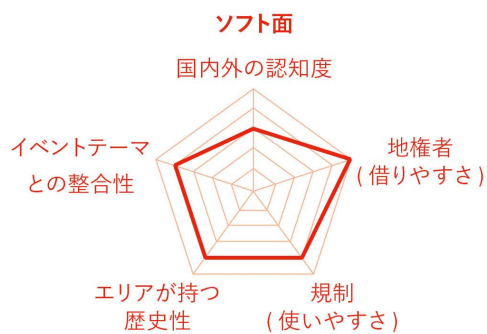
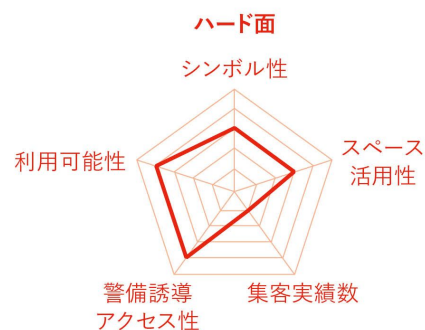
- ・ 国内アンケートでは8割以上の方がシンボル性を評価しており、極めてシンボリックな場所。
- ・ 皇居も近く、日本を代表する場所であり、イベントを開催できれば希少性が非常に高い。

○ソフト面のインフラ評価

- ・ 「日本の伝統文化」イベントを開催する場所として16候補地中、第1位となっており、「日本の映像」イベントの開催場所としての評価も高い。
- ・ エリアが持つ歴史性に関しても高い評価となっている。

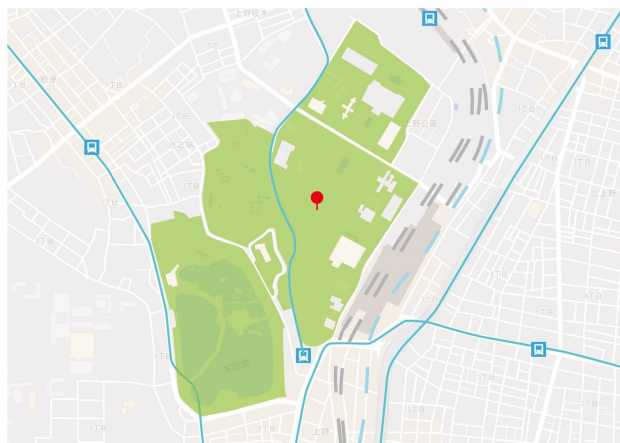
○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 東京駅から日比谷通りまでの中央の歩道部分での開催可能性は高いが、車道を使う許可を得るのが非常に難しい。
- ・ 宮内庁信任状捧呈式馬車列運行の場合は、イベントを中止する必要がある。



8. 上野公園

詳細：噴水広場を中心とした公園内



評価基準による採点結果

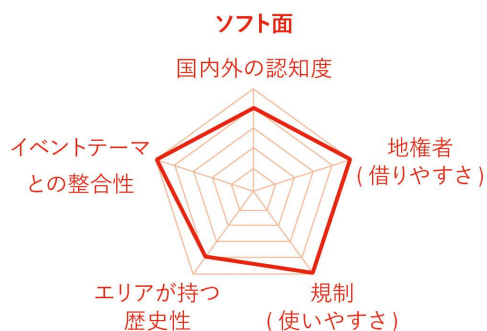
○ハード面のインフラ評価

- ・ 全体的にバランスよく、高い評価となっている。
- ・ 東京の「顔」としてのシンボル性も8割以上が評価している。
- ・ 周辺の美術館などとの連携が期待できる。
- ・ 警備誘導、アクセス性が高くイベント開催の負荷が低い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ エリアが持つ歴史性についての評価が、16候補地中の第1位。
- ・ 「日本の伝統文化」や「四季に彩られた日本の自然」イベントを開催する場所としての評価も高い。
- ・ 全体として評価が高く、ソフト面が充実している。

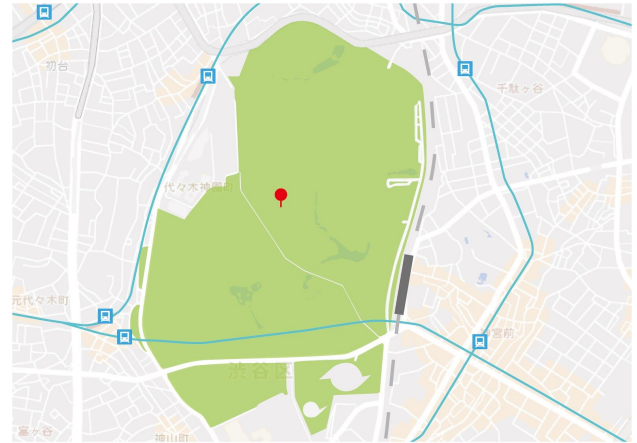


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 2020年の土日はほぼ埋まっている状態であり、開催日を確保することが課題。(ただし、13ヶ月前までの申し込みかつ、国・都主催イベントであれば優先的に開催可能な場合がある)

9. 代々木公園

詳細：中央広場を中心とした公園内



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ 様々なイベントに対応が可能で、スペース活用性が高い。
- ・ 開催に関してのハードルが少なく、平均的にイベントスペースとしての評価が高い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 「四季に彩られた日本の自然」イベントを開催する場所としての評価が高い。
- ・ 開催に関してのハードルが少なく、平均的にイベントスペースとしての評価が高い。

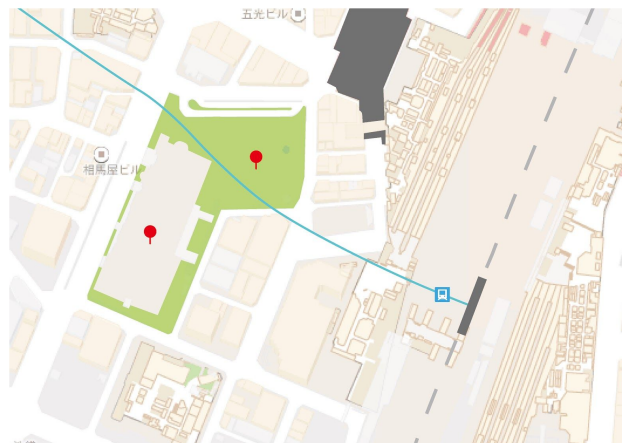


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 土日はほとんど埋まっていることから、開催日を確保することが課題。

10. 池袋西口

詳細：池袋西口公園＋東京芸術劇場



評価基準による採点結果

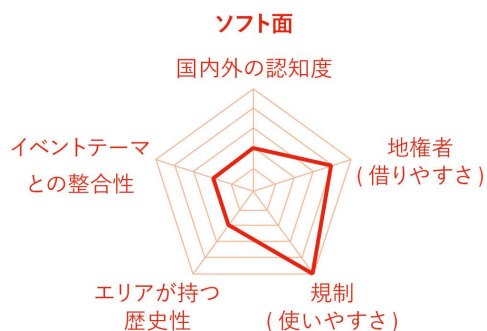
○ハード面のインフラ評価

- ・ シンボル性の評価が低い。
- ・ 1万人以上の規模での催事実績がないため、集客実績数は他の場所と比べて低い。
- ・ 利用可能性については時期によるが高い評価となっている。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 国内の認知度が低い。
- ・ エリアが持つ歴史性やイベントのテーマ性に関する評価が低い。
- ・ 規制に関する制限が少なく、イベント実施のハードルが低い。

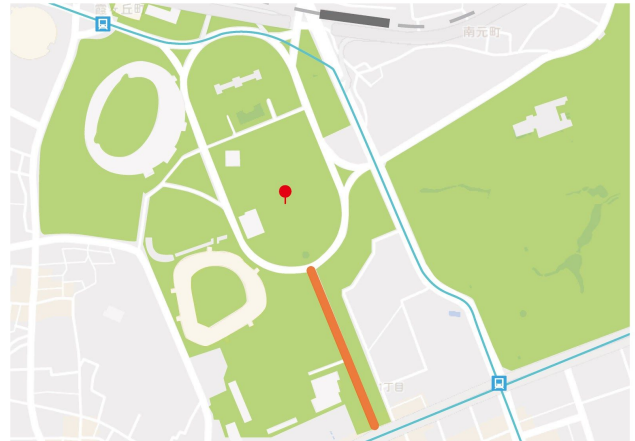
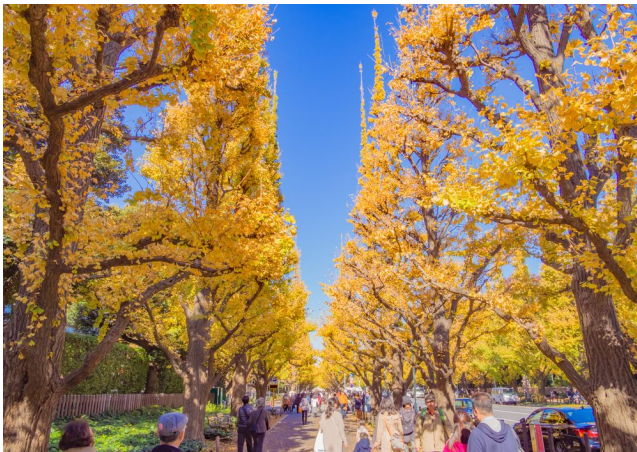


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 池袋西口公園は平成29年12月上旬～平成30年3月下旬の間、改修工事のため利用不可。
- ・ 池袋西口公園と東京芸術劇場エリアで開催する場合には両方の日程を押さえる必要がある。

11. 神宮外苑

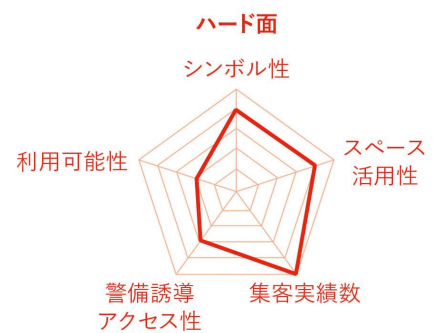
詳細：いちよう並木と軟式野球場等の施設



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ いちよう並木が象徴的であり、東京の「顔」としてのシンボル性を7割以上が評価している。
- ・ 新国立競技場のあるエリアであり、東京2020大会のイメージを想起させやすい。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 明治神宮があることから、エリアが持つ歴史性に対する評価が高い。
- ・ 「四季に彩られた日本の自然」イベントを開催する場所としての評価が高い。

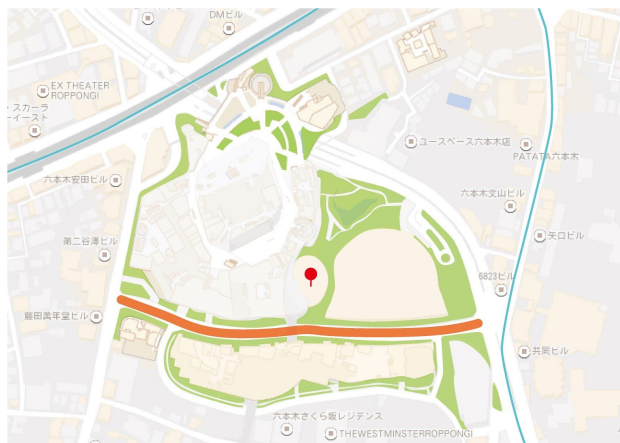


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 神宮球場を使う場合には開催できる日程が限られる。

12. 六本木けやき坂通り

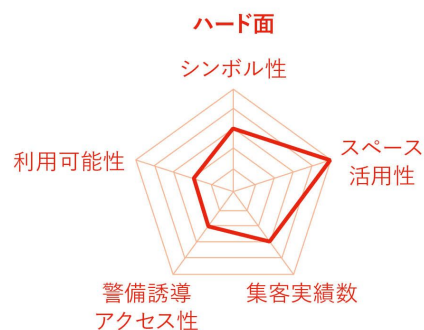
詳細：六本木けやき坂通りとヒルズアリーナ



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・パレードなどのイベントを開催するには道路使用許可が必要で、開催できるイベントの種類も限られる。
- ・スペース活用性の評価は高いが、平均的に評価が低い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・国内の認知度が低い。
- ・「日本の現代アート」イベントを開催する場所としての評価が高い。

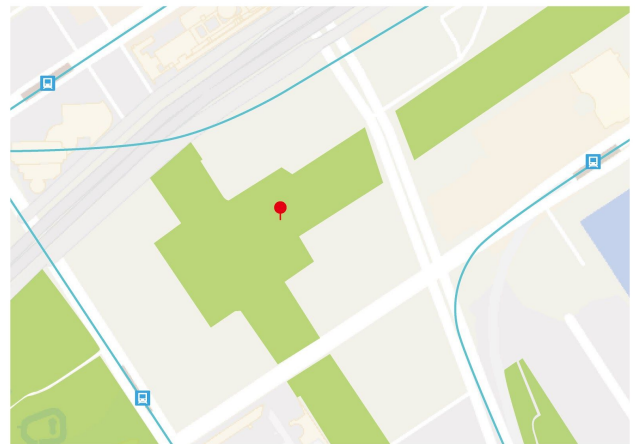


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・周辺住民及び周辺商業施設（森ビルなど）の理解を得た上で麻布警察署への道路使用許可申請が必要である。

13. お台場シンボルプロムナード公園

詳細：お台場シンボルプロムナード公園（ウエスト・センター・イースト）



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ 警備誘導アクセシビリティ以外の項目が低い。
- ・ シンボル性がそれほど高くない。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 国内の認知度が低い。
- ・ エリアが持つ歴史性や、イベントテーマとの整合性に関する評価が低い。「日本のパフォーマンス」イベントの開催場所としては一定の評価を得ている。

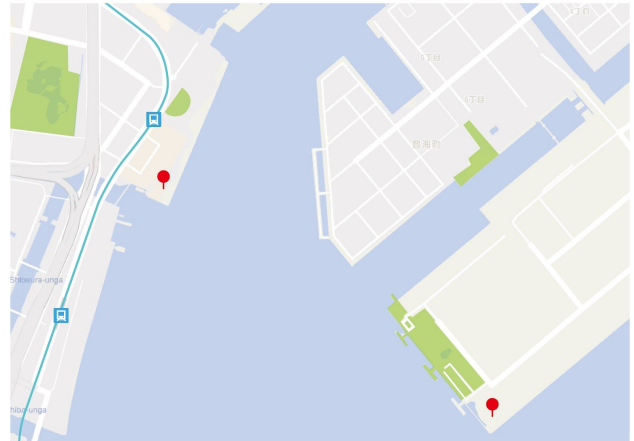


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 東京都、または東京臨海まちづくり協議会が主催・共催のイベントであることが必要。

14. 東京湾岸エリア

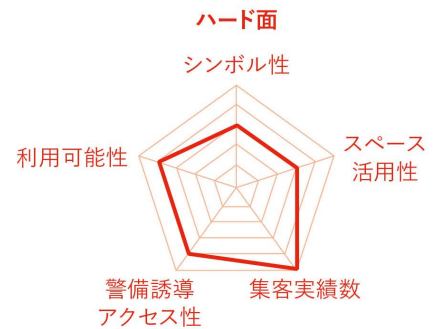
詳細：晴海客船ターミナル / 竹芝客船ターミナル



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ イベント開催に関するハードルは低い。
- ・ シンボル性の評価がそれほど高くない。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 国内の認知度が低い。
- ・ エリアが持つ歴史性や、イベントテーマとの整合性に関する評価が低い。

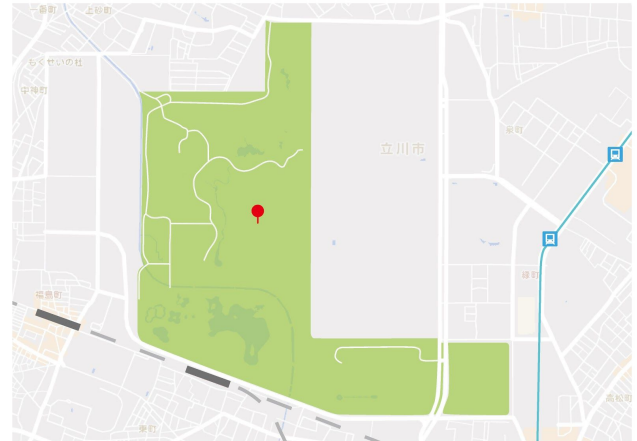


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 晴海埠頭公園は選手村となるために休園中で、開催できるエリアが限られる。

15. 立川国営昭和記念公園

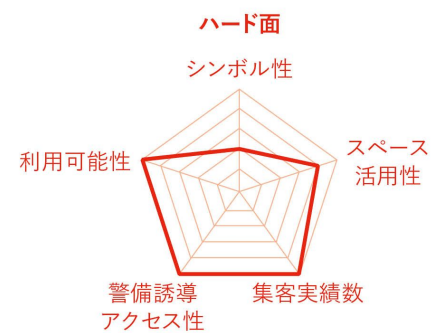
詳細：立川国営昭和記念公園



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ シンボル性の評価が低い。
- ・ 様々な形態のイベントが開催しやすく、イベント開催にあたってのハードルが低い。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 国内の認知度が低い。
- ・ エリアを持つ歴史性の評価が低い。
- ・ イベントテーマとの整合性に関する評価は全体的には高くないが、「四季に彩られた日本の自然」イベントの開催場所としての評価は、16候補地中最も高く、第1位の評価を得ている。

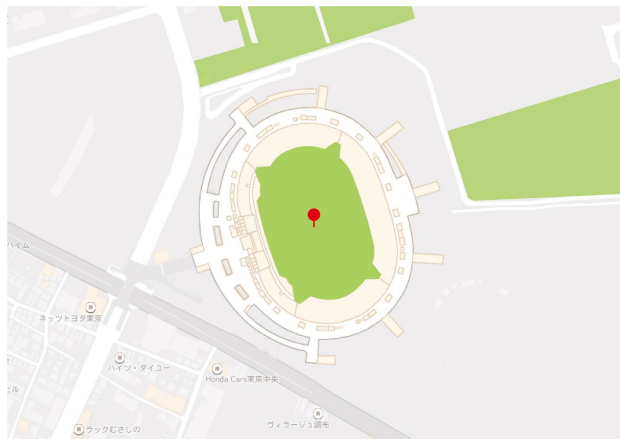


○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 大型イベントについては周辺道路の使用許可が必要となる。

16. 調布味の素スタジアム周辺

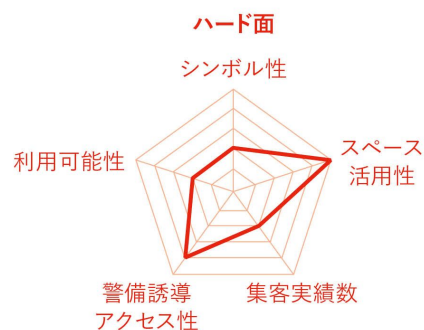
詳細：味の素スタジアム等の施設



評価基準による採点結果

○ハード面のインフラ評価

- ・ シンボル性の評価が低い。
- ・ 様々な形態のイベントが開催しやすく、警備誘導性も高い。
- ・ 味の素スタジアムは、例年空き日程は5日程度であり、利用には日程調整が必要である。



○ソフト面のインフラ評価

- ・ 国内の認知度が低い。
- ・ エリアが持つ歴史性の評価が低い。
- ・ 「日本のパフォーマンスイベント」の開催場所としての評価が16候補地中最も高く、第1位。



○場所特有の留意すべき規制・課題

- ・ 味の素スタジアムで開催する場合は、開催日が限られる。

1. 評価点データ

ハード面：①シンボル性（国内アンケート調査）

得点	5	4	3	2	1	5+4+3 （「思う」の合計）	5段階評価
場所	極めて思う	かなり思う	まあまあ思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		
①表参道	9.2	17.5	43.1	27.1	3.1	69.8	4
②渋谷スクランブル交差点	15.7	33.0	35.8	12.0	3.5	84.5	5
③新宿御苑	7.8	23.1	39.3	25.4	4.4	70.2	4
④東京都庁前	8.5	19.1	36.7	29.0	6.7	64.3	4
⑤銀座中央通り	10.1	28.5	42.9	14.4	4.0	81.5	5
⑥秋葉原中央通り	8.9	17.9	44.0	23.5	5.6	70.8	4
⑦東京駅丸の内口 行幸通り	11.0	26.1	45.0	14.2	3.8	82.1	5
⑧上野公園	12.0	27.7	44.0	14.1	2.1	83.7	5
⑨代々木公園	5.0	15.4	40.5	32.0	6.9	60.9	4
⑩池袋西口	3.6	5.6	28.4	39.6	22.8	37.6	2
⑪神宮外苑+いちよう並木	9.3	18.6	44.2	23.7	4.2	72.1	4
⑫六本木けやき坂通り	4.3	10.7	32.9	41.4	10.7	47.9	3
⑬お台場シンボルプロムナード公園	5.8	13.9	31.8	35.0	13.5	51.5	3
⑭東京湾岸エリア	4.7	15.7	39.8	29.9	9.9	60.2	4
⑮立川国営昭和記念公園	6.1	11.7	33.7	36.8	11.7	51.5	3
⑯調布味の素スタジアム周辺	5.0	5.0	17.3	39.6	33.1	27.3	2

ハード面：①シンボル性（コンソーシアムメンバー評価）

場所	①林	②南條	③谷川	④三代川	平均	5段階評価
①表参道	3	3	5	5	4.0	4
②渋谷スクランブル交差点	5	4	5	5	4.8	5
③新宿御苑	3	3	4	5	3.7	4
④東京都庁前	3	2	4	3	3.0	3

⑤銀座中央通り	4	5	5	5	4.8	5
⑥秋葉原中央通り	5	2	3	5	3.8	4
⑦東京駅丸の内口 行幸通り	5	5	5	5	5.0	5
⑧上野公園	3	3	4	4	3.5	4
⑨代々木公園	2	3	4	3	3.0	3
⑩池袋西口	1	2	3	2	2.0	2
⑪神宮外苑+いちょう並木	2	4	5	4	3.8	4
⑫六本木けやき坂通り	3	4	3	3	3.3	3
⑬お台場シンボルプロムナード公園	3	3	3	3	3.0	3
⑭東京湾岸エリア	3	2	3	4	3.0	3
⑮立川国営昭和記念公園	2	1	2	2	1.8	2
⑯調布味の素スタジアム周辺	2	1	2	2	1.8	2

ハード面：②スペース活用性（インターネット調査・関係者ヒアリング調査）

場所	自由参加型				
	展示会イベント	飲食イベント	フェスティバルイベント	デコレーションイベント	コスプレイベント
①表参道	○ 事例： スーパーよさこい	○ 事例： エル・グルメ表参道 街バル（飲食施設）	○ 事例： アイルランドフェス ティバル	○ 事例： 表参道イルミネー ション	△ （ヒアリングより可 能性あり）
②渋谷スクランブル交 差点			○ 事例： 渋谷盆踊り大会		△ （ヒアリングより可 能性あり）
③新宿御苑	○ 事例： ロハスデザイン大賞 新宿御苑菊花壇展 新宿御苑フォトコン テスト	○ 事例： 新宿御苑 お花見 GTFグリーンチャレ レンジデー（酒類は不 可）	○ 事例： ロハスデザイン大賞 GTFグリーンチャレ レンジデー	○ 事例： 新宿御苑菊花壇展	
④東京都庁前		○ 事例： 水と緑のEvening Bar!!!（新宿中央公 園）	○ 事例： TOKYOoutsideFestiv al(新宿中央公園)		
⑤銀座中央通り		○ 事例： 銀茶会（歩行者天 国）	○ 事例： ゆかたで銀ぶら（歩 行者天国）	○ 事例： GINZA ILLUMINATION	
⑥秋葉原中央通り			○ 事例： UDX夏祭り アキバ大好き!祭り		○ 事例： アキバ大好き!祭り
⑦東京駅丸の内口 行 幸通り+周辺	○ 事例： 丸の内・触れる地球 ミュージアム（行幸 通り地下通路）	○ 事例： 東京丸の内盆踊り （屋台出店）	○ 事例： 東京丸の内盆踊り	○ 事例： 光都東京・ LIGHTOPIA 東京ミチテラス	
⑧上野公園	○ 事例： Tokyo数寄フェス	○ 事例： 東京江戸ウィーク	○ 事例： Tokyo数寄フェス	○ 事例： Tokyo数寄フェス	△ （ヒアリングより可 能性あり）
⑨代々木公園	○ 事例： SHIBUYA SPORTS CAR FES	○ 事例： タイフェスティバル フィエスタ・デ・エ スパーニャ	○ 事例： タイフェスティバル フィエスタ・デ・エ スパーニャ	○ 事例： 青の洞窟 SHIBUYA	△ （ヒアリングより可 能性あり）

⑩池袋西口	○ 事例： 新池袋モンパルナス まちかど回遊美術館	○ 事例： 池袋オクトーバー フェスト	○ 事例： 東京フラフェスタin 池袋 東京よさこいコンテ スト	○ 事例： パレンタインズデー イルミネーション	△ (ヒアリングより可 能性あり)
⑪神宮外苑+いちよう 並木	○ 事例： トヨタ博物館 クラ シックカー・フェス ティバル	○ 事例：いちよう祭り	○ 事例：いちよう祭り		
⑫六本木けやき坂通り	○ 事例： SKYLINE 60Th TIME LINE (ヒルズ アリーナ)	○ 事例： 六本木ヒルズ盆踊り (キッチンカー)	○ 事例： 六本木ヒルズ盆踊り	○ 事例： けやき坂イルミネー ション	△ (ヒアリングより可 能性あり)
⑬お台場シンボルプロ ムナード公園		○ 事例： お台場オクトーバー フェスト 日本ワイン MATSURI祭	○ 事例： TOKYO IDOL FESTIVAL	○ 事例： 臨海副都心チュー リップ フェスティバル	△ (ヒアリングより可 能性あり)
⑭東京湾岸エリア (晴 海・竹芝)	○ 事例： 晴海オータムフェス ティバル	○ 事例： 晴海オータムフェス ティバル 竹芝夏フェス	○ 事例： 晴海オータムフェス ティバル 竹芝夏フェス		
⑮立川国営昭和記念公 園	○ 事例： 動物モノマネ樹木☆ 写真展	○ 事例： まんぱく ニュースポーツ EXPO	○ 事例： ニュースポーツ EXPO	○ 事例： Winter Vista Illumination	△ (ヒアリングより可 能性あり)
⑯調布味の素スタジア ム周辺	○ 事例： 村内家具展示会	○ 事例： ラグビーフェスティ バル HAPPY HALLOWEEN! in 味スタ	○ 事例： ラグビーフェスティ バル		△ (ヒアリングより可 能性あり)

場所	観覧鑑賞型					○の数 (△ 含む)	5段階評価
	大型ス テージイ ベント	パレードイ ベント	打ち上げ 型イベン ト	映像コンテン ツイベント	音楽イベ ント		
①表参道	○ 事例： スーパーよさ こい ハロウィーン パンプキンパ	○ 事例： スーパーよさこ い ハロウィーンパ ンプキンパレー		○ 事例：Omotesando Hills CHRISTMAS (表参道ヒルズ)	○ 事例： 建国記念の日 奉祝パレード ハロウィーン パンプキンパ	9	5

	リード アイルランド フェスティバル	ド 建国記念の日奉 祝パレード			リード		
②渋谷スクランブル交 差点	○ 事例： カウントダウン イベント 渋谷盆踊り大 会	○ 事例： TOKYO LGBT PRIDE PARADE			○ 事例： 渋谷盆踊り大 会	6	3
③新宿御苑	○ 事例： 森の薪能 GTFグリーン チャレンジ デー				○ 事例： GTFグリーン チャレンジ デー	6	3
④東京都庁前	○ 事例： 東京都栄誉 賞・ 都民スポーツ 大賞表彰式 (都庁 都民 広場)			○ 事例： 2020年東京五輪開 幕3年前プロジェ クションマッピン グ(都庁 都民広 場)	○ 事例： 新宿 ONE ASIA 文化祭 (新宿中央公 園)	5	3
⑤銀座中央通り		○ 事例： リオ五輪メダリ ストパレード			○ 事例： 世界のお巡り さんコンサ ート(音楽隊パ レード)	5	3
⑥秋葉原中央通り	○ 事例： UDX夏祭り アキバ大好 き!祭り				○ 事例： UDX夏祭り	4	2
⑦東京駅丸の内口 行 幸通り+周辺	○ 事例： 東京丸の内盆 踊り	○ 事例： 外国大使の信任 状捧呈式			○ 事例： 東京丸の内盆 踊り	7	4
⑧上野公園	○ 事例： 東京江戸 ウィーク			○ 事例： 「バベルの塔」 3DCG プロジェク ション&バーチャ ルコンサート (上野の森美術 館)	○ 事例： 東京・春・音 楽祭	8	4
⑨代々木公園	○ 事例： タイフェス ティバル フィエスタ・ デ・エスパー ニャ				○ 事例： Spring Love 春風 アースデイ東 京	7	4

⑩池袋西口	○ 事例： 東京フラフェ スタin池袋 池袋ジャズ フェスティバ ル				○ 事例： 池袋ジャズ フェスティバ ル フォーク&カ ントリー ウエストパー クフェスティ バル	7	4
⑪神宮外苑+いちよう 並木	○ 事例： いちよう祭り		○ 事例： 神宮外苑花 火大会	○ 事例： コールマンアウト ドアリゾートパー ク	○ 事例： 神宮外苑花火 大会	7	4
⑫六本木けやき坂通り	○ 事例： 東京国際映画 祭 (ヒルズア リーナ)	△ (ヒアリングよ り可能性あり)		○ 事例： 映画グリーンホー ネット ジャパンプレミア (ヒルズアリー ナ)	○ 事例： J-WAVE TOKYO M.A.P.S (ヒ ルズアリー ナ)	9	5
⑬お台場シンボルプロ ムナード公園	○ 事例： TOKYO IDOL FESTIVAL				○ 事例： TOKYO IDOL FESTIVAL ブラジルカー ニバル	6	3
⑭東京湾岸エリア (晴 海・竹芝)	○ 事例： 東京みなと祭 り				○ 事例： 晴海オータム フェスティバ ル 東京みなと祭 り	5	3
⑮立川国営昭和記念公 園	○ 事例： ニュースポー ツEXPO		○ 事例： 立川まつり 国営昭和記 念公園花火 大会		○ 事例： 立川いったい 音楽まつり	8	4
⑯調布味の素スタジア ム周辺	○ 事例： a-nation ももクロ夏の バカ騒ぎ	○ 事例： 東北六次祭りパ レード	○ 事例： ファイヤー ワークスナ イト	○ 事例： ラグビーフェス ティバル	○ 事例： a-nation ももクロ夏の バカ騒ぎ	9	5

ハード面：③集客実績数（インターネット調査）

場所	5	4	3	2	1	5段階評価
	20万人以上	15万人～20万人	10万人～15万人	5万人～10万人	1万人～5万人	
①表参道	表参道イルミネーション （1日31万人 ：800万人26日間）					5
②渋谷スクランブル交差点			YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN 2017-2018 （1日10万人）			3
③新宿御苑					新宿御苑 お花見（1日2.5万人：78万人31日間）	1
④東京都庁前					TOKYOOutside Festival（1日1.5万人：3万人2日間）	1
⑤銀座中央通り	リオ五輪メダリストパレード（1日80万人）					5
⑥秋葉原中央通り					アキバ大好き！祭り（1日1.8万人：3.5万人2日間）	1
⑦東京駅丸の内口行幸通り+周辺	光都東京 LIGHTOPIA（1日23万人：209万人9日間）					5
⑧上野公園			Tokyo数寄フェス（1日10.7万人：32万人3日間）			3
⑨代々木公園		タイフェスティバル（1日15万人：30万人2日間）				4

⑩池袋西口			東京フラフェスタin池袋（1日12.7万人：38万人3日間）			3
⑪神宮外苑+いちよう並木	神宮外苑花火大会（1日32万人）					5
⑫六本木けやき坂通り			けやき坂イルミネーション（1日14万人：700万人49日間）			3
⑬お台場シンボルプロムナード公園					TOKYO IDOL FESTIVAL（1日2.3万人：7万人3日間）	1
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	東京湾大華火祭（1日72万人）					5
⑮立川国営昭和記念公園	立川まつり国営昭和記念公園花火大会（1日85万人）					5
⑯調布味の素スタジアム周辺				a-nation（1日5.5万人：11万人2日間）		2

ハード面：④警備・アクセス

場所	警備誘導のしやすさ			
	5	3	1	5段階評価
	交通規制は必要ない	会場の1/2以上の通行止めが必要	会場全面の通行止めが必要	
①表参道		○ 事例： アイルランドフェスティバル		3
②渋谷スクランブル交差点			○ 事例： カウントダウンイベント	1
③新宿御苑	○			5
④東京都庁前	○			5
⑤銀座中央通り			○ 事例： ゆかたで銀ぶら 五輪メダリストパレード	1
⑥秋葉原中央通り			○ 事例： 歩行者天国	1
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺	○ 中央帯のみ使用の場合			5
⑧上野公園	○			5
⑨代々木公園	○			5
⑩池袋西口	○			5
⑪神宮外苑+いちよう並木			○ 事例： いちよう祭り	1
⑫六本木けやき坂通り			○ 事例： 六本木ヒルズ盆踊り	1
⑬お台場シンボルプロムナード公園	○			5
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	○			5
⑮立川国営昭和記念公園	○			5
⑯調布味の素スタジアム周辺	○			5

場所	交通利便性の高さ					
	公共交通機関の乗り入れている路線数					
	5	4	3	2	1	5段階評価
	鉄道5路線以上	鉄道4路線	鉄道3路線	鉄道2路線	鉄道1路線以下	
①表参道	○ 表参道駅： 銀座線、千代田線、半蔵門線 明治神宮前駅： 千代田線、副都心線 原宿駅：山手線					5
②渋谷スクランブル交差点	○ 渋谷駅： 山手線、埼京線、湘南新宿ライン、銀座線、井の頭線、東横線、副都心線、半蔵門線、田園都市線					5
③新宿御苑	○ 新宿御苑駅： 丸ノ内線 新宿三丁目駅： 丸ノ内線、副都心線、都営新宿線 千駄ヶ谷駅： 総武線					5
④東京都庁前	○ 都庁前駅： 大江戸線 新宿駅： 山手線、埼京線、湘南新宿ライン、中央線・総武線、京王線、京王新線、小田急線、丸ノ内線、都営大江戸線					5
⑤銀座中央通り	○ 銀座駅： 銀座線、丸ノ内線、日比谷線 銀座一丁目駅： 有楽町線 有楽町駅： 山手線、京浜東北線					5
⑥秋葉原中央通り	○ 秋葉原駅： 山手線、京浜東北線、中央線・総武線、日比谷線 末広町駅： 銀座線					5

⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺	○ 東京駅： 山手線、京浜東北 線、中央線・総武 線、東海道線、横 須賀線、京葉線、 上野東京ライン、 武蔵野線、東海 道・東北・北陸新 幹線					5
⑧上野公園	○ 上野駅： 山手線、京浜東北 線、常磐線、宇都 宮線・高崎線、上 野東京ライン、東 北・北陸新幹線、 銀座線、日比谷線 京成上野駅： 京成線					5
⑨代々木公園		○ 原宿駅： 山手線 代々木公園駅： 千代田線 明治神宮前駅： 千代田線、副都心線 代々木八幡駅： 小田急線				4
⑩池袋西口	○ 池袋駅： 山手線、埼京線、 湘南新宿ライン、 東武東上線、西武 池袋線、丸ノ内 線、有楽町線、副 都心線					5
⑪神宮外苑+い ちよう並木	○ 外苑前駅： 銀座線 青山一丁目駅： 銀座線、半蔵門 線、大江戸線 信濃町駅： 中央線・総武線 国立競技場駅： 大江戸線					5
⑫六本木けやき坂 通り			○ 六本木駅： 日比谷線、大江戸線 麻布十番駅： 南北線、大江戸線			3
⑬お台場シンボル プロムナード公園				○ 東京テレポート駅： りんかい線 青海駅： ゆりかもめ お台場海浜公園駅： ゆりかもめ 台場駅： ゆりかもめ		2

⑭東京湾岸エリア (晴海・竹芝)					○ 竹芝駅： ゆりかもめ 晴海： バス便	1
⑮立川国営昭和記念公園		○ 西立川駅： 青梅線 立川駅： 中央線、南部線、青梅線 立川北駅： 多摩都市モノレール				4
⑯調布味の素スタジアム周辺					○ 飛田給駅： 京王線	1

場所	交通利便性の高さ					
	最も近い公共交通機関から候補地までの時間距離					
	5	4	3	2	1	5段階評価
	2分以内	3分～5分	6分～10分	10分～15分	15分以上	
①表参道	○ 表参道駅：0分					5
②渋谷スクランブル交差点	○ 渋谷駅：1分					5
③新宿御苑		○ 新宿御苑駅：5分 新宿三丁目駅：5分 千駄ヶ谷駅：5分				4
④東京都庁前	○ 都庁前駅：0分					5
⑤銀座中央通り	○ 銀座駅：0分 銀座一丁目駅：0分					5
⑥秋葉原中央通り		○ 秋葉原駅：3分 末広町駅：3分				4
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺	○ 東京駅：1分					5

⑧上野公園	○ 京成上野駅：1分 上野駅：2分					5
⑨代々木公園		○ 原宿駅：3分 代々木公園駅：3分 明治神宮前駅：3分				4
⑩池袋西口	○ 池袋駅：2分					5
⑪神宮外苑+いちょう並木		○ 外苑前駅：3分 青山一丁目駅：3分				4
⑫六本木けやき坂通り		○ 六本木駅：5分 麻布十番駅：5分				4
⑬お台場シンボルプロムナード公園	○ 東京テレポート駅：1分					5
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	○ ゆりかもめ：1分 （竹芝）					5
⑮立川国営昭和記念公園	○ 西立川駅：2分					5
⑯調布味の素スタジアム周辺		○ 飛田給駅：5分				4

ハード面：⑤利用可能性（関係者ヒアリング調査）

	ヒアリング調査コメント
①表参道	3月アイルランドフェスティバル、8月スーパーよさこい、10月ハロウィンパレードの時期から前後1か月くらいをはずさないと開催できない。
②渋谷スクランブル交差点	駅前が再開発中でもあり、極めて難しいが、オリパイベントということであれば可能性がゼロというわけではない。
③新宿御苑	3～4月（桜の時期）と11月（紅葉・菊イベント）の時期は開催が難しい。
④東京都庁前	東京都主催・共催優先で前年秋に翌年度の申請を行う。
⑤銀座中央通り	計画書次第のためなんとも言えない。
⑥秋葉原中央通り	歩行者天国の期間は、緊急自動車以外のすべての車両が規制対象となっている。
⑦東京駅丸の内口 行幸通り	東京駅から日比谷通りまでの中央の歩道部分であれば可能性はある。（車道は交通量もあり難しい）（陛下が通る場合に、急に中止になる可能性がある）
⑧上野公園	土日は平成30年の夏までほぼ埋まっている。（火～木の平日なら可能）
⑨代々木公園	土日はほとんど埋まっている。（平日火・水なら空いている）
⑩池袋西口	池袋西口公園：年間半分程度。（4月、10月：東京芸術祭は厳しい） 東京芸術芸場：半分程度一般貸し出し。
⑪神宮外苑	軟式野球場：プロ野球開催日以外。 神宮球場：12月～2月でないとなし。
⑫六本木けやき坂通り	ヒルズアリーナ：年間200日くらいは利用がある。 （7月中旬～8月末はテレ朝イベントのため使用できない）
⑬お台場シンボルプロムナード公園	年間200程のイベント開催がある。 （2018年6～8月の週末は空きなし）
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	晴海ターミナル：年間160日ほど予定が入っている。 竹芝ターミナル：ほぼ空いている。
⑮立川国営昭和記念公園	春・秋は開催が難しい日もある。
⑯調布味の素スタジアム周辺	味の素スタジアムは、例年空き日程は5日程度。

	①年間の使用可能性					
	5	4	3	2	1	5段階評価
①表参道		○				4
②渋谷スクランブル交差点			○			3
③新宿御苑		○				4

④東京都庁前		○				4
⑤銀座中央通り				○		2
⑥秋葉原中央通り					○	1
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺			○			3
⑧上野公園			○			3
⑨代々木公園			○			3
⑩池袋西口			○			3
⑪神宮外苑+いちよう並木				○		2
⑫六本木けやき坂通り			○			3
⑬お台場シンボルプロムナード公園			○			3
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）		○				4
⑮立川国営昭和記念公園	○					5
⑯調布味の素スタジアム周辺				○		2

	②夏（6月～8月）の使用可能性					
	5	4	3	2	1	5段階評価
①表参道			○			3
②渋谷スクランブル交差点			○			3
③新宿御苑	○					5
④東京都庁前		○				4
⑤銀座中央通り				○		2
⑥秋葉原中央通り					○	1
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺			○			3
⑧上野公園			○			3
⑨代々木公園			○			3
⑩池袋西口		○				4
⑪神宮外苑+いちよう並木					○	1
⑫六本木けやき坂通り					○	1
⑬お台場シンボルプロムナード公園				○		2
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	○					5

⑮立川国営昭和記念公園	○					5
⑯調布味の素スタジアム周辺				○		2

ソフト面：①国内の認知度（国内アンケート調査）

場所	全体	性別		年齢別					5段階評価
		男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代以上	
①表参道	54.3	53.3	55.6	46.9	60.2	50.8	60.6	51.9	3
②渋谷スクランブル交差点	72.4	70.2	75.2	76.1	72.4	68.5	75.8	68.9	4
③新宿御苑	49.3	47.0	52.3	35.4	50.4	43.5	59.1	57.5	3
④東京都庁前	47.3	46.7	48.1	37.2	46.3	46.0	55.3	50.9	3
⑤銀座中央通り	54.5	50.9	59.0	40.7	56.9	45.2	64.4	65.1	3
⑥秋葉原中央通り	50.5	52.4	48.1	48.7	46.3	50.0	60.6	45.3	3
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺	53.2	50.6	56.4	45.1	52.8	45.2	62.9	59.4	3
⑧上野公園	62.7	60.5	65.4	54.9	61.0	55.6	70.5	71.7	4
⑨代々木公園	43.3	41.0	46.2	35.4	45.5	38.7	47.0	50.0	3
⑩池袋西口	32.9	31.3	35.0	29.2	35.0	27.4	39.4	33.0	2
⑪神宮外苑+い ちよう並木	36.0	34.9	37.2	23.9	32.5	31.5	47.7	43.4	2
⑫六本木けやき坂 通り	23.4	19.3	28.6	18.6	27.6	21.0	23.5	26.4	2
⑬お台場シンボル プロムナード公園	37.3	37.7	36.8	35.4	43.1	29.8	43.2	34.0	2
⑭東京湾岸エリア (晴海・竹芝)	45.8	45.2	46.6	38.1	43.9	44.4	54.5	47.2	3
⑮立川国営昭和記 念公園	27.3	25.3	29.7	17.7	26.0	25.0	36.4	30.2	2
⑯調布味の素スタ ジアム周辺	23.2	23.2	23.3	20.4	29.3	21.0	25.8	18.9	2

ソフト面：②地権者（関係者ヒアリング調査）

場所	国	東京都	区・市	民間企業	公益法人	5段階評価
①表参道		○ 都道		○ 商店街		4
②渋谷スクランブル交差点		○ 都道	○ 区道	○ 商店街		3
③新宿御苑	○ 環境省					5
④東京都庁前		○ 都庁 都民広場	○ 新宿区（新宿中央公園）			4
⑤銀座中央通り	○ 国道			○ 商店街		4
⑥秋葉原中央通り	○ 国道	○ 都道		○ 商店街		3
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺		○ 都道		○ JR東日本		4
⑧上野公園		○ 都立公園				5
⑨代々木公園		○ 都立公園				5
⑩池袋西口		○ 東京芸術劇場	○ 豊島区（池袋西口公園）			4
⑪神宮外苑+いちょう並木		○ 都道			○ 明治神宮	4
⑫六本木けやき坂通り			○ 区道	○ 森ビル		4
⑬お台場シンボルプロムナード公園		○ 都立公園				5
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）				○ 東京港埠頭		5
⑮立川国営昭和記念公園	○ 国土交通省					5
⑯調布味の素スタジアム周辺				○ 東京スタジアム		5

ソフト面：③規制（関係者ヒアリング調査）

場所	屋外広告物規制がある	騒音制限がある	食品規制がある（飲食不可）	道路使用許可が必要	利用時間規制が想定できる	○の数	5段階評価
①表参道		○ 60db	○	○	○	4	2
②渋谷スクランブル交差点		○ 75db	○	○	○	4	2
③新宿御苑	○ 文化財庭園等景観形成特別地区	○ 規制あり				2	4
④東京都庁前		○ 公園は神社があり音量制限	○ 広場は防火対象物のため			2	4
⑤銀座中央通り		○ 75db	○	○	○	4	2
⑥秋葉原中央通り		○ 60db	○	○	○	4	2
⑦東京駅丸の内口 行幸通り		○ 60db	○	○	○	4	2
⑧上野公園		○ 動物園が近い ため音量制限				1	5
⑨代々木公園		○				1	5
⑩池袋西口		○ 70db				1	5
⑪神宮外苑+いちよう並木		○ 60db		○		2	4
⑫六本木けやき坂通り		○ 85db	○	○		3	3
⑬お台場シンボルプロムナード公園	○ 広告協定地区	○				2	4
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	○ 水辺景観形成特別地区	○				2	4

⑮立川国営昭和記念公園		○				1	5
⑯調布味の素スタジアム周辺		○				1	5

ソフト面：④エリアが持つ歴史性（国内アンケート調査）

場所	5	4	3	2	1	5+4+3 （「感じる」の合計）	5段階評価
	非常に感じる	かなり感じる	まあまあ感じる	あまり感じない	全く感じない		
①表参道	4.9	7.4	23.4	48.6	15.7	35.7	2
②渋谷スクランブル交差点	4.4	9.0	23.8	42.0	20.8	37.2	2
③新宿御苑	11.9	27.5	41.7	14.6	4.4	81.1	5
④東京都庁前	4.6	8.5	22.6	43.1	21.2	35.7	2
⑤銀座中央通り	8.9	24.2	43.6	17.8	5.5	76.7	4
⑥秋葉原中央通り	5.6	11.6	26.2	36.1	20.5	43.4	3
⑦東京駅丸の内口 行幸通り	14.5	24.5	42.5	13.8	4.7	81.5	5
⑧上野公園	12.0	27.5	46.1	11.5	2.9	85.6	5
⑨代々木公園	5.8	12.0	34.7	40.2	7.3	52.5	3
⑩池袋西口	3.6	5.1	18.8	43.7	28.9	27.5	2
⑪神宮外苑木	6.0	17.7	45.1	24.7	6.5	68.8	4
⑫六本木けやき坂通り	4.3	8.6	22.1	48.6	16.4	35.0	2
⑬お台場シンボルプロムナード公園	4.9	8.1	22.0	40.4	24.7	35.0	2
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	4.4	6.9	24.5	43.1	21.2	35.8	2
⑮立川国営昭和記念公園	5.5	11.0	33.7	38.7	11.0	50.2	3
⑯調布味の素スタジアム周辺	5.0	4.3	15.1	38.1	37.4	24.4	2

ソフト面：④エリアが持つ歴史性（コンソーシアムメンバー評価）

場所	①林	②南條	③谷川	④三代川	平均値	5段階評価
①表参道	4	3	5	4	4.0	4
②渋谷スクランブル交差点	3	5	2	3	3.3	3
③新宿御苑	3	5	4	4	4.0	4
④東京都庁前	3	3	2	3	2.8	3
⑤銀座中央通り	4	4	5	4	4.3	4

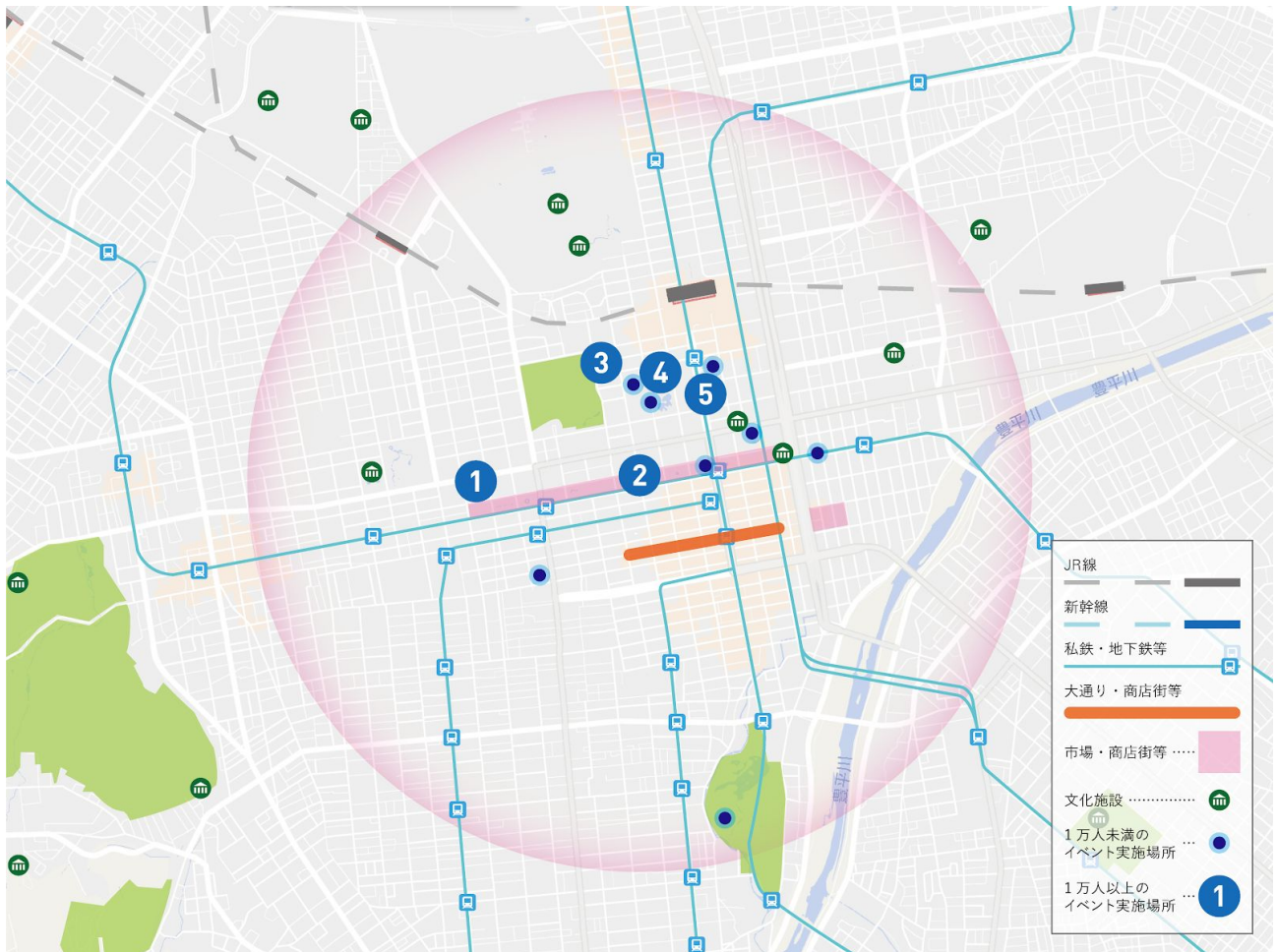
⑥秋葉原中央通り	4	1	2	3	2.5	3
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺	5	5	5	5	5.0	5
⑧上野公園	4	4	3	5	4.0	4
⑨代々木公園	3	4	3	3	3.3	3
⑩池袋西口	2	2	2	2	2.0	2
⑪神宮外苑+いちょう並木	3	5	5	4	4.3	4
⑫六本木けやき坂通り	3	4	2	3	3.0	3
⑬お台場シンボルプロムナード公園	2	2	2	3	2.3	2
⑭東京湾岸エリア（晴海・竹芝）	3	2	2	3	2.5	3
⑮立川国営昭和記念公園	3	1	3	2	2.3	2
⑯調布味の素スタジアム周辺	2	1	2	2	1.8	2

ソフト面：⑤イベントテーマとの整合性

場所	日本の祭り	日本の伝統文化・芸術	日本の現代アート	クールジャパン	日本の食	日本の音楽	日本のファッション	日本の映像	日本のパフォーマンス	四季に彩られた日本の自然	20%以上(1点)	40%以上(4点)	合計点	5段階評価
①表参道	11.4	14.5	35.1	22.8	10.2	7.1	65.8	10.8	12.0	10.2	2	1	6	3
②渋谷スクランブル交差点	12.2	5.5	17.3	14.5	4.2	17.1	42.3	32.6	39.0	1.6	2	1	6	3
③新宿御苑	10.2	41.7	11.5	7.5	7.1	3.7	2.4	18.6	6.8	69.2	0	2	8	4
④東京都庁前	7.8	14.1	25.4	33.2	5.7	4.2	2.1	28.6	24.4	6.0	4	0	4	2
⑤銀座中央通り	14.4	33.7	19.9	19.6	29.8	8.6	48.2	24.8	15.3	4.0	3	1	7	4
⑥秋葉原中央通り	12.9	14.2	20.5	29.1	6.0	16.6	18.5	30.1	47.7	1.7	3	1	7	4
⑦東京駅丸の内口 行幸通り+周辺	11.3	45.3	24.8	20.1	12.6	6.3	10.7	30.8	19.5	10.1	3	1	7	4
⑧上野公園	19.2	45.1	26.1	7.5	10.4	5.1	4.0	22.4	14.9	49.1	2	2	10	5
⑨代々木公園	18.5	18.1	11.2	8.5	12.0	12.4	8.9	17.0	15.8	60.2	0	1	4	2
⑩池袋西口	11.2	16.2	18.8	17.8	16.2	15.2	28.4	20.8	26.4	5.6	3	0	3	2
⑪神宮外苑+いちよう並木	10.7	22.8	19.5	7.4	7.4	7.0	10.2	24.7	13.5	66.0	2	1	6	3
⑫六本木けやき坂通り	5.7	12.1	34.3	22.1	8.6	7.9	30.0	24.3	17.1	33.6	5	0	5	3
⑬お台場シンボルプロムナード公園	7.6	7.2	28.3	23.3	13.5	16.6	18.4	31.4	34.1	10.3	4	0	4	2
⑭東京湾岸エリア(晴海・竹芝)	8.4	9.5	28.5	29.9	9.5	13.1	15.7	30.7	31.8	9.5	4	0	4	2
⑮立川国営昭和記念公園	9.8	19.6	13.5	9.2	9.8	4.9	4.9	22.7	10.4	69.9	1	1	5	3
⑯調布味の素スタジアム周辺	13.7	10.1	8.6	12.2	7.9	20.9	8.6	18.0	59.0	7.2	1	1	5	3

〈資料3〉 調査結果データ（東京以外の拠点調査）

1. 北海道 札幌市 大通公園周辺



過去のイベント実施実績

1. 札幌演劇シーズン

会場：札幌市教育文化会館

動員数：10000～30000人

期間：2017年7月22日（土）～2017年8月23日（水）、2018年1月20日（土）～2018年2月22日（木）

主催団体：札幌演劇シーズン実行委員会

概要：札幌で生まれた優れた演劇作品の長期公演を行う「札幌演劇シーズン」を夏冬それぞれ1か月間開催し、演劇振興を図るとともに、札幌の新たな街の魅力としての活用を図る（一部外国語字幕公演を実施）。札幌演劇シーズン2017-夏では5作品の公演を実施（出演予定団体：yhs、パインソー、ミュージカルユニットもえぎ色、イレブン☆ナイン、intro）。また、札幌演劇シーズン2018-冬では5作品の公演を実施（出演予定団体：イレブン☆ナイン、青年団リンク ホエイ、円山ドジャース、弦巻楽団、コンカリプロデュース）。

Webサイト：<http://s-e-season.com/>

2-1. YOSAKOIソーラン祭り

会場：大通公園をメイン会場として、札幌市内約20会場で開催

動員数：1日あたり約377,600人（総動員数1,888,000人）

期間：2017年6月7日（水）から11日（日）

主催団体：札幌市、札幌商工会議所、一般社団法人札幌観光協会、一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

概要：北海道札幌市で1992年に始まった祭り、高知のよさこい祭りをルーツに、オリジナリティあふれる表現で、演者がグループ・チームを組んで参加する踊りの祭り。演舞楽曲にソーラン節が入っており、次回で27回目を迎える。

Webサイト：<http://www.yosakoi-soran.jp/>

2-2. さっぽろ夏まつり「福祉協賛さっぽろ大通ビアガーデン」

会場：大通公園4丁目～11丁目（9丁目を除く）

動員数：1日あたり約38,700人（総動員数1,043,000人）

期間：2017年7月20日（木）～8月15日（火）

主催団体：札幌市、一般社団法人札幌観光協会、札幌商工会議所

概要：1959年のさっぽろ夏まつり第6回から開催され、2017年で58回目の開催となった福祉協賛さっぽろ大通ビアガーデンは国内最大級の約13,000席が用意され、多くの市民や観光客が札幌のさわやかな夏を楽しむ。

Webサイト：<http://sapporo-natsu.com/>

2-3. さっぽろ雪まつり

会場：大通会場、つど一む会場、すすきの会場

動員数：大通会場 約275,000人（総動員数1,920,000人）、つど一む会場 約60,250人（総動員数723,000人）

主催団体：札幌市、一般社団法人札幌観光協会、札幌市教育委員会、札幌商工会議所

期間：大通会場：2018年2月5日（月）～12日（月・休）22：00までライトアップ、つど一む会場：2018年2月1日（木）～12日（月・休）9時～17時、すすきの会場：2018年2月5日（月）～12日（月・休）23時:00でライトアップ（12日は22時までのライトアップ）

概要：2018年2月に第69回を迎えるさっぽろ雪まつりは、迫力ある大雪氷像が建ち並ぶ「大通会場」、雪とふれあえる「つど一む会場」、氷の幻想的な雰囲気にも包まれる「すすきの会場」の3カ所の会場で行われる。

Webサイト：<http://www.snowfes.com/>

2-4. 札幌国際芸術祭2017

会場：札幌芸術の森、モエレ沼公園、札幌市資料館、まちなかエリア（すすきの・狸小路・円山）など

動員数：380,000人（総動員数）

主催団体：札幌国際芸術祭実行委員会

期間：2017年8月6日（日）～2017年10月1日（日）

概要：札幌市では、2006年3月に「創造都市さっぽろ」宣言をし、都市戦略として、市民の創造性を原動力としたまちづくりの推進に取り組み、2008年には文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」受賞、2013年にはUCCN（ユネスコ創造都市ネットワーク）のメディアアーツ分野へ加盟が認められ、その象徴的事業として2014年度から札幌国際芸術祭（Sapporo International Art Festival、略称：SIAF〈サイアフ〉）を実施している。SIAFの開催により、これまで札幌で開催されることが少なかった質の高い先進的な文化芸術に触れる機会を提供し、市民一人ひとりが持つ創造性を高めるとともに、国内外のアーティストとの多様な交流により、地元のアーティスト等の育成につなげ、札幌のアートシーンの活性化を図っている。アーティストが見出した札幌の特色を活かした作品が展示されることにより、地域の新しい魅力の顕在化を促す。また、市民参加型のプロジェクトにより、人材の発掘・育成を図り、文化芸術の振興につなげている。ウェブサイト・開催概要等は日・英のバイリンガル対応。

Webサイト：<http://siaf.jp>

3. カルチャーナイト2017

会場：札幌市内のカルチャーナイト参加施設

動員数：24,266人

期間：2017年7月21日（金）17：30～22：00（※施設により異なります）

主催団体：認定NPO法人カルチャーナイト北海道（カルチャーナイト実行委員会）

概要：カルチャーナイトとは、官公庁（国、道、札幌市）が持っている公共施設や文化施設及び民間の施設を、1年に1日だけ夜間開放し、それぞれの施設がその専門分野や特色を生かした文化プログラムを用意し、市民や観光客が参加して楽しむという催し。市民と企業と官庁が協働して運営し、参加施設が担う経費や警備や集客については「自己負担」「自己責任」「自助努力」を基本とする。2003年からスタートし今年15年目。参加人数は2万5千人～3万人くらいで安定的に推移している。カルチャーナイトの目的は市民が自分の住んでいる街や文化に関心を持ち、北海道ならではの地域文化の創造と発展に寄与することにある。実施会場の一部はバリアフリー化されており、車いすを利用している方も観覧できるよう十分スペースを確保しているほか、公式HPでは英語サイトを設け、外国人にも対応している。

Webサイト：<http://www.culture-night.com/>

4. 北海道博物館 赤れんがサテライト

会場：北海道庁赤れんが庁舎2階

動員数：約100,000人

期間：2017年4月1日（土）～2018年3月31日（土）

主催団体：北海道博物館

概要：北海道庁旧本庁舎「赤れんが庁舎」は、重要文化財として国の指定を受けた北海道を代表する歴史的建造物であり、国内外から年間60万人以上が訪れる有数の観光スポット。赤れんが庁舎において、北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館である『北海道博物館』の見所を資料展示や映像により紹介をはじめ道内各地の博物館等施設に関する情報をご来訪の観光客の皆さまに紹介する「北海道博物館 赤れんがサテライト」を開設。赤れんがサテライトでは、外国人観光客増加への対応のため、展示パネルの多言語表記のほか、スマホを使った多言語展示解説サービスの導入や多言語プロモーションビデオの放映等を行っている。（日・英・中（簡・繁）・韓・露の6言語）

Webサイト：<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/>

5. さっぽろアートステージ

会場：札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）ほか

動員数：約100,000人

期間：2017年11月1日（水）～2017年12月3日（日）

主催団体：さっぽろアートステージ実行委員会

概要：11月を文化芸術月間とし、文化芸術団体や民間企業、学校等と連携し、演劇や音楽、美術などの部門を中心に多彩なイベントを実施。美術作品の展示会場である札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）は、バリアフリー空間となっており、車椅子の方でも容易に作品鑑賞を楽しんでいただくことができる。舞台芸術部門（札幌劇場祭、北海道中学生演劇発表大会）、音楽部門（クロスロードライブ）、学生音楽部門（さっぽろスクール音楽祭）、美術部門（アートのトリート、スクールアートライブ、キッズアートフェス）各部門に分かれており、キックオフイベントも開催される。

Webサイト：<http://www.s-artstage.com/2017/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント

観覧鑑賞型：大型ステージイベント、パレードイベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

- ・ さっぽろライラックまつり（5月上旬～5月下旬）
- ・ さっぽろラーメンショー（5月上旬～5月下旬）
- ・ YOSAKOIソーラン祭り（5月下旬～6月中旬）
- ・ 花フェスタ（6月中旬～7月上旬）
- ・ サッポロ・シティ・ジャズ（7月上旬～7月中旬）
- ・ さっぽろ夏まつり（7月上旬～8月下旬）
- ・ 北海道マラソン（8月下旬）
- ・ さっぽろオータムフェスト（8月下旬～10月上旬）
- ・ さっぽろホワイトイルミネーション（10月下旬～12月下旬）
- ・ ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo（11月上旬～12月下旬）
- ・ さっぽろ雪まつり（12月下旬～2月下旬）
- ・ 大通公園ウインタースポーツフェスティバル（2月中旬～2月下旬）

○将来計画における課題・展望

訪日外国人の増加により、英語サインおよび外国語対応スタッフの人材確保が課題となっているほか、大通公園において、憩いの空間としての公園とイベント会場としての公園の在り方が両立するようイベント実施主体者と公園管理機関との各種調整が必要がある。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	大通公園及び大通公園周辺に関しては、屋外広告物掲出を禁止している「禁止区域」に当たる。ただし、大通公園でイベントを行う場合などは、イベントの性格を個別に判断し、許可が出ることとなる。なお、札幌駅周辺並びに札幌駅前通り（札幌駅～大通駅まで）は景観保全型広告整備地区として、屋外広告の掲出が制限されている。
騒音制限	大通公園及びその周辺に関しては、固定放送であれば8時～22時の間のみ放送でき、65db以下となる。移動放送となると8時～19時で放送でき、それぞれ、75db以下が基準となっている。ただし、商業放送の連続放送及び学校、病院等の周囲50m以内の区域での拡声放送が禁止されている。
食品規制（飲食不可）	食品規制などは特にない。
道路使用許可	大通公園の周辺道路を使用するならば、札幌市中央区土木部に申請が必要。大通公園自体の使用に関しては、都市公園法に基づき、公園使用許可の申請を行う必要がある。
車両乗り入れ規制	大通公園内への車両進入は原則禁止となっているが、作業車両、搬出入用車両等に関しては申請を行い、許可を取った上で進入可能である。
利用時間規制	イベントを行う使用期間に定めはないが、公園利用者や周辺住民への影響を考慮し、使用時間は公園管理者と協議を行う必要がある。
エリア内での特異な規制	大通公園内の緑の保全のために芝生の上や、樹林帯への設置物は原則認められていない。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	年間304日間大通公園では準備及び撤去を含めイベントが行われている。ただし、大通公園全域で行われるイベントについては準備、撤去期間を含め5月下旬から6月中旬までのYOSAKOIソーラン祭り、7月上旬から8月下旬までのさっぽろ夏まつり、8月下旬の北海道マラソン、8月下旬から10月上旬までのさっぽろオータムフェスト、10月下旬から12月下旬までのさっぽろホワイトイルミネーション、12月下旬から2月下旬までのさっぽろ雪まつりとなっている。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	札幌市（建設局みどりの推進部みどりの管理課、中央区土木部維持管理課など）

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙がっている課題・要望について

大通公園は公園であることから、法令や条例などにより車両進入や広告行為等の規制があるため、会場としての自由度が低い。イベント実施者からはその規制緩和について要望がある。

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

イベント開催時の混雑と特に飲食イベントにおける仮設トイレの設置が課題となっている。

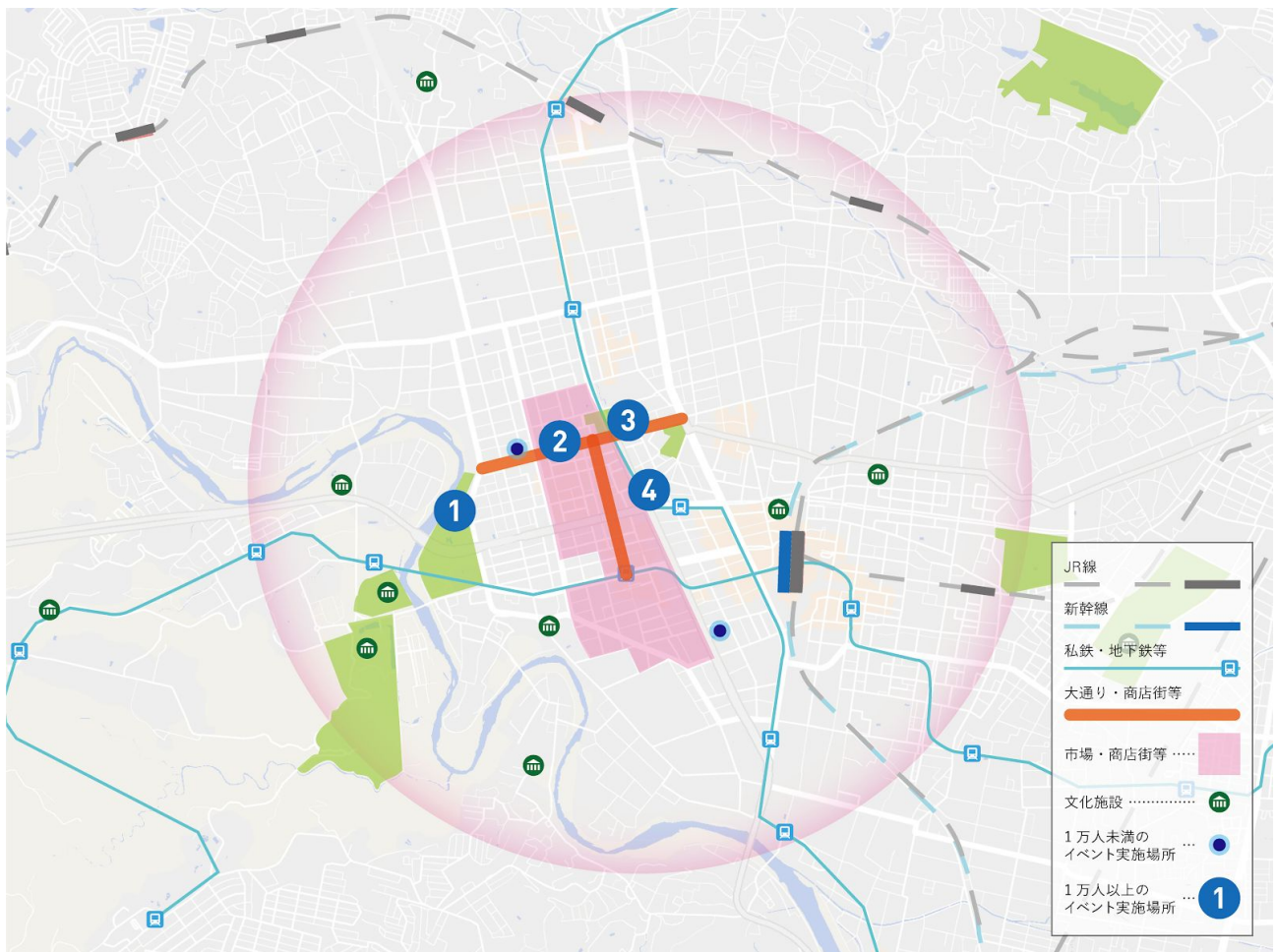
○エリア内において評価の高いイベント・場所について

大通公園を中心に開催されている日本三大イルミネーションに認定されたさっぽろホワイトイルミネーションや大通公園で開催されているミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoは、同時期に開催されており、雪とイルミネーションが融合した幻想的なクリスマスの雰囲気を味わうことができるので、ソーシャルメディアでの評価が高くなっている。

また、YOSAKOIソーラン祭りにおいて、すすきの及び旧道庁前での演舞は、演舞参加者ならびに観客から好評を得ている。すすきのは、夜に演舞を行うので、繁華街という特徴もあり、観客が盛り上がっている様子を見ることができるほか、ライトアップがされており、華やかな演舞を行うことができるとの演舞参加者からの意見が寄せられている。ま

た、旧道庁前ではスペースはあまり大きくないものの北海道の観光名所の前で演舞されているということで、観客から北海道らしさを感じることができるとの意見が寄せられている。

2. 宮城県 仙台市 定禅寺通りから一番町通り周辺



過去のイベント実施実績

1. 東北絆まつり2017仙台

会場：仙台市内（西公園、市民広場、勾当台公園、一番町アーケード、定禅寺通、東二番丁通）※来年度は盛岡市で開催予定（東北6市を巡回開催）

動員数：2017年6月10日（土）163,000人、11日（日）289,000人（総動員数452,000人）

期間：2017年6月10日（土）10:00～20:00、11日（日）10:00～17:00

主催団体：東北絆まつり実行委員会（青森市・秋田市・盛岡市・山形市・仙台市・福島市・青森ねぶた祭実行委員会・秋田市竿燈まつり実行委員会・盛岡さんさ踊り実行委員会・山形県花笠協議会・仙台七夕まつり協賛会・福島わらじまつり実行委員会・青森商工会議所・秋田商工会議所・盛岡商工会議所・山形商工会議所・仙台商工会議所・福島商工会議所）

概要：東北県庁所在地の6祭りパレード及びステージイベントを実施。東北地方の観光、物産PRブースを展開している。

Webサイト：<http://tohoku-kizunamatsuri.jp/>

2. SENDAI光のページェント

会場：仙台市定禅寺通

動員数：約12万人

期間：2017年12月8日（金）～31日（日）

主催団体：SENDAI光のページェント実行委員会

概要：定禅寺通のケヤキ並木が約60万個のイルミネーションに包まれ、幻想的な光の回廊を演出。

Webサイト：<http://www.sendaihikape.jp/>

3-1. とっておきの音楽祭2017

会場：宮城県仙台市中心部（メイン会場市民広場）、市民広場（フィナーレ会場にも使用）、定禅寺通り、勾当台公園、一番町四丁目商店街、ぶらんどーむ一番町商店街、サンモール一番町商店街、クリスマスロード商店街、せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア、仙台駅前など（予定）

動員数：約100,000人

期間：2017年6月4日

主催団体：特定非営利活動法人とっておきの音楽祭

概要：とっておきの音楽祭は、2001年に宮城県仙台市で始まった、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで、「心のバリアフリー」を目指す音楽祭。第1回開催から、皆様の演奏・歌声・ダンスなど様々な「チカラ」を表現できるステージを提供し続けてきている。震災後の開催では、被災地東北からその「チカラ」を発信できる場として広く認知され、宮城県内はもとより東北そして全国にも、存在感と情報発信力を増している。心のバリアだけではなく建物のバリアも取り払おうと、ステージは仙台市中心部の商店街や公園となっており、毎年、県内外から数多くの方々が出演する。障害のある人もない人も参加し、心のバリアフリーを目指す屋外の音楽祭としては、日本最大規模で、現在は、全国18カ所で開催している。

Webサイト：<http://totteokino-ongakusai.jp>

3-2. 仙台・青葉まつり

会場：市民広場、勾当台公園、定禅寺通、東二番町通

動員数：約48万人

期間：2017年20日（土）、21日（日）

主催団体：仙台・青葉まつり協賛会

概要：新緑の仙台を彩るまつり。数千人規模の仙台すずめ踊り演舞が行われ、街中にお囃子が鳴り響く。勇壮な武者行列、豪華絢爛な山鉾巡行などをはじめ、多数の催しを展開。

Webサイト：<http://www.aoba-matsuri.com/>

4. 仙台七夕まつり

会場：仙台市中心部および周辺商店街

動員数：およそ70万人

期間：8月6日～8日

主催団体：仙台七夕まつり協賛会（宮城県、仙台市、仙台商工会議所（事務局）、公益社団法人宮城県観光連盟、公益社団法人仙台観光国際協会、みやぎ仙台商工会、公益社団法人仙台青年会議所、市内各商工会、各報道機関、各企業）

概要：毎年新たに手作りされる豪華絢爛な七夕飾りが最大の魅力。七夕飾りには1つ1つ意味がある。仙台七夕まつりの前日には、仙台七夕花火祭が実施される。

Webサイト：<http://www.sendaitanabata.com/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント、デコレーションイベント

観覧鑑賞型：パレードイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

定禅寺通はケヤキ並木が整備され、「杜の都仙台」の代名詞とも言える場所であり、仙台国際ハーフマラソン、仙台青葉まつり、仙台七夕まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、みちのくYOSAKOIまつり、全日本大学女子駅伝、全日本実業団対抗女子駅伝、SENDAI光のページェントなど、毎年開催される大型催事の主要会場となっている。

また、一番町通は仙台七夕まつりの主要会場の一角となっている。平成29年には、各商店街振興組合が中心となって仙台市中心部商店街活性化協議会が組織され、魅力発信と賑わい向上に努めている。

2020年以降では、これらの大型催事の継続開催をはじめ、年間通じて魅力的なイベントが開催される環境づくりを推進していく。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	定禅寺通は屋外広告物規制がある。 仙台市屋外広告物条例の許可地域に指定されていることから、屋外広告物を掲出する場合には、青葉区街並み形成課であらかじめ許可を受けなければならない。 また、定禅寺通については、「定禅寺通街並み形成ガイドライン」が作成されていることから、ガイドラインに基づいた掲出をしなければならない。
騒音制限	特に規制はないが、近年、当該エリアにマンションが増えたことなどもあり、騒音に対する近隣住民の苦情は増加傾向にある。 そのため、騒音が過度になり過ぎないように一定の配慮は必要。
食品規制（飲食不可）	出店者は保健所の営業許可を受け、指導に従う。また、火気の取扱に関しては、消防からの指導に従う。 ※大型催事においては、近接する勾当台公園・市民広場に飲食ブースが設置されることが殆ど。
道路使用許可	定禅寺通の中央分離帯（グリーンベルト）は公園用地のため、青葉区公園課で使用許可を取ることで使用できる。 定禅寺通の車道を通行止めにして使用する場合は、青葉区道路課および中央警察署との協議が必要になる。新規イベントの場合は、特に地域団体等への事前説明含め、入念な協議が求められる。 一番町通は歩行者天国で、イベント開催実績も多数ある。仙台市中心部商店街活性化協議会という組織が最初の窓口になる。
車両乗り入れ規制	一番町通（アーケード）は交通規制があることから、緊急車両以外、車両乗入れは原則として不可（搬入等車両については要協議）。
利用時間規制	規制はないが、音の出るイベントは周辺住民に配慮した時間設定が求められる。
エリア内での特異な規制	特になし。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	定禅寺通（一部は一番町通も）で毎年開催される大型催事として仙台国際ハーフマラソン（5月第2日曜日）、仙台青葉まつり（5月第3日曜日とその前日）、仙台七夕まつり（8月6～8日）、定禅寺ストリートジャズフェスティバル（9月第2日曜日とその前日）、みちのくYOSAKOIまつり（10月第2月曜日の直前の土日）、全日本大学女子駅伝（10月下旬頃）、全日本実業団対抗女子駅伝（11月下旬頃）、SENDAI光のページェント（12月上旬～31日）などがあり、それと重複する別催事の開催は困難です。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	青葉区公園課（定禅寺通グリーンベルト）、青葉区道路課、仙台中央警察署、仙台市中心部商店街活性化協議会、商店街振興組合、地域団体（「ハロー！定禅寺村」）

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙がっている課題・要望について

- ・ 警察からの要請等もあり、警備費用が年々増加しており、各主催者にとって大きな課題となっている。

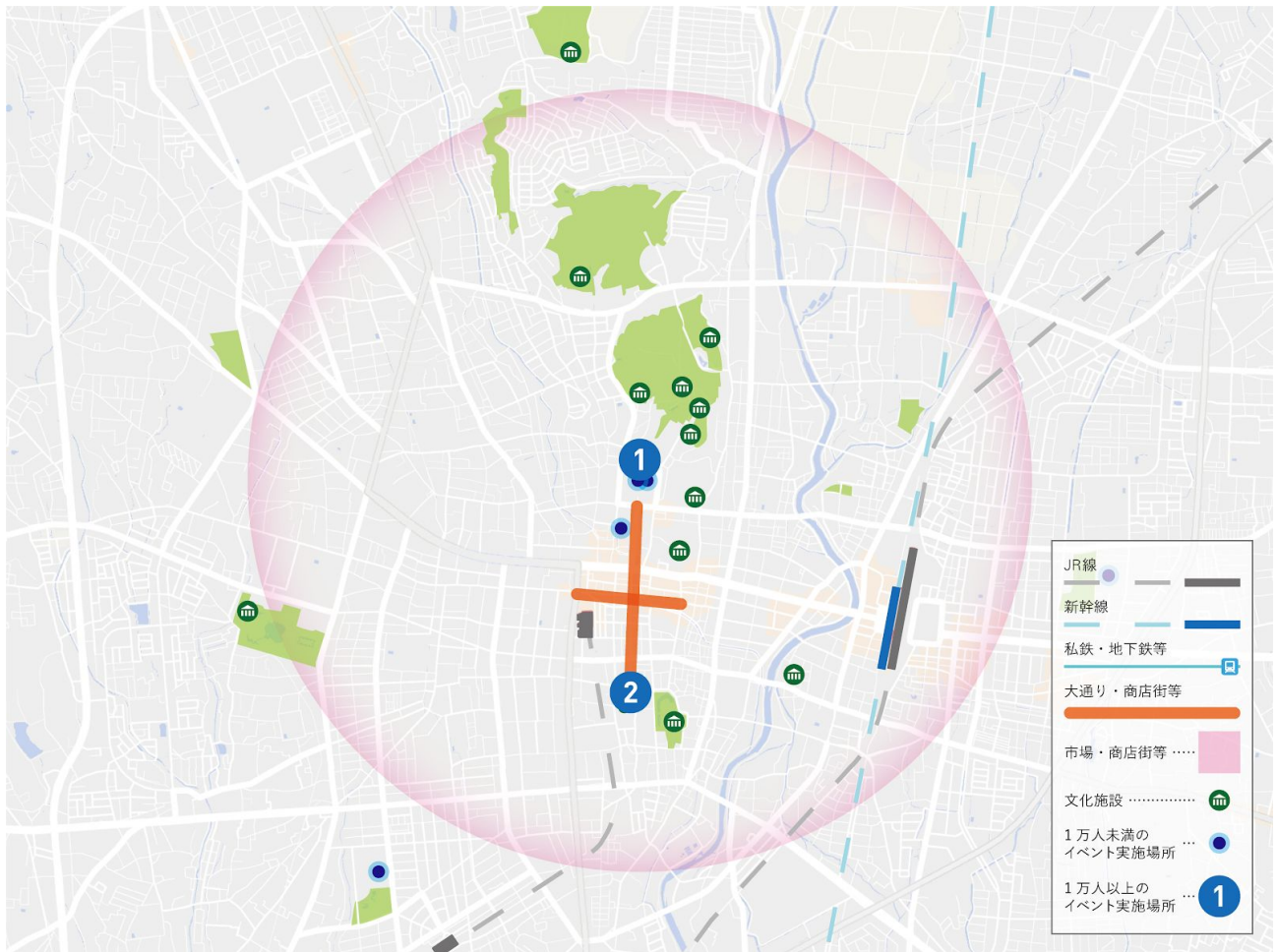
○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

- ・ 大規模催事においてはトイレが不足しがちになっている。
- ・ 仙台市では「仙台市受動喫煙防止対策ガイドライン」を制定して受動喫煙防止に取り組んでおり、イベント会場に喫煙所が設置されないことが多くなっているが、喫煙者の方から喫煙所設置を望む声が寄せられている。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- ・ 定禅寺通・一番町通に近接する勾当台公園・市民広場は、屋外ステージや飲食ブースを設けるのに好立地であり、様々なイベントで活用されている。エリア内にある錦町公園、西公園、元鍛冶丁公園も多くのイベント開催実績がある。
- ・ 定禅寺通沿いにある施設「せんだいメディアテーク」の1階にあるオープンスクエアは、開放的な雰囲気、自由参加型のシンポジウム等を実施するのに適している。建物の設計者は世界的建築家・伊東豊雄氏であり、建築に興味のある方が多く訪れる場所でもある。
- ・ 「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」では、様々なオフィスビルの公開空地が演奏会場として活用されている。
- ・ 定禅寺通グリーンベルト内には3つの彫刻があり、背後のケヤキ並木とあいまって、ポピュラーな撮影スポットとなっている。
- ・ 瑞鳳殿は仙台藩祖・伊達政宗公の霊廟。桃山文化の豪華絢爛な造りは、日本人もさることながら、外国人旅行者からの人気を集めている。また、政宗公は老若男女にわたって人気が高く、おもてなし集団「伊達武将隊」の存在やアニメ・ゲーム等での登場頻度も高いことから、SNS上で多くの関連投稿が見られる。
- ・ 文化横丁、いろは横丁は昔ながらの風情の残る横丁。近年、雑誌等で横丁への注目度が高まり、多くの媒体で取り上げられている。
- ・ 仙台出身のフィギュアスケートオリンピック金メダリスト荒川静香さんと羽生結弦さんの偉業をたたえ、仙台国際センター駅前にモニュメントが設置されている。また、近隣には日本のフィギュアスケート発祥の地「五色沼」があり、フィギュアスケートファンをはじめとする多くの方が写真を撮影している。

3. 栃木県 宇都宮市 栃木県庁周辺



過去のイベント実施実績

1-1. 県民の日記念イベント

会場：栃木県庁本館（1階、15階）、栃木県議会議事堂（1階）、昭和館、県民広場、昭和館前庭

動員数：60,000人

期間：2017年6月17日（土）10:00～15:00

主催団体：栃木県

概要：2017年3月に策定した「とちぎ版文化プログラム」のリーディングプロジェクト事業の一環として、県民の日記念イベントとの同時開催によりユネスコ無形文化遺産登録の「烏山の山あげ行事」と「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」のお囃子の実演のほか、県庁周辺において県内主要屋台による県民参加型の屋台引き回しパレードを行い「祭り」をテーマに栃木の文化の魅力を発信する。式典会場となる県議会議事堂内には障がい者用観覧スペースを用意するほか、外来駐車場に障がい者専用スペースを確保する。

Webサイト：<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c01/kouhou/kenminnohi2017kinenibento.html>

1-2. とちぎ版文化プログラム リーディングプロジェクト事業：プロジェクションマッピング in 県庁 「ヒカリノタビ ～文化が彩る 栃木への誘い～」

会場：栃木県庁昭和館

動員数：約12,000人（2日間合計）

期間：2017年10月20日（金）、21日（土）（※ジャパンカップサイクルロードレースに合わせて実施）

主催団体：栃木県

概要：栃木県では、多くの外国人の来日が見込まれる東京2020大会を絶好の機会と捉え、多くの県民に文化活動を通して東京2020大会への参加を促すとともに、とちぎの魅力ある文化を国内外に発信し、本県文化の底上げを図り、地域の活性化にもつなげていくため「とちぎ版文化プログラム」を策定した。これに基づき、県内各地で、障がい者や高齢者、外国人など、あらゆる人々が文化を通して東京2020大会に参加しようとする機運の醸成を図るため、県の主導によりリーディングプロジェクトを推進し、全県的な文化活動の活性化に繋げている。また、取り組むに当たり各年度に統一テーマを設定し、市町、文化団体、民間にもテーマに沿った取組を促すこととしている。「とちぎ版文化プログラム」のコンセプトに基づき、「とちぎの文化」をレガシーとして引き継いでいけるよう、「祭り」を始めとした県内の文化資源を中心に本県の魅力を効果的に発信する、8分程度の映像を県庁昭和館に投影。日本独自の美しい「花鳥風月」に、栃木にある日本有数の自然と、歴史的価値の高い建造物、そして祭事などを織り込んだ3D映像で「とちぎの文化」を体感。プロジェクトマップは30分間隔で5回投影するものとし、インターバルには本県のPR映像を投影。

Webサイト：<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c01/purojekushonnmappinguhoudou.html>

2. とちぎ版文化プログラム リーディングプロジェクト事業：お祭り屋台引き回しパレードおよび伝統芸能ステージ

会場：宇都宮市役所～栃木県庁の約1.2km、栃木県庁

動員数：約20,000人

期間：2017年6月17日（土）（※県民の日記念イベントに合わせて実施）

主催団体：栃木県

概要：「とちぎ版文化プログラム」に取り組むに当たり各年度に統一テーマを設定し、市町、文化団体、民間にもテーマに沿った取組を促すこととしている。県民の日のイベントに合わせ、ユネスコ無形文化遺産に登録された烏山の「山あげ」、鹿沼の「屋台」など県内5市の屋台による県民参加型の引き回しパレードや地域の枠を越えたお囃子の競演、お祭り屋台の展示等により、とちぎの伝統文化の魅力を発信するとともに、その価値を再認識することで、その継承、発展に資する。

Webサイト：<https://participation.tokyo2020.jp/jp/event/detail.html?id=a09280000beH8rAAE>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：飲食イベント、フェスティバルイベント

観覧鑑賞型：パレードイベント、映像コンテンツイベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

栃木県庁では、2018年に栃木県民の日のイベント（6月16日）に合わせ、「とちぎ版文化プログラム」リーディングプロジェクトの2018年の統一テーマである「技・巧」（わざ・たくみ）に沿った伝統芸能の実演、伝統工芸の体験などのイベントを実施する。31年度以降は各年度の統一テーマ（31年度「情景」、32年度「宝」）に沿って取り組んでいく。なお、エリア内では大規模イベントとして、例年「ふるさと宮まつり（来場者2日間で50万人以上）」「ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム（2017年度来場者数48,000人）」が実施されている（30年度以降の実施については不明）。2020年以降の栃木県主催イベントについては、2020年までの活動を踏まえ、今後検討していく。

○**将来計画における課題・展望**

本年度実施したプロジェクションマッピングでは、外国人対応として当日配布用チラシを日本語と英語を並記して作成するにとどまったが、来年度以降実施するイベント等について、訪日外国人の来場を促す情報提供や当日の対応等に更なる工夫が必要と考えている。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	宇都宮市役所～県庁及び県庁前通り 宇都宮市屋外広告物条例 第3種許可地域 宇都宮市屋外広告物条例 広告物景観形成地区
騒音制限	県庁周辺について特に規制は無い。
食品規制（飲食不可）	県庁広場について規制はない。
道路使用許可	使用許可は必要。なお、県民の日記念イベントの際の「お祭り屋台引き回しパレード」の際には市役所～県庁間で使用許可を得ている。
車両乗り入れ規制	県庁構内については、乗り入れの場所、路面の材質等により制限される場合あり。
利用時間規制	原則、県庁開館時間。 なお、準備等のための開館時間外の利用については調整が必要。
エリア内での特異な規制	特になし。
会場の年間スケジュールと、 利用できない時期や具体的な 日数	栃木県本庁舎、県民広場 等 閉館日は、施設点検等で10日程度、年末年始（12月29日～1月3日）
利用についての了承を取る必 要がある地権者や団体	とちぎ未来づくり財団（栃木県総合文化センター指定管理者。県庁駐車場の利用につ いて調整の必要あり）

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

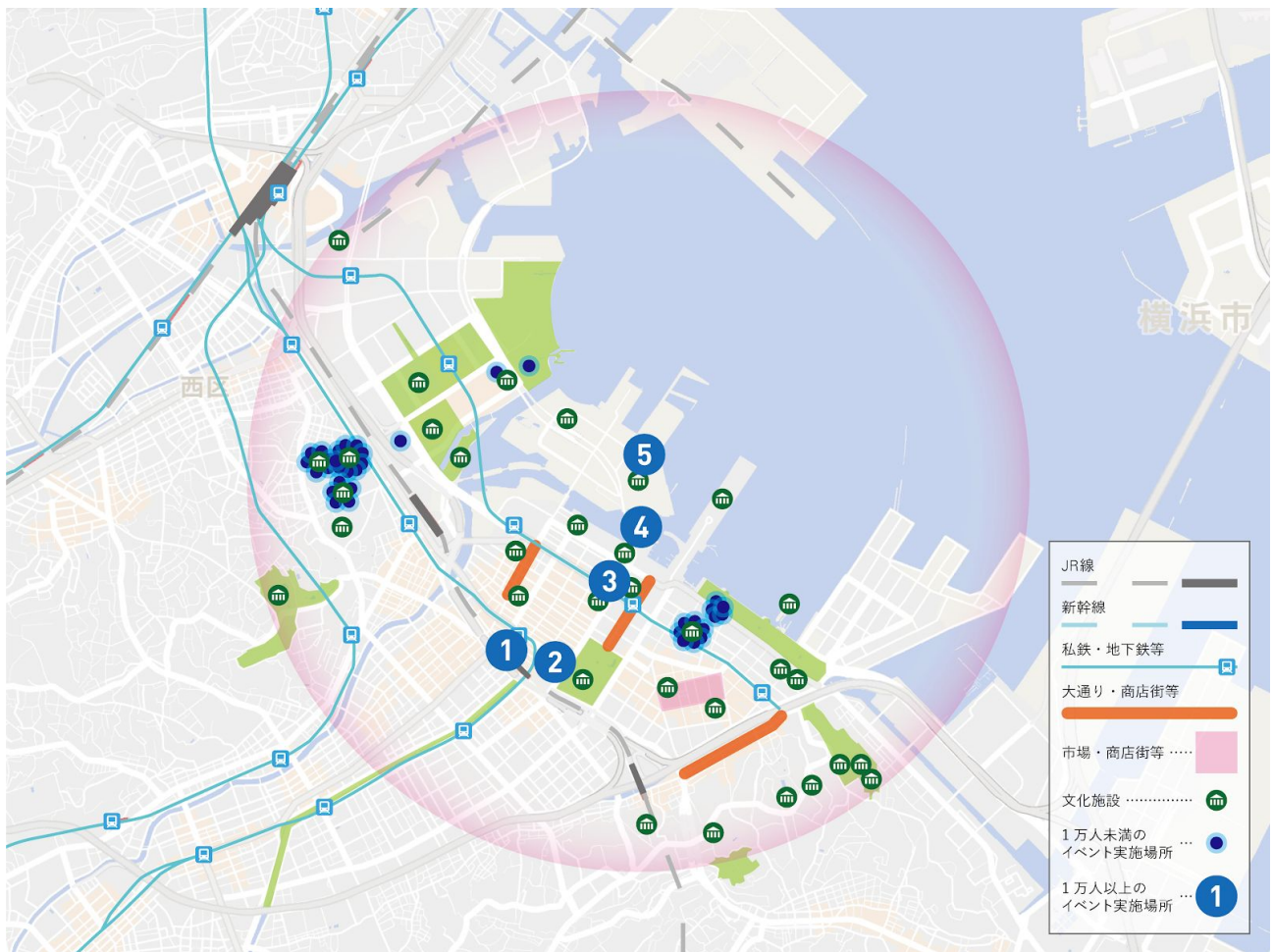
- ・ JR宇都宮駅から県庁までのアクセスがバスのみであること
- ・ 車での県庁来場者による付近の渋滞について

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

県庁周辺の主なイベントスペースは以下のとおり。

- ・ オリオンスクエア（モニターがあり、スポーツ等のパブリックビューイングなども実施）
- ・ 宇都宮城址公園
- ・ 宇都宮市パンバ広場（2017年には、2017 FIBA 3×3 ワールドツアーうつのみやマスターズ開催）

4. 神奈川県 横浜市 赤レンガ倉庫周辺



過去のイベント実施実績

1. 横浜音祭り2016

会場：横浜市内全域

動員数：約16,000人（来場・参加者数106万人）

期間：2016年9月22日～11月27日

主催団体：横浜アーツフェスティバル実行委員会

概要：2013年から3年に1度開催しているオールジャンルの音楽フェスティバル。次回は2019年に開催予定。

Webサイト：<https://yokooto.jp/>

2. Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015

会場：横浜市内全域

動員数：約16,000人（来場・参加者数106万人）

期間：2015年8月1日～10月4日（次回予定 2018年8月4日～9月30日）

主催団体：横浜アーツフェスティバル実行委員会

概要：2012年から3年に1度開催しているオールジャンルのダンスフェスティバル。次回は2018年に開催予定。

Webサイト：<https://dance-yokohama.jp/>

3. 横濱 JAZZ PROMENADE 2017

会場：横浜市開港記念会館ほかホール、街角、ジャズクラブなど約50会場

動員数：約1,000,000人

期間：2017年10月7日～2017年10月8日

主催団体：横濱 JAZZ PROMENADE 実行委員会

概要：25回目を迎える「横濱JAZZ PROMENADE」は、「街全体をステージに」を合言葉に、横浜都心臨海部に点在する歴史的建造物など約50会場でライブを同時開催し、賑わいをもたらすとともに、ジャズの魅力を発信している。現代の日本を代表するジャズ・ミュージシャンが出演するとともに、街角ライブでは社会人から小中学生までのアマチュア・バンドなど約2,000人が出演。2016年から相互交流が始まったデトロイト・ジャズフェスティバルには、コンペで選ばれた若手ミュージシャンを派遣、日本のミュージシャンの国際的な発信にも寄与している。300名を超える市民ボランティア「横濱ジャズクルー」が、外国語対応、車椅子・視覚障がい等の対応も含めた当日の運営を担い、横浜の街をあげて来場者へおもてなしに取り組んでいる。

Webサイト：<http://jazzpro.jp/>

4-1. スマートイルミネーション横浜

会場：象の鼻パーク、象の鼻テラス

動員数：約100,000人

期間：2017年11月1日～2017年12月31日

主催団体：スマートイルミネーション横浜実行委員会

概要：横浜市では、スマートシティの普及や環境施策だけでなく、文化芸術振興、産業振興などの総合的な取組による新たな環境適応型の都市づくりを進めている。スマートイルミネーション横浜は、これらの都市政策に都市観光の視点を取り入れ、アートと環境技術、そして横浜の観光資源である歴史的建造物や臨海部の景観などを活用し、夜景開発に取り組む事業。環境技術とアートの融合という、新たなアプローチによる横浜ならではの文化プログラムを国内外に広く発信し、日本の文化芸術の水準向上に貢献することを目指す。また、国際的なライトアートフェスティバルへの成長をめざし、海外作家の招聘や、海外の大型ライトアートイベントと連携した国際シンポジウムを開催。なお、海外に向けてのプロモーションを行うとともに、ウェブサイト、パンフレット、チラシなどには、一部英語表記を実施し、会場サインについても英文で併記し、案内スタッフにはバイリンガルもしくは通訳ボランティアスタッフなどを配置している。

Webサイト：<http://www.smart-illumination.jp/>

4-2. ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017

会場：象の鼻パーク、象の鼻テラス

動員数：約100,000人

期間：2017年5月27日～2017年12月31日

主催団体：横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、特定非営利活動法人スローレーベル

概要：ヨコハマ・パラトリエンナーレは、障害のあるなしに関わらず多様な市民やアーティストらが対等な立場で芸術活動に取り組むことで、障害のある方が社会活動に参加する機会をつくり、あらゆる立場の人が関わりを持つ寛容性のある共生社会の実現を目指すアートプロジェクト。文化芸術創造都市・横浜を舞台に、3年に一度開催している。国際芸術祭として、在日・訪日外国人や外国につながる人々のコミュニティを対象にアーティストとの協働による作品制作を実施。また、外国の方や障害のある方をはじめ、多様な人々に対する適切な広報手段の選択や多言語による情報発信のほか、会場のバリアフリー対応などを行っている。

Webサイト : <http://www.paratriennale.net/>

5. ヨコハマトリエンナーレ2017

会場 : 横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館

動員数 : 約100,000人

期間 : 2017年8月4日～2017年11月5日

主催団体 : 横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

概要 : 横浜トリエンナーレは、3年に1度行なわれる日本を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与することを使命としている。ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進していく。他にも、公式ウェブサイトやチケットブースの多言語対応や無料配布のガイドブック及び音声ガイドアプリの日英対応など、海外からの来場者に配慮した取組を実施。また、無料会場間バスを車椅子やベビーカー対応とするなど、おもてなしの視点を持った来場者対応をしている。

Webサイト : <http://www.yokohamatriennale.jp/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型

- ・ 2棟間広場 : 展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント、デコレーションイベント
- ・ 赤レンガパーク : 特になし

観覧鑑賞型

- ・ 2棟間広場 : 大型ステージイベント、パレードイベント、映像コンテンツイベント、音楽イベント
- ・ 赤レンガパーク : 大型ステージイベント、映像コンテンツイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

- ・ 2棟間広場 : 予約開始は1年前からであり、恒例イベントも含め例年多くのイベントを実施している。
- ・ 赤レンガパーク : 予約開始は1年前からであり、例年多くのイベントを実施している。

イベント実施にあたって留意すべき規制（赤レンガ倉庫周辺）

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	横浜市屋外広告物条例に従って、看板を掲出する必要がある。また、赤レンガ倉庫周辺は、みなとみらい21新港地区として景観計画が定められており、看板等を掲出する場合には、当該計画にも従う必要がある。また、掲出にあたっては、申請、協議等が必要となる場合がある。
騒音制限	<p>共通：イベント等で音を出す場合には、横浜市生活環境の保全等に関する条例により、時間・音量等の規制がある。</p> <p>また、赤レンガ1号館、2号館とで調整を行う必要がある。その他近隣商業施設、近隣マンションへの事前告知等も必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2棟間広場 音楽ライブの場合には、自主規制として、会場境界で90dBまでとされている。但し、近隣施設からの苦情等があった場合はその限りではない。また音出し可能な時間は、9:00-21:00までとされている。 ・ 赤レンガパーク 音楽ライブの場合は、自主規制として、会場境界で90dBまでとされています。但し、近隣施設からの苦情等があった場合はその限りではない。また音出し可能な時間は、9:00-21:00までとされている。
食品規制（飲食不可）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2棟間広場 食品の販売や調理行為を伴う販売も可能。但し、その際には、保健所への営業許可申請が必要となる。赤レンガ倉庫内テナントとの売価・メニュー調整、赤レンガ社株主との飲料メーカーとの調整も必要となる。 ・ 赤レンガパーク 食品規制はないが、食品等の販売は禁止されている。
道路使用許可	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通 2棟間広場、赤レンガパークは道路施設ではないため道路使用許可は不要。
車両乗り入れ規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2棟間広場 設営・撤去に伴う車両乗入は可能。但し、管理者から承認を得たもののみとなる。本番中の車両乗入は原則禁止。 ・ 赤レンガパーク 原則、車両乗入禁止。ただし、事前に施設管理者から承認を得た場合のみ乗入可能となる。
利用時間規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2棟間広場 利用時間規制はなし。但し、利用時間によって現場管理費に変動がある。 ・ 赤レンガパーク 利用時間規制はなし（音出しは9時～21時）。ただし、施設管理者又は施設管理者から委託を受けた事業者が立会い可能な時間となる。
エリア内での特異な規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通 赤レンガ倉庫周辺は、新港地区都市景観協議地区とされているため、別途景観に関する協議が必要となる。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2棟間広場 赤レンガ社主催イベント開催時期は貸出をすることができない。 4月中（広場A）、GW（広場AB）、7月下旬～8月中（広場A）、9月下旬～10月3連休後の土日まで（広場AB）、11月下旬から12月25日まで（広場A）、11月下旬～2月下旬まで（広場B） ・ 赤レンガパーク 連続7日以内、1か月合計15日まで、年4回という利用制限がある。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2棟間広場 特になし ・ 赤レンガパーク 利用については、国土交通省（土地所有者）に了承を得る必要がある（横浜市は管理を受託しているのみ）。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙げられている課題・要望について

- ・ 特にイベント実施者からの課題・要望等は、把握していない。

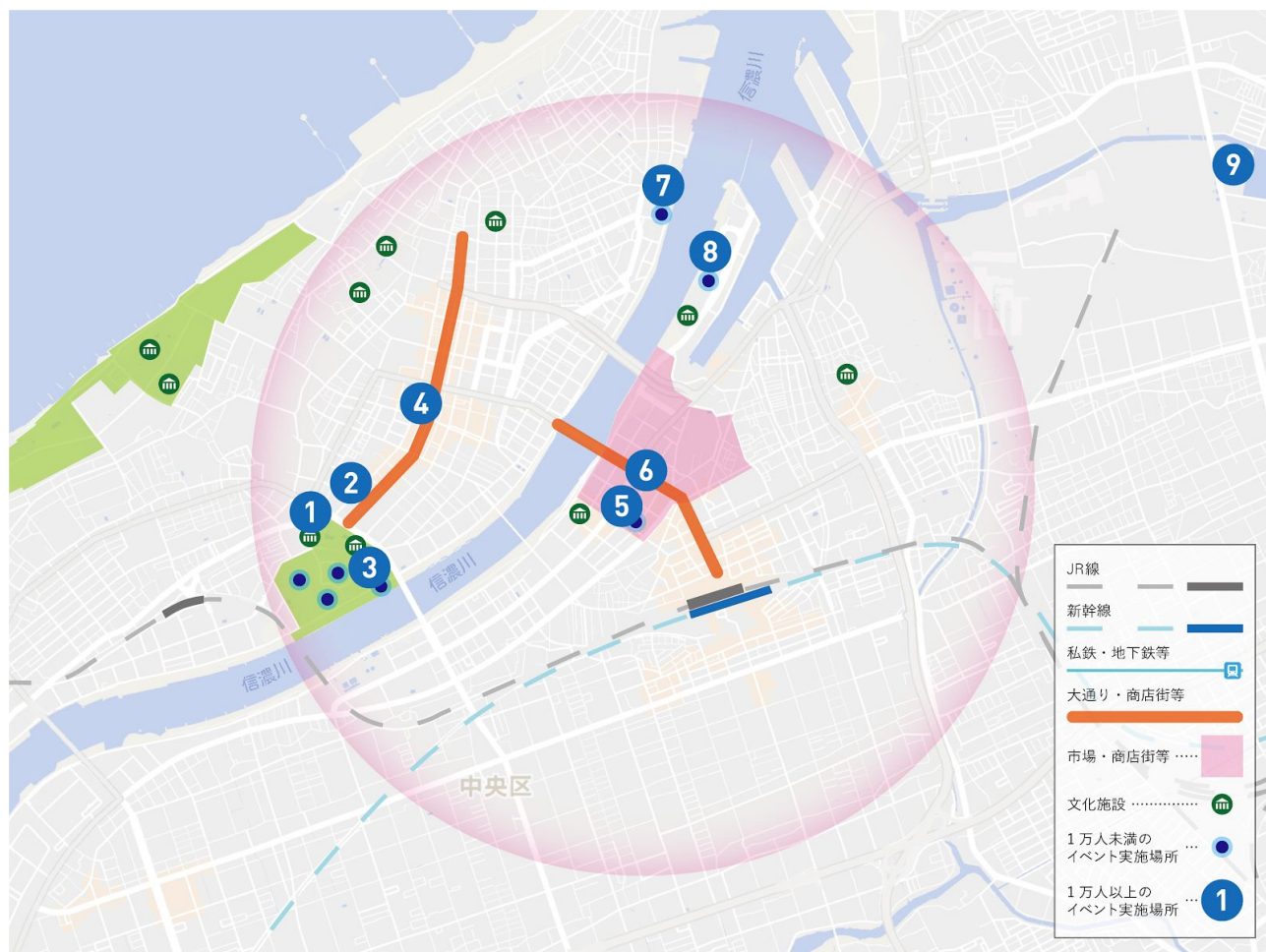
○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙げられている課題・要望について

- ・ 特にイベント参加者・利用者（訪日外国人含む）からの課題・要望等は、把握していない。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- ・ 特に評価の高いイベント・場所等は、把握はしていない。

5. 新潟県 新潟市 万代通り周辺



過去のイベント実施実績

1. 新潟シティマラソン

会場：新潟市内（デンカビッグスワンスタジアム、信濃川、萬代橋、榎谷小路、新潟みなとトンネル、関屋分水路、新潟市陸上競技場）

動員数：1日あたりの動員者数（イベントのみ）：出走数11,648人（2017開催時）・動員訪日外国人数：87人（2017開催時）

期間：2017年10月9日（月）

主催団体：新潟シティマラソン実行委員会、新潟市、新潟市陸上競技協会

概要：市民はもとより国内外から多くのランナーが参加する本市の一大スポーツイベント。国の重要文化財で本市のシンボル萬代橋や榎谷小路などの中心市街地を走り、日本一の大河信濃川や鳥屋野潟、日本海夕日ラインといった新潟ならではの風景を望む日本陸連公認（予定）コース。エイドステーションでは、ポッポ焼き風蒸しパンなど新潟らしい食べ物をランナーに提供するほか、完走者には、新潟シティマラソン名物新潟県産コシヒカリを使用したジャンボおにぎりを贈呈する。また、専用ブースに外国語に対応した通訳ボランティアを配置し外国からの参加にも配慮している。

Webサイト：<http://www.runfes-niigata.com/>

2. 水と土の芸術祭

会場：新潟市内各所（福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟、旧二葉中学校、天寿園）

動員数：1日あたりの動員者数（イベントのみ）：87日間で775,000人（2015開催時） ・動員訪日外国人数：会期中メイン会場でのアンケート1665件中 海外在住者3.8%

期間：2015年7月18日（土）～10月12日（月）

主催団体：水と土の芸術祭2015実行委員会（直近開催時）

概要：“私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在（いま）を見つめ、未来を考える～”を基本理念とし、2009年から3年に1度、新潟市内で開催。新潟市の水と土によって形成された、独自の風土や文化に光をあてることで、人間と自然との関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントとなるものを探る芸術祭。今回は、「市民プロジェクト」、「こどもプロジェクト」、「アートプロジェクト」、「シンポジウム」、「にいがたJIMAN」の5つのプロジェクトを柱に実施。

Webサイト：<http://www.mizu-tsuchi.jp/>

3-1. ラ・フォル・ジュルネ新潟「熱狂の日」音楽祭2017

会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 他3会場

動員数：10,000～30,000人

期間：2017年4月15日～2017年4月30日

主催団体：ラ・フォル・ジュルネ新潟「熱狂の日」音楽祭実行委員会

概要：クラシックファンはもちろん、クラシックコンサートが初めてという方や小さい子どもなど、誰もが一流の演奏を気軽に鑑賞することができる音楽祭。新潟市の姉妹都市であるナント市との交流を牽引する取り組みとして2010年より毎年開催している。2017年は「LA DANSE ラ・ダンス 舞曲の祭典」をテーマに、中世から今日まで600年間にわたるダンスと音楽の密接な関係をたどった。りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館の能楽堂や、燕喜館を会場とし、和風建築とクラシックの融合で日本文化の魅力を発信。また、会場に来ることが難しい障がい者のバリアを取り除く取組として、本公演のアーティストを施設に派遣するアウトリーチ公演を行った。

Webサイト：<http://lfjn.jp/>

3-2. アート・ミックス・ジャパン2017

会場：りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、燕喜館、新潟駅南口広場、日本料理小三別館、北方文化博物館、新潟市民プラザ、新潟市音楽文化会館、新潟市江南区文化会館、新潟市秋葉区文化会館、新潟テルサ、知足美術館、今代司酒造、峰村醸造、旧小澤家住宅、旧笹川家住宅、新潟日報メディアシップ、シネ・ウインド

動員数：1日当たりの動員数 約10000人、動員訪日外国人数 約250～280人

期間：2017年4月1日～2017年4月23日

主催団体：アートミックスジャパン実行委員会（新潟総踊り祭実行委員会／新潟商工会議所）

概要：“日本が誇る一流の伝統芸術を、気軽に、楽しみながら、学べる”。をテーマに、日本各地の伝統芸術の一流アーティストが新潟に集結、3週間で27の公演を行う和の祭典。歌舞伎や能、狂言、神楽、和楽器などのステージとともに、和食・酒・着物・工芸品等のコンテンツも展開することで日本文化の魅力を一挙に体感できる。本公演は車いす席を完備、当日の案内担当をつけるなど、障がいをお持ちの方にも安心してご来場いただける。新潟商工会議所、新潟市、地元企業、地元文化施設等とコラボし、地域経済の活性化や社会づくりとも連動した展開を行っており、「文化都市新潟」という地域ブランド確立を目指す。「リアルジャパンを体感できる文化都市」として、酒・米と信濃川を有する新潟で、桜の美しい春の季節に、日本を丸ごと体験できるイベント。HPは日本語サイト・英語サイトで対応し外国人へも対応。

Webサイト：<http://artmixjapan.com/>

4. にいがた冬 食の陣当日座

会場：古町会場の5番町・6番町・7番町、万代シティ、ピアbandai、新潟ふるさと村の市内4会場

動員数：248,300人（4会場2日間での合計）

期間：2017年2月11日～12日

主催団体：にいがた食の陣実行委員会

概要：「米王国＝米文化＝米の陣」をテーマに食の陣オリジナル鍋や新潟県内のご当地グルメなどが楽しめる新潟の食の一大イベント。

Webサイト：<http://www.shokuno-jin.com/>

5-1. 2017にいがた総おどり

会場：万代シティ 他10会場

動員数：175,200人

期間：2017年9月16日～2017年9月18日

主催団体：新潟総踊り祭実行委員会

概要：日本で最大級のオールジャンルのダンスフェスティバル「ジャズやヒップホップ、よさこい、ミュージカル調の踊りまで、14ジャンル総勢240の参加団体が、新潟県内の全市町村、全国16都道府県、海外3カ国から集結するお祭りを開催。参加規程は「心を込めて踊ること」のみ。観光客も得意なダンスや、故郷の伝統舞踊で参加することができる。開催期間3日間の各日のフィナーレには、新潟の300年前の新潟の盆踊りを復活させた「下駄総踊り」や、オーディエンスも含めた会場全体が一緒になって踊る「総踊り」を実施。年間でのイベント・講習会を含めた交流を通じて障がい者の福祉施設も参加があり、参加者の環境に応じた演舞回数や時間の調整も実施。高齢者へは健康寿命を向上させる「総踊り体操」を制作し年間延べ5,000名が習得。海外からも、フランス・中国・韓国等から参加実績があり、「踊り」という言葉を越えたダイレクトなコミュニケーションを楽しんでいる。特にフィナーレの「総踊り」では様々な国の人々が集まり、心と身体を躍らせる。会場に外国語対応スタッフも配置している。

Webサイト：<http://www.soh-odori.net/>

5-2. にいがたアニメ・マンガフェスティバル2017

会場：【万代エリア】万代シティBP2、新潟市マンガ・アニメ情報館、万代シティパーク（万代シティバスセンター2F）、NST【古町エリア】古町通5～7番町、新潟市マンガの家、JAM日本アニメ・マンガ専門学校、NEXT21アトリウム、新潟市民プラザ（NEXT21ビル6F）【白山エリア】新潟県政記念館、燕喜館、上古町商店街、神明宮

動員数：1日あたりの動員者数 約30,000人、動員訪日外国人数 推定2,000人

期間：2017年10月21日（土）、22日（日）

主催団体：にいがたアニメ・マンガフェスティバル実行委員会（新潟市、JAM日本アニメ・マンガ専門学校、ガタケット事務局、にいがたマンガ大賞実行委員会、ゴットハンド株式会社）

概要：新潟市がマンガ・アニメ一色に染まる2日間。「がたふえす（にいがたアニメ・マンガフェスティバル）」は、多くのマンガ家・アニメクリエイターを輩出する新潟市で開催するマンガ・アニメの祭典。新潟市内の万代・古町・白山エリアを会場に、人気声優やアニソンスingerのステージ、作品展、痛車展示、コスプレパレードなど様々なイベントを開催し、「マンガ・アニメのまちにいがた」を発信。

Webサイト：<http://www.niigata-animemangafes.com/>

6. 新潟まつり

会場：砦谷小路～萬代橋・東大通、万代町通、昭和大橋西詰

動員数：1,004,000人（3日間の人出数）

期間：2017年8月4日（金）～6日（日）

主催団体：新潟まつり実行委員会

概要：8月上旬に3日間開催される新潟市の夏の最大イベント。日本最大級の民謡流しや住吉行列、新潟キラキラパレード、水上神輿渡御、市民みこし、花火大会などが開催される。

Webサイト：<http://niigata-matsuri.com/>

7. みなと新潟「光の響演」

会場：新潟市歴史博物館みなとびあ、信濃川左岸緑地（みなと・さがん）

動員数：約31,000人（4日間計）

期間：2017年9月15日（金）から18日（月・祝） 18:30～21:00

主催団体：みなと新潟「光の響演」2017開催実行委員会

概要：みなとまち並びに文化創造都市としての魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大やクリエイティブ産業の活性化・人材育成などにつなげることを目的に、プロジェクションマッピングなど光と映像の演出と、音楽や踊りなど地域文化のステージイベントなどを組み合わせたイベント。

Webサイト：https://www.city.niigata.lg.jp/event/shi/event_chuo/hikari2017.html

8. 淡麗新潟 にいがた酒の陣

会場：朱鷺メッセ新潟観光コンベンションセンター「ウェーブマーケット」

動員数：3月11日（土）75,285人、3月12日（日）54,726人（2017開催時）

期間：2017年3月11日（土）～3月12日（日）

主催団体：新潟県酒造組合

概要：ドイツミュンヘンの伝統的なビールの祭典「オクトーバーフェスト」をモデルに、2004年から開催されている日本酒の祭典。新潟県内約90の酒蔵の地酒500種類以上が新潟の多彩な料理とともに味わえる。回を重ねるごとに来場者が増え、2日間で10万人を超える新潟を代表するイベントとして定着している。また、会場に隣接した仮設テントを設営し、来場者の飲食スペースを提供するとともに、新潟市の地域魅力発信のコーナーの設営等も行っている。

Webサイト：www.tokimesse.com

9. まちごと美術館ことごと

会場：新潟県内

動員数：約100,000人

期間：2017年2月1日～2018年1月31日

主催団体：株式会社バウハウス

概要：障がいのある方のアートのレンタルを通じて、まちを彩りながら、障がい者の社会的自立を創造する事業。アートを月額3,000円/枚でお店や企業にレンタルし、一部の料金を障がいを持った作家さんにお返ししている。2016年9月～2017年1月まで㈱モスフードサービス様と連携し、新潟県内21店舗のモスバーガーで「モスごと美術館」を実施。また、2017年2月6日からJR新潟駅で「えきごと美術館」を開催。現在は、カフェ・レストラン・銀行・観光案内所・スーパー銭湯などで、まちごと美術館展開中。また、外国人対応として、公共交通機関、観光案内所、観光施設にあるアート展示の英仏翻訳対応を行っている。

Webサイト：<http://cotocoto-museum.com/>

スペースの活用性に関する実績

自由参加型：飲食イベント、フェスティバルイベント、コスプレイベント

観覧鑑賞型：大型ステージイベント、パレードイベント、打ち上げ型イベント、映像コンテンツイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

- ・新潟まつり（毎年開催）
- ・にいがたアニメ・マンガフェスティバル（2010年から毎年開催。マンガ・アニメ情報館があることから周辺でのイベントは継続的に実施予定）
- ・にいがた総踊り祭（毎年開催）
- ・にいがた食の陣（毎年開催）

○将来計画における課題・展望

万代通り、朱鷺メッセ、リゅーとぴあといった近場の施設を活用し、4月のアート・ミックス・ジャパン、9月のにいがた総おどり、2月のにいがた冬 食の陣当日座を東京2020大会の行われる2020年は同時開催できるようにしようと検討し始めている。それによって、魅力が多様になることで、相互効果が生まれることを考えている。現在、予算規模を算出しているが、様々なイベントを統合することで広報の費用が下がることが予測される。

また、そのほかに英語サイン、外国語対応スタッフの人材確保（例示のとおり）、決済環境の整備などの課題への対応が必要である。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	新潟市屋外広告物条例の規程に従う必要がある。
騒音制限 ※確認機関：中央区区民生活課	規制は特にないが、1998年9月30日（環境庁告示第64号）公布の「騒音に係る環境基準」により、万代地区はC類型となっている。ここでは、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準が、昼間60dB、夜間50dBと規定されている。また、新潟市生活環境の保全等に関する条例では、第64条に静穏の保持が規定されており、営業によりみだりに近隣の静穏を害する行為をしてはならないとされている。
食品規制（飲食不可） ※確認機関：保健所食品衛生課	一般的な保健所への申請は必要だが、特別な規制はない（自治体の中では制限が少ない方）。
道路使用許可 ※確認機関：中央区建設課（実際は警察に確認必要）	許可が必要。万代エリア、古町エリアにおいては、イベント実施実績が多いため、許可がおりる可能性は高い。
車両乗り入れ規制	いずれの場所も警察の確認が必要である。なお、古町通の一部では、ライジングポロードが設置されており、特別に車両の通行が禁止されている時間帯がある。
利用時間規制	いずれの施設や場所も警察や施設管理者に確認が必要である。
エリア内での特異な規制	みなとぴあ周辺や河川の周辺は、国（港湾事務所）、県、市など、複数の管理者が管理しているエリアとなっており、区画により複数の確認が必要である。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	各イベント団体に確認しないと分からない。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	使用許可関係については警察署（道路）、国（港湾）、県（河川）、中央区建設課・区民生活課（道路）、商店街（万代エリア：万代シティ商工連合会商店振興組合、古町エリア：新潟中心商店街協同組合、上古町商店街組合、古町通各番町の商店街組合）など。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙がっている課題・要望について

- ・新潟駅周辺で開催されているにいがたアニメ・マンガフェスティバル2017では、市内の3カ所を会場としており、移動の際にシャトルバスを運行している。しかし、シャトルバスの混雑や道路の渋滞に影響を受けるため、シャトルバスの有料化も検討しているが、旅行業法もあり、手続きにおいて難しさやリスクがある。
- ・わらアートの会場において、人数に対するキャパは問題ないが、駐車場のキャパが厳しい。そのため、現在は無料シャトルバスを出している。シャトルバスにしたことで渋滞は緩和されたが、今度はバス待ちに2時間ほどかかるという課題が出てきている。
- ・また、わらアートでは「かっぽうぎ隊」と呼ばれる10名弱のメンバーがいるが、高齢化が進んでいる。また、稲作において「とば」と呼ばれる伝統的なわらの編み方があるが、現在では機械化が進み、通常では必要の無い作業となっている。そのような理由から存続危機への懸念が生まれ始めている。

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

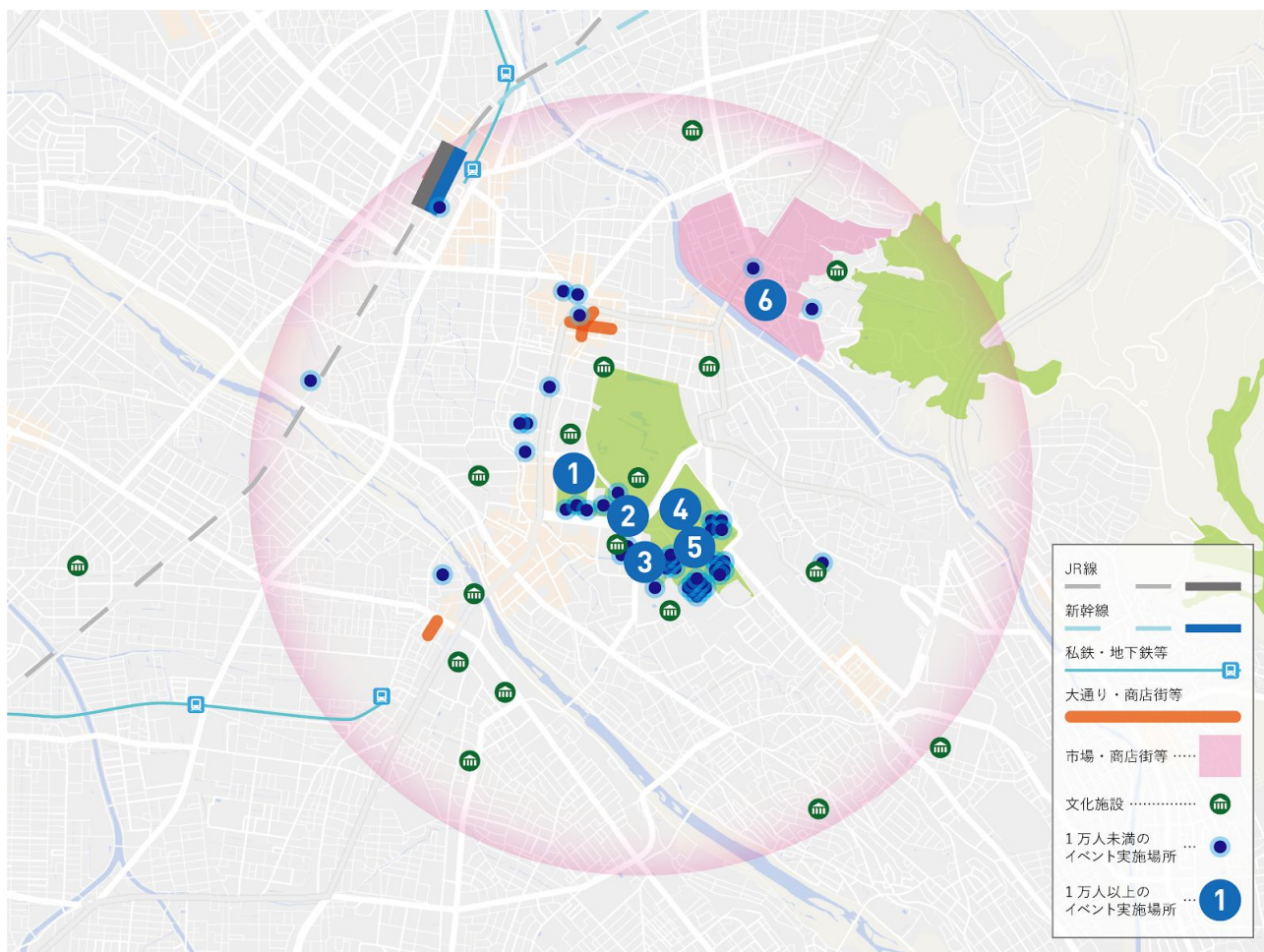
各イベント主催者に確認をしないと分からないが、外国人をお連れする際に決済環境の整備が課題となっている。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

各エリアごとに、下記の施設やイベントが取り上げられることが多い。

- ・ 万代エリア：新潟総おどり、食の陣・居酒屋甲子園など食のイベント
- ・ 古町エリア：新潟県政記念館（コスプレ、舞踊・音楽イベントなど雰囲気あり）、ドカベンストリート（「けつバット」の投稿多数）
- ・ 西大畑エリア：旧齋藤家別邸、行形亭（いきなりや）、地獄極楽通りなど、歴史ある建物まちなみで、まち歩きイベントが盛ん。
- ・ みなとびあエリア：みなとびあ新潟市歴史博物館（みなと新潟「光の響演」など、プロジェクションマッピングのイベントや通常のライトアップ風景がノスタルジックでSNSでも多数アップされている）
- ・ 信濃川河岸エリア：ミズベリング、まちなかアウトドア、まちなかピクニックなど、アウトドアイベントがSNSで取り上げられている。また、水と土の芸術祭作品などの展示期間は多くの投稿がされていた。
- ・ 朱鷺メッセ周辺：にいがた酒の陣

6. 石川県 金沢市 金沢城・兼六園周辺



過去のイベント実施実績

1. 金沢マラソン2017

会場：いしかわ四高記念公園、しいのき緑地、石川県西部緑地公園陸上競技場など

動員数：10,000～30,000人

期間：2017年10月29日（日） 8:50 スタート／15:50 終了

主催団体：金沢マラソン組織委員会、石川県、金沢市、北國新聞社、一般財団法人石川陸上競技協会、金沢市陸上競技協会

概要：金沢マラソンは北陸新幹線の開業記念イベントとして開催され、今年で第3回目となるマラソン大会である。金沢マラソンの特徴的な取り組みとして、優先出場枠を設定し、障がいのある方や国外在住ランナーは抽選なしで大会に参加することが可能であり、参加する障がい者や外国人に対応するため、ボランティアスタッフについても手話通訳や外国語通訳のボランティアを集め、安心して大会に参加できる大会運営を行っている。また、コース各所の給食所では、地元の和菓子やスイーツなどを提供し、食文化の発信を、上位入賞者には伝統的な陶芸品や漆芸品を使用したオリジナルのトロフィーを贈呈するなど、伝統的工芸品の魅力発信も行っている。

Webサイト：<http://www.kanazawa-marathon.jp/>

2-1. 百万石まちなかめぐり さくら2017

会場：しいのき迎賓館・しいのき緑地、いしかわ四高記念公園、本多の森公園など

動員数：約34,000人

期間：2017年4月8日（土）、9日（日）10:00～17:00

主催団体：石川県（百万石まちなかめぐり実行委員会）

概要：本事業は、観光客や外国人来場者に対し、多彩な伝統工芸・文化体験のワークショップなどを提供し、いしかわの歴史・伝統・文化を発信する。会場のしいのき迎賓館では、外国語対応可能なコンシェルジュを配置し、イベント案内などの問い合わせに対応するほか、「まちなかめぐり さくら」ボランティア通訳ガイドも配置し、外国人来場者の言語の壁を取り除く取り組みを実施する。また、貸出用車いすを備え、障がい者にとってのバリアを取り除く取り組みも実施する。

Webサイト：<http://www.shiinoki-geihinkan.jp/event/index.cgi?mode=pickup&ctg=evt&cord=264>

2-2. 百万石まちなかめぐりもみじ2017

会場：しいのき緑地、本多の森公園

動員数：約30,000人～50,000人

期間：2017年11月4日（土）、5日（日）

主催団体：石川県（百万石まちなかめぐり実行委員会）

概要：紅葉をキーワードに、クラフトフェアやガイドツアーなどのイベントを開催する。クラフトフェアでは、和菓子づくり体験や手工芸のワークショップも実施し、石川ならではの文化の魅力を、より多くの方に知っていただけるよう取り組む。会場のしいのき迎賓館では、外国語対応可能なコンシェルジュを配置し、イベント案内などの問い合わせに対応し、外国人来場者の言語の壁を取り除く取り組みを実施する。また、貸出用車いすを備え、障がい者にとってのバリアを取り除く取り組みも実施する。

Webサイト：<http://www.shiinoki-geihinkan.jp/event/index.cgi?mode=pickup&ctg=evt&cord=298>

3. 大連工業大学・金沢美術工芸大学交流展

会場：金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA、B

動員数：約10,000人～30,000人

期間：2017年11月23日～2017年12月3日

主催団体：公立大学法人金沢美術工芸大学

概要：2017年5月に金沢美術工芸大学と中国の大連工業大学は交流協定を締結しました。本展覧会は、協定締結後に取り組む最初の交流事業です。展覧会では、本学と大連工大の約70名の教員がおよそ120点の作品を出品し、芸術活動を通じた交流と日本文化の発信の機会とします。会場内では、中国文化圏の観光客の来場を想定し、全ての解説パネルやキャプションを日中両言語併記とします。

Webサイト：<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>

4. 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」

会場：兼六園周辺の文化施設

動員数：約100,000人

期間：2017年4月1日～2018年3月31日

主催団体：兼六園周辺文化の森 活性化推進実行委員会（石川県県民文化スポーツ部文化振興課）

概要：兼六園周辺の文化施設が連携して、石川県の歴史・伝統・文化を体感できる魅力あるイベントを四季折々に実施。車椅子を使用する障がい者も参加できるように、会場には十分なスペースを確保するなど、障がい者にとってのバリアを取り除く取り組みも行う。

Webサイト：<http://kenrokuen-bunkanomori.com/>

5. 21世紀鷹峯フォーラムin石川・金沢

会場：石川県内全域

動員数：50,000～100,000人

期間：2017年10月6日（金）～11月26日（日）

主催団体：100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川県）

概要：21世紀鷹峯フォーラムとは、これまで一人ひとりでは解決できなかった工芸を取り巻く課題に対して、誰もが当事者となって、オールジャンル、オールジャパンの力によって解決策を見出し取り組むもの。京都、東京に続き、第3回は石川・金沢で開催。会期中には研究会やシンポジウム、円卓会議等をます。会場では、障がい者も使用できるトイレを備えるなど、障がい者にとってのバリアを取り除く取組みを実施した。

Webサイト：<http://takagamine.jp/>

6. 金沢21世紀工芸祭 工芸回廊

会場：金沢町家職人工房、観音通り、ほか金沢市内および近郊の30カ所

動員数：1,000,000人

期間：2017年10月14日（土）～11月26日（日）

主催団体：金沢創造都市推進委員会、金沢市

概要：江戸時代からの伝統文化を受け継ぎ、工芸分野のユネスコ創造都市として、工芸の世界発信に取り組む金沢市で幅広い年代が工芸の魅力を体感できるフェスティバル「金沢21世紀工芸祭」を開催。そのコンテンツのひとつである「工芸回廊」は、金沢のまちの魅力が凝縮されたエリアの町家等で金沢で活躍する工芸作家やギャラリーが作品を展示する回遊型の展覧会となっている。点在する会場を巡ることで、金沢の伝統文化である工芸とまちの魅力を体感いただき、工芸に対する理解を深め、身近に感じていただくことを目的にしている。WEBやパンフレット等の広報物、会場案内サインは日英併記とし、金沢を訪れる外国人に対応している。

Webサイト：<http://21c-kogei.jp/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：展示会イベント、フェスティバルイベント

観覧鑑賞型：パレードイベント、映像コンテンツイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

現段階では未定となっている。

○将来計画における課題・展望

訪日外国人の増加に対応し、通訳ガイドの配置や看板の外国語表記をはじめ、クレジットカード決済の導入や公衆無線LANの整備など、外国人旅行者が安心して快適な旅行を楽しめる環境づくりを進めている。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	文化財保護法の国指定史跡の指定及び都市公園法の都市公園のため、両法律の基準による。
騒音制限	一般の来園者や周辺住民が不快に感じることをないように注意する必要がある。
食品規制（飲食不可）	特になし。
道路使用許可	金沢城公園を使用する場合に関して、道路使用許可は不要。
車両乗り入れ規制	積載量のほか、乗り入れ可能範囲や時間帯等についても事前に相談が必要。
利用時間規制	イベントは原則開園時間内に実施する必要がある。
エリア内での特異な規制	金沢城で実施することが適当ではないと思われるイベントは許可できない場合がある。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	具体的な日程、企画書をもって事前に相談が必要。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	利用状況によっては文化財保護法に規定する現状変更の許可が必要となる。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙がっている課題・要望について

- 一部のイベントにおいて、スタッフ用駐車スペースの不足が課題になっており、周辺の駐車場をイベント実施者に手配してもらうなどの工夫をしている。

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

- 一部のイベントにおいて、駐車スペースの拡充が要望として挙がっている。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

イベントについて

金沢駅周辺を中心として県内各地でさまざまな音楽プログラムを開催する「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」や、しいのき迎賓館及びしいのき緑地を中心として、観桜期と紅葉期に開催する「百万石まちなかめぐりさくら・もみじ」はHP、twitter、Facebook等を通じて、情報発信を積極的に行っている。

施設について

金沢城・兼六園周辺は、江戸から平成に至るまで、各時代の政治、産業、教育、文化の中心として、石川県の歴史の中で常に重要な役割を担ってきた場所であり、一帯には貴重な歴史的建造物や文化施設が数多く集積するとともに、本多の森と呼ばれる豊かな緑が茂り、都心にあって憩いと潤いのある貴重な空間を作り出している。

特に、屋外施設であるしいのき緑地は、金沢城を臨むことができる金沢都心部における開放的な緑地空間である。隣接するいしかわ四高記念公園との一体的な利用もでき、イベント実施者・参加者に人気がある。

1. 江戸

- ・ 金沢城公園

加賀藩前田家の居城で、国史跡として指定されている。公園内には重要文化財（石川門、三十間長屋、鶴丸倉庫）など多くの見どころがある。

- ・ 兼六園

江戸時代の代表的な大名庭園で日本三名園の一つであり、特別名勝として国の指定を受けている。

- ・ 成巽閣

加賀藩13代藩主によって藩主の母のため、兼六園の一隅に建てられた。現在は国の重要文化財で、庭園は国の名勝に指定されている。

2. 明治

- ・ いしかわ赤レンガミュージアム（石川県立歴史博物館・加賀本多博物館）

建物は旧陸軍兵器庫の赤レンガ棟を再生しており、国の重要文化財となっている。

- ・ 旧陸軍第九師団司令部

旧金沢城内に建築されたが、1970年に移築され、現在は国登録有形文化財になっている。

- ・ 旧陸軍偕行社

かつて北陸財務局・金沢国税局が使用。1970年に移築され、国登録有形文化財に指定されている。

- ・ 石川四高記念文化交流館

国指定重要文化財である旧制第四高等学校本館を活用しており、四高の歴史をたどる展示や、石川ゆかりの文学資料を展示。

3. 大正

- ・ 県立美術館広坂別館（旧陸軍第九師団長官舎）

旧陸軍第九師団の師団長官舎として建築され、2016年に国登録有形文化財に指定されている。

- ・ 石川県政記念しいのき迎賓館

旧石川県庁舎を活用して建築。正面は大正時代の格調高い風情を残しながら、反対側は全面ガラス張りの現代的な空間となっており、新旧が融合した建物である。

4. 昭和

- ・ 石川県立美術館

昭和のモダンなデザインの建築。国宝「色絵雉香炉」など、石川ゆかりの作品を中心に展示。

- ・ 石川県立伝統産業工芸館

昭和の日本を代表する建築家・谷口吉郎氏の設計による建築。県内伝統的工芸品36業種すべてを展示。

5. 平成

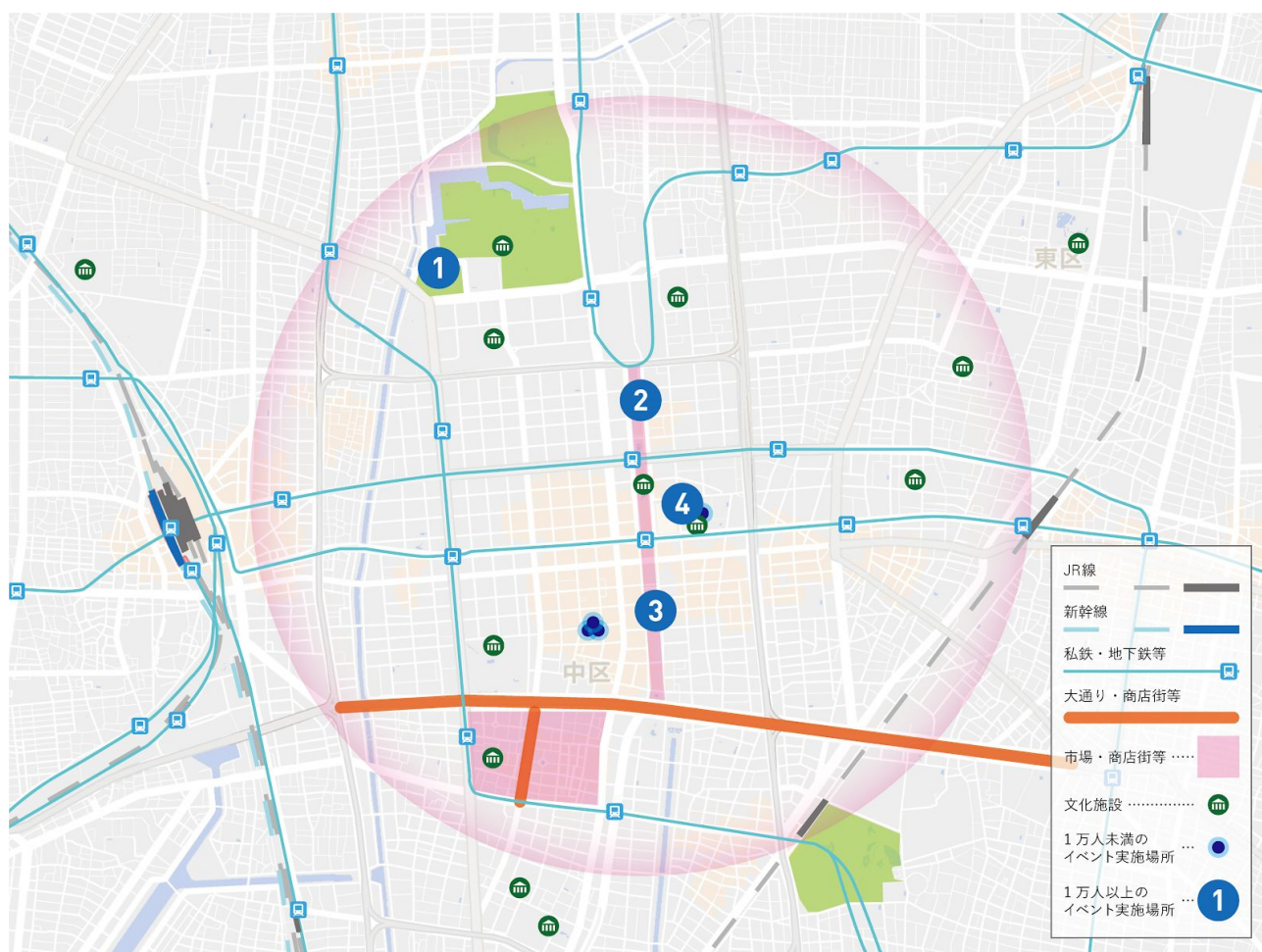
- ・ 石川県文化財保存修復工房

県庁出羽町分室の解体に伴い、県立美術館広坂別館を増築する形で2016年に移転リニューアル。ガラス窓越しに修復作業を常時公開している。

- ・ 金沢21世紀美術館

円形の現代的な建物で、「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に開設。様々な作品を鑑賞できる。

7. 愛知県 名古屋市 久屋大通公園周辺



過去のイベント実施実績

1. 歴史文化普及啓発事業 ～やっとかめ文化祭～

会場：市内一円（商店街、寺社、名古屋能楽堂など）

動員数：約50,000～100,000人

期間：2017年10月28日（土）～2017年11月19日（日）

主催団体：やっとかめ文化祭実行委員会（名古屋市、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー、中日新聞社名古屋観光ブランド協会、NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク）

概要：2012年9月に「古典の日に関する法律」が施行されたことを機に、2013年度から「やっとかめ文化祭」を開催している。都市の文化・歴史資源を総合的・横断的に活用し、まちなかや歴史的建造物等で多彩な公演やアウトリーチプログラム、講座、ワークショップ等を開催することにより、地域文化の再生や創造発信、観光への活用等を図ってきた。また、文化芸術団体にとどまらず、まちづくりNPOや地域団体、大学、企業、商店街、各種店舗、寺社、市民ボランティアなど、様々な団体・個人と連携し、当事業をプラットフォームとして、多様な地域文化の担い手を育成し、ネットワークの形成を図ってきた。2017年度からは、これまでの成果を継承しながら、ユネスコ創造都市ネットワーク等を活用し、多様なアーティストやクリエイターの参画のもと、地域文化の再編集や価値の向上、産業への活用等を

図っていく。また、WEBサイトにおいて、外国語（英語）対応を行うことで、外国人にも参加しやすい取り組みを行っている。

Webサイト：<http://www.yattokame.jp/>

2. 第2回 ご当地鍋フェスティバル@久屋大通公園

会場：久屋大通公園

動員数：約50,000～100,000人

期間：2018年1月12日（金）～2018年1月14日（日）

主催団体：ご当地鍋フェスティバル実行委員会（実行委員会メンバー：ぴあ株式会社、ビーアシスト株式会社、スタートライン）

概要：日本の全国各地で古くから親しまれている定番から珍しい「鍋」料理を紹介。その「鍋の味」を通じて、愛知（栄の久屋大通公園）で「ふる里」やその「地域」を感じてもらう。その「鍋の味」を通じて、その「地域」の魅力を実感し興味をもってもらう。その「地域」に関連する商品を買ってもらったり、その「地域」に旅行に行ってもらい、更にその地域の魅力を感じてもらうことを目的とした取組。また、外国の方（日本在住者、訪日外国人問わず）に日本の古き良き食文化である「鍋」を食してもらい、日本の食文化を通して日本を知っていただくことを目的とした取組。

Webサイト：<http://nabefes.com/>

3. 世界コスプレサミット2017

会場：愛知県芸術文化センター、オアシス21など

動員数：約120,000人

期間：2017年8月5日（土）、6日（日）

主催団体：世界コスプレサミット実行委員会

概要：日本のアニメ・マンガを愛する世界中のコスプレイヤーが集まって新しい国際交流を創造するため、毎年、名古屋で開催されている国際的コスプレイベント。

Webサイト：<http://www.worldcosplaysummit.jp/2017/>

4. 名古屋まつり

会場：行列：土曜は名古屋駅～栄～矢場町、日曜は市役所～栄～矢場町、会場：久屋大通公園会場、オアシス21会場、名古屋城会場等

動員数：約220万人（2日間合計）

期間：2017年10月21日（土）、22日（日）

主催団体：名古屋まつり協進会

概要：1955年にはじまり、名古屋の秋を象徴するまつり。名古屋まつりのメインとなる豪華絢爛な行列では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑が約600人を従えて行進する郷土英傑行列のほか、歴史と伝統に彩られた指定文化財「山車揃」や市文化財「神楽揃」、華やかなフラワーカーなども登場する。

Webサイト：<http://www.nagoya-festival.jp/>

5. あいちトリエンナーレ（開催事業・地域展開事業）

会場：愛知県内 各地域会場

動員数：約50,000～100,000人

期間：2016年8月11日（木・祝）～10月23日（日）

主催団体：あいちトリエンナーレ実行委員会（愛知県）

概要：あいちトリエンナーレ開催事業では、「文化芸術施策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として国際芸術祭開催を位置づけ、3年に一度「あいちトリエンナーレ」を開催している。「あいちトリエンナーレ」は、現代美術を基軸とし、舞台芸術なども併せて展開する総合的・複合的な国際芸術祭であるとともに、まちなかでの展開、祝祭的な賑わいを図ると同時に、開催に際して、会場内外のバリアフリー状況を調査し、その結果を踏まえた対応策を講じるなどの対応に努めている。また、国際芸術祭であることから、英語版のリーフレット、鑑賞の手引き等の制作、Webサイト等による多言語による情報発信などを行っている。開催年以外においては、県内各地で現代美術作品の制作・展示や子どもたちの文化芸術体験機会の提供、若手芸術家育成事業等を実施し、その成果を県内各地に広め、現代美術、複合芸術の普及・定着を図っている。

また、あいちトリエンナーレ地域展開事業では、あいちトリエンナーレ2016の開催成果を県内各地に広め、県民の方々に文化芸術への関心を高めていただくとともに、あいちトリエンナーレ2019の開催気運の醸成を図ることを目的として、現代美術作品の制作・展示や子どもたちへの文化芸術体験機会の提供などを一宮市内で、また、若手芸術家育成事業を愛知芸術文化センターで、親子で楽しむコンサート等を蒲郡市民会館で実施する。現代美術展に合わせて、一宮市内の福祉施設や商業施設を活用して展示するおでかけ展示や作家を講師として小学校や聾学校へ派遣する学校派遣を実施することで、日頃本物の芸術に触れる機会の少ない高齢者、障がい者、子育て世代、子ども等全ての人々の鑑賞機会の充実・拡大を図る。さらに、現代美術展のキャプションの多言語化や若手芸術家育成事業の会場がWi-Fi環境が整備されている等、訪日外国人向けにサービスを充実させる。

Webサイト：<http://aichitriennale.jp/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント、コスプレイベント

観覧鑑賞型：なし

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

2020年までのイベント実施予定

- ・ 久屋大通公園南側（錦通以南）については、久屋広場を中心に例年大きな催事イベントが開催されており、2018年から2020年についても同様に開催される予定（気候の良い土日祝日及びその準備にかかる期間は、「優先確保」扱いの催事イベントで予め一杯になることが多く、「優先確保」扱いでない場合、確保が難しいと予想している）。
- ・ 久屋大通公園北側（錦通以北）においても例年様々なイベントが開催されているが、名古屋の都心部の活性化を目的として、民間活力を導入した公園の再生を行い、イベント広場も拡充をしていく。なお、2019年1月頃から整備を開始するため、供用開始は東京2020大会開催前になる予定。

2020年以降のイベント実施予定

- ・ 正式決定しているものはないが、これまで以上に様々な催事イベントが開催され、より活性化すると思われる。特に、公園の再生を予定している北側（錦通以北）については、公園の指定管理者が誘致したイベントも開催される予定。

○将来計画における課題・展望

イベント時の一過性な賑わいではなく、周囲の多様な企業や団体等と連携をはかり、PR等の宣伝をうまく行うことで、現在よりも広域からの集客力を高めていき、いかに久屋大通公園全体の賑わいを継続的に盛り上げていくかが課題であると捉えている。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	久屋大通都市景観地区のため、屋外広告物条例の規制を受ける。ただし、短期間の催事については適用除外となる場合もある。久屋大通公園内の大まかな取扱いとしては、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 催事期間中に催事区域内に設置すること ・ 催事区域外から見えない状態であること ・ イベント名等の表示に付随すること。また、広告の表示が大きくなならないこと
騒音制限	明確な数値としての規制はない。ただし、一部周辺に住宅や商業施設があるため、極度の高音量は出せない。また、地面に振動を伴うような音についても禁止している。
食品規制（飲食不可）	飲食の規制は特に設けていない。ただし、催事利用者のための飲食のみの場合。消防署や保健所等、一般的な届は必要となる。
道路使用許可	久屋大通公園区域のみの使用であれば、道路使用許可は必要はない。
車両乗り入れ規制	久屋大通公園内の各広場ではそれぞれ特徴のある整備がなされており、各広場によって条件を付し、設営などで必要な場合は特別に許可をしている。
利用時間規制	イベントやそれに付随する設営・撤去を含めた許可時間は、6時から21時までとなっている。ただし、イベントの開催時間は概ね10:00から21:00まで。また、日をまたぐイベントについては、夜間の施設管理も適切に行う必要がある。
エリア内での特有な規制	久屋大通公園の場合、大通公園であるため、公園の通り抜けや地下に出入りするための動線を確認する必要がある。住宅地に隣接しているため、高音量は禁止している。また、広場によっては養生が必要になることもある。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	年間を通して、気候の良い土日祝日及びその準備にかかる期間は、「優先確保」の指定を受けるイベントが開催されることが多く、「優先確保」を受けない場合は利用が難しいと思われる。 「優先確保」については名古屋市の共催または後援を得ていれば指定が可能のため、早めに相談する必要がある（「優先確保」を受けた場合でも、名古屋まつり期間である10月中旬の土日前後や、にっぽんど真ん中祭り期間である8月末の金土日前後については利用できない）。 なお、「優先確保」扱いによる公園利用の予約については、利用する年度の前年度の8月に申請する必要がある。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	「優先確保」を希望する場合は、名古屋市の共催または後援が必要。また、場所と催事内容によっては、周辺施設や地域住民との調整が必要となることがある。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

- ・ 「名古屋まつり」の行列参加者からは、中国語でのガイドブックがあると便利という声の一部がある。
- ・ 「名古屋まつり」の行列に参加したいという声を団体からもらうこともあるが、交通規制を実施している関係もあり、すべてに対応出来ないことがある。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- ・ 名古屋まつり
「名古屋まつり」では、Webサイトを活用した告知や記者クラブへの情報提供・告知を行っている。雑誌社からの問い合わせもあり、地域の新聞やメディア、雑誌に取り上げられる。

また、「名古屋まつり」の実施時期に無料で開放している観光施設があり、特に都心に近い「名古屋城」については、イベント参加者からの問い合わせが数多くある。

「名古屋まつり」は、歴史イベント・郷土英傑行列を中心としたまつりとして継続しており、新しい企画に対する期待も一定数ある。

・ オアシス21

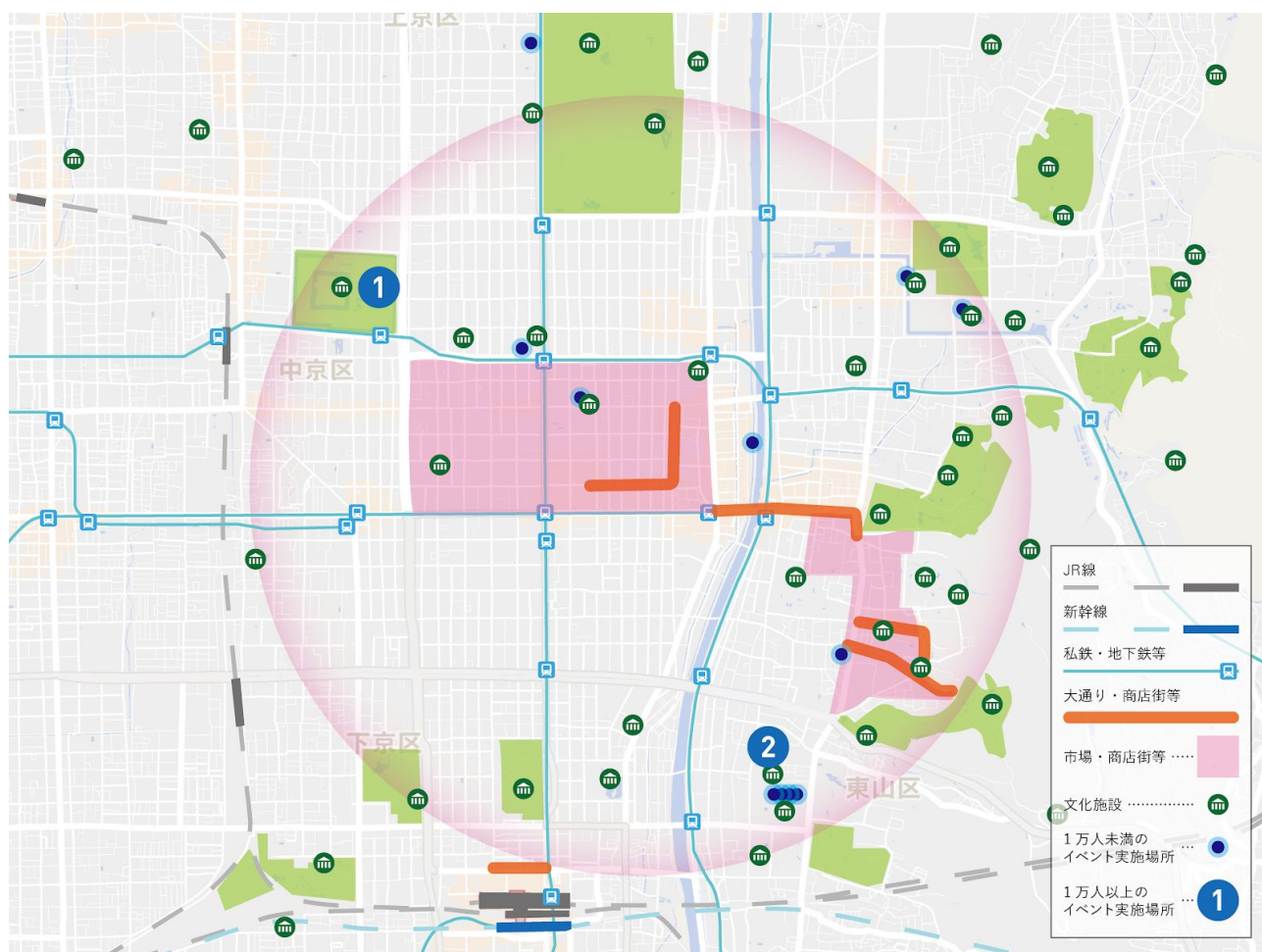
ガラス張りの屋根と夜のライトアップが美しく、非常にSNS映えすると評価が高い場所となっている。短期・中期のイベント実施も多く、「世界コスプレサミット」ではメイン会場の一つになっている。

また、オアシス21の隣にある「名古屋TV塔」は、エッフェル塔を思わせる銀色の塔であり、SNSでも評価が高い。TV塔の直下では、マーケットなど様々なイベントが年間を通じて実施されている。

・ 世界コスプレサミット

世界で唯一のコスプレの世界規模の大会である。海外数十か国から参加者が来日することもあり、国内外のメディアや個人のSNSアカウントで話題になるイベント。

8. 京都府 京都市 市内周辺



過去のイベント実施実績

1. 二条城桜まつり2017

会場：二条城

動員数：平均13,000～14,000人

期間：2017年3月24日（金）～2017年4月16日（日）

主催団体：京都市

概要：花見弁当や京都の名産品の販売、特設ステージイベントの実施、夜には城内に咲き誇る山桜や里桜、八重紅枝垂桜など200本を超える桜や庭園などをライトアップし、幽玄の世界を演出した。

Webサイト：<http://naked-inc.com/2017/nijojjo/>

2-1. 特集展示 京都水族館連携企画「京博すいぞくかん—どんなおさかないのかな？」

会場：京都国立博物館 平成知新館（2階展示室）

動員数：38,751人

期間：2017年7月25日（火）～9月3日（日）

主催団体：京都国立博物館、京都水族館

概要：京都水族館との連携企画として、子供向けに水の生物が描かれたり、模したりしている収蔵品を集めた展示を実施。人間が水の生物とどのように関わってきたのか、水の中にどのような世界を想像してきたのかを文化財の側面及び京都水族館協力のもと生物学的な側面から解説した。家族で一緒に水中の世界を楽しめる展示を目指し実施している。なお、バリアフリー化されている平成知新館において開催することで、より多彩なお客様にお楽しみいただけることを期待している。また、音声ガイドや作品名称等を英語・中国語・韓国語の3言語にも対応することにより、海外の方にも展覧会が楽しめるようにしている。

Webサイト：http://www.kyohaku.go.jp/jp/project/2017_suizokukan.html

2-2. 京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「国宝」

会場：京都国立博物館 平成知新館（2階展示室）

動員数：約100,000万人

期間：2017年10月3日（火）～11月26日（日）

主催団体：京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿

概要：2017年は、日本の法令上「国宝」の語が初めて使用された「古社寺保存法」制定より120年にあたります。当館開館と軌を一にするこの節目の年に、実に41年ぶりとなる「国宝展」を開催します。本展覧会では、歴史と美を兼ね備えた国宝約200件を一堂に会し、わが国の悠久の歴史と美の精華を顕彰いたします。

なお、バリアフリー化されている平成知新館において開催することで、より多様なお客様にお楽しみいただけることが期待されます。また、音声ガイドや作品名称等を英語・中国語・韓国語の3言語にも対応することにより、海外の方にもより展覧会をお楽しみいただけるようにします。

Webサイト：<http://www.kyohaku.go.jp/jp/special/koremade/kyoto-kokuhou2017.html>

過去のイベント実績について

自由参加型：展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント、コスプレイベント

観覧鑑賞型：大型ステージイベント、映像コンテンツイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

2020年までのイベント実施予定

1. 京都文化博物館

- ・ 京都文化博物館祇園祭展〔仮称〕（2020年3月24日（火）～5月17日（日）に開催）
東京2020大会にあわせた特別展として開催。なお、京都文化博物館は上記特別展以外にも、京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な文化施設として、2020年まで年間を通して多彩な特別展を開催。また、京都ゆかりの優品を折々の企画に合わせた展示や、代表的な近代洋風建築として重要文化財の指定を受けている別館でもコンサート等様々なイベントを開催。
- ・ ARTISTS' FAIR KYOTO（2018年より開催）

2. 京都府庁旧本館

- ・ 観桜祭（2007年より毎年春に開催）、観芸祭（2007年より毎年秋に開催）
明治37年竣工し、創建時の姿をとどめる現役の官公庁建物としては日本最古の京都府庁旧本館では、上記以外にも年間を通して、民間主催も含め様々なイベントを開催。また旧知事室や旧議場等は常時公開。

3. 大丸京都店

- ・ 味技展（1997年より開催）

4. 二条城

- ・ 桜まつり（毎年開催予定）
- ・ お城まつり（毎年開催予定）

5. 京都芸術センター

- ・ KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭（毎年開催予定）
- ・ KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭（毎年開催予定）
- ・ ニュイ・ブランシュ京都 Nuit Blanche Kyoto（毎年開催予定）

6. 京都国際マンガミュージアム

- ・ 京都国際マンガ・アニメフェア（毎年開催予定）
京都市等が毎年9月に開催している西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市の第二会場として、マンガ・アニメファンに向けた企画展等を実施（2020年以降も開催するかは未定）。

7. 京都市学校歴史博物館

2018度は、明治150年・京都のキセキ・プロジェクトの一環として、開館20周年記念特別展を実施予定。また、2019年度 番組小学校創設150周年記念特別展を実施予定（詳細未定）。

- ・ 企画展「明治150年記念 京都画壇の明治」2018年4月28日（土）～6月19日（火）
- ・ 企画展「明治150年記念 京都の学校史をたどる —2014～2017年度 新収蔵品展 小学校編—」2018年10月6日（土）～12月11日（火）
- ・ 開館20周年記念特別展「創造美術の画家」同時開催「近代京都の画家 —国画創作協会と上村松園を中心に—」2018年10月6日（土）～12月11日（火）
- ・ 企画展「明治150年記念 京都の学校史をたどる —2014～2017年度 新収蔵品展 旧制中学校・高等女学校・実業学校編—」2018年12月15日（土）～2019年3月31日（日）

8. 京都文化カプロジェクト2016～2020

- ・ 東京2020大会等を契機として、京都を舞台に行っている文化と芸術の祭典。オール京都体制で、京都文化カプロジェクト実行委員会（構成：京都府、京都市、京都商工会議所等）を組織し、国内外に京都の魅力等を積極的に発信。2017年度は、舞台芸術分野のリーディング事業として、東京都等と共に「東京キャラバン in 京都・二条城」を開催。2018年度は「美術・工芸」、2019年度は「くらしの文化」のリーディング事業を開催し、2020年には、あらゆる分野を融合した総合的な祭典を開催する予定（2018年度以降のエリア内の実施については未確定）。

9. その他：2018年度の京都市内での関連実施事業

- ・ Res Artis 2019 KYOTO ミーティング（仮）
アーティスト・イン・レジデンスに関する国際会議。2019年2月開催予定。

10. その他：2019年度の京都市内での実施事業

- ・ 第25回国際博物館会議京都大会 ICOM（International Council of Museums）KYOTO 2019 25th General Conference
3年に一度の世界大会。2019年9月1～7日に開催。
- ・ Visual Arts Focus 2019（仮）
Institut français による美術の祭典。日本国内で展覧会等。
- ・ ポーランド・ウィーク（仮）2019
国交樹立 100 周年を記念した事業。京都は展覧会開催予定。

11. その他：市内で毎年開催されている祭りやイベント

- ・ 葵祭
京都三大祭りのひとつ。毎年5月に行われ、平安貴族の姿で行列が優雅に練り歩く

-
- ・ 祇園祭山鉾巡行
京都三大祭りのひとつ。7月17日に前祭、7月24日に後祭を開催。
 - ・ 時代祭
京都三大祭りのひとつ。毎年10月に行われる平安神宮の祭。各時代の装束による行列は「生きた時代絵巻」と呼ばれる。
 - ・ 伝統産業の日 2018
京都市では、春分の日を「伝統産業の日」と定め、この日を中心に京都の伝統産業に触れ親しんでいただく様々なイベントを岡崎・東山、室町、西陣など市内各地で展開している。

2020年以降のイベント実施予定

- ・ ARTISTS' FAIR KYOTO
- ・ 観桜祭
- ・ 観芸祭
- ・ 味技展
- ・ 葵祭
- ・ 祇園祭山鉾巡行
- ・ 時代祭
- ・ 伝統産業の日
- ・ 京都芸術センターでは、海外とのネットワークを強化すると同時に、地域の芸術文化を育む土壌を豊かにする地道な活動を継続して行う予定
- ・ 京都市学校歴史博物館では、京都の学校に遺された教科書・教材・教具等の教育資料や卒業生等が学校に寄贈した数々の美術工芸品を活用した企画展を開催していく予定

○将来計画における課題・展望

- ・ 京都文化カプロジェクト2016-2020では、さらなる海外に向けての発信や若者等に参加してもらえる方法等が課題となっている。
- ・ 二条城では、文化財の活用と保存のモデルとなることを目指している。
- ・ 京都市学校歴史博物館では、保存資料の整理・データベース化（アーカイブ化）が課題。また、多言語化（2017年度に文化庁補助事業を活用して、英語・中国語・韓国語に対応したリーフレット・常設展案内パンフレット・音声ガイドを作成予定）に対応することが課題。
- ・ 伝統産業の日について、伝統産業品の普及啓発だけでなく、販売促進に繋がる取り組みが求められている。
- ・ 京都府文化スポーツ部文化交流事業課では、予算の確保、事業効果、海外発信、若年層の参加の4点において課題が挙げられた。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	京都市屋外広告物等に関する条例により、屋外広告物は禁止されており、屋外広告物を設置するためには市長の特別な許可が必要。その他、京都市眺望景観創生条例による規制もある。
騒音制限	第1種住居地域であり、周辺に学校があるため8時から18時が45db、それ以外の時間が40dbとなっている。また、周辺は住宅地域であるため、規制に関係なく騒音が発生するイベントの開催時には事前に周辺住民に周知するなどの注意が必要。
食品規制（飲食不可）	屋外や一般建築物について規制はないが、指定文化財については協議が必要。なお、火気の使用については消防の手続き、文化財への配慮が必要。
道路使用許可	二条城内のイベントであれば道路使用許可は不要。なお、一般の入城者の観覧に影響がある場合は調整が必要。
車両乗り入れ規制	二条城内の乗り入れは、通路の幅員、樹木の枝等があるため、原則2トン以下となっている。また、開城時間内（8:30～17:00）は原則城内の通行ができない。
利用時間規制	二条城では、原則8:45～22:00としている。内容により協議が必要。
エリア内での特異な規制	二条城全体が文化財保護法の史跡に指定されており、文化庁等との調整や現状変更許可申請などの届出が必要。また、国宝や重要文化財に指定されている建物については柱等を傷つける設営はできない。設営計画について、事前に文化庁等との調整や届出が必要。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	二条城は年中利用可能（年末年始の3日間は条例上の休城日）。3月下旬から4月中旬は桜まつり、10月から12月上旬はお城まつりの他、MICE利用による事業が実施されているため、事前の調整が必要。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	京都市（文化市民局文化芸術都市推進室）、京都府（文化財保護課）、国（文化庁）

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙げられている課題・要望について

- ・ 京都文化カプロジェクト2016－2020
文化財の保存と、年間200万人を超える来場者の中での設営や運営に工夫が必要。
- ・ 二条城
二条城には常設の夜間照明設備がなく、夜間開催するイベントについては照明が必要となる。
- ・ 京都芸術センター
京都芸術センターでは、一時的な美術作品の屋外展示に関しても屋外広告の規制があり、調整が必要。

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙げられている課題・要望について

- ・ 京都文化カプロジェクト2016－2020
視覚障がいや聴覚障がいの人々も一緒に楽しめるパフォーマンスや誰でも通りすがりに参加ができる会（大茶会等）の実施（「東京キャラバン in 京都・二条城」開催時アンケートより抜粋）。
- ・ 京都国際マンガミュージアム
海外からの来館者は多いものの、京都市に訪れる外国人観光客数を踏まえると、より一層の増加を図る必要がある

・京都市学校歴史博物館

多言語化（2017年度化庁補助事業を活用して、英語・中国語・韓国語に対応したリーフレット・常設展案内パンフレット・音声ガイドを作成予定）への要望がある。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

・京都文化博物館

京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な施設として多彩な特別展の他、「京の歴史」「京のまつり」「京の至宝と文化」の3つのゾーンに分けた常設展示では、祇園祭の懸装品や京都ゆかりの名品など「ほんまもん」の魅力を紹介。また、フィルムシアターでは、京都府所蔵の名作映画を順次上映している他、代表的な近代洋風建築として重要文化財の指定を受けた別館（旧日本銀行京都支店）など、みどころが満載で多くの来場者を集めている。

・京都府庁旧本館

1904年竣工・現在も執務室として使用され、創建時の姿をとどめる現役の官公庁建物としては日本最古のもので、2004年に国の重要文化財に指定。ルネサンス様式に属する建物の外観は、西洋近世の大邸館をほうふつとさせるものがあり、内部には和風の優れた技術が巧みに取り入れられて、内部意匠は建築より、むしろ工芸品といった趣さえ感じられ、数多くの映像作品の撮影場所として活用される他、多くの方が見学にこられている。

・京都国際マンガミュージアム

年間約30万人が来館しており、そのうちの約2割が海外からの来館者であるなど、国内外から高く評価されている。

・京都芸術センター

若手芸術家支援拠点である京都芸術センターは、建設当時東洋一と謳われた元・明倫小学校を活用しており、今も往時が偲ばれる図書室や廊下の人気である。また、2008年に国の有形文化財に登録されている。

・京都市学校歴史博物館

敷地入口の元京都市立開智小学校の正門と石塀（国登録有形文化財）、展示棟入口の旧成徳小学校玄関（国登録有形文化財）で評価が高い。

・二条城

「二条城の夜間ライトアップ」では、幻想的な写真がSNSで多く投稿されている。また、「アートアクアリウム」を二条城で開催し、多くの写真が投稿された。

・京都芸術センター

「トラディショナル・シアター・トレーニング（T・T・T）」というイベントが例年夏に開催されている。そこでは、役者や研究者が能・狂言・邦舞の3分野に分かれ、3週間学んだ後に能楽堂で発表するプログラムが実施され、世界中から毎年20人程度の受講生がある。2017年度には、テレビ東京の「YOUは何しに日本へ？」（2017年11月27日（月）放送）で受講生の一人が取り上げられた。

また、「東アジア文化都市 2017 京都—アジア回廊—現代美術展」及び「建築 Symposion（シンポジオン）—日独仏の若手建築家による—」においては、周辺地域だけでなく、日中韓のメディアや建築関係の冊子にも掲載された。

・葵祭

京都三大祭りのひとつで、毎年5月に行われ、平安貴族の姿で行列が優雅に練り歩く。毎年大勢が集まる代表的なイベント。

・祇園祭

京都三大祭りのひとつで、特に宵山期間中（前祭7月14日から17日、後祭7月21日から23日）の山鉦が人気。宵山期間中、前祭では22基、後祭では10基の山鉦が鑑賞できる。場所においては、山鉦巡行ルート及び山鉦町（宵山飾りの地域）、お旅所、八坂神社等が評価が高い。

時代祭

京都三大祭りのひとつで、毎年10月に行われる平安神宮の祭。各時代の装束による行列は「生きた時代絵巻」と呼ばれ、評価が高いイベントである。

伝統産業の日

「伝統産業の日」は、市内各所に着物姿で行くと施設入場料が無料になる「きものでおでかけ・入場無料」が高い評価を得ている。

錦市場商店街

「京の台所」として400年の歴史があり、約390メートルにも及ぶ商店街。地元の方をはじめ、多くの観光客が訪れ、賑わっている場所である。

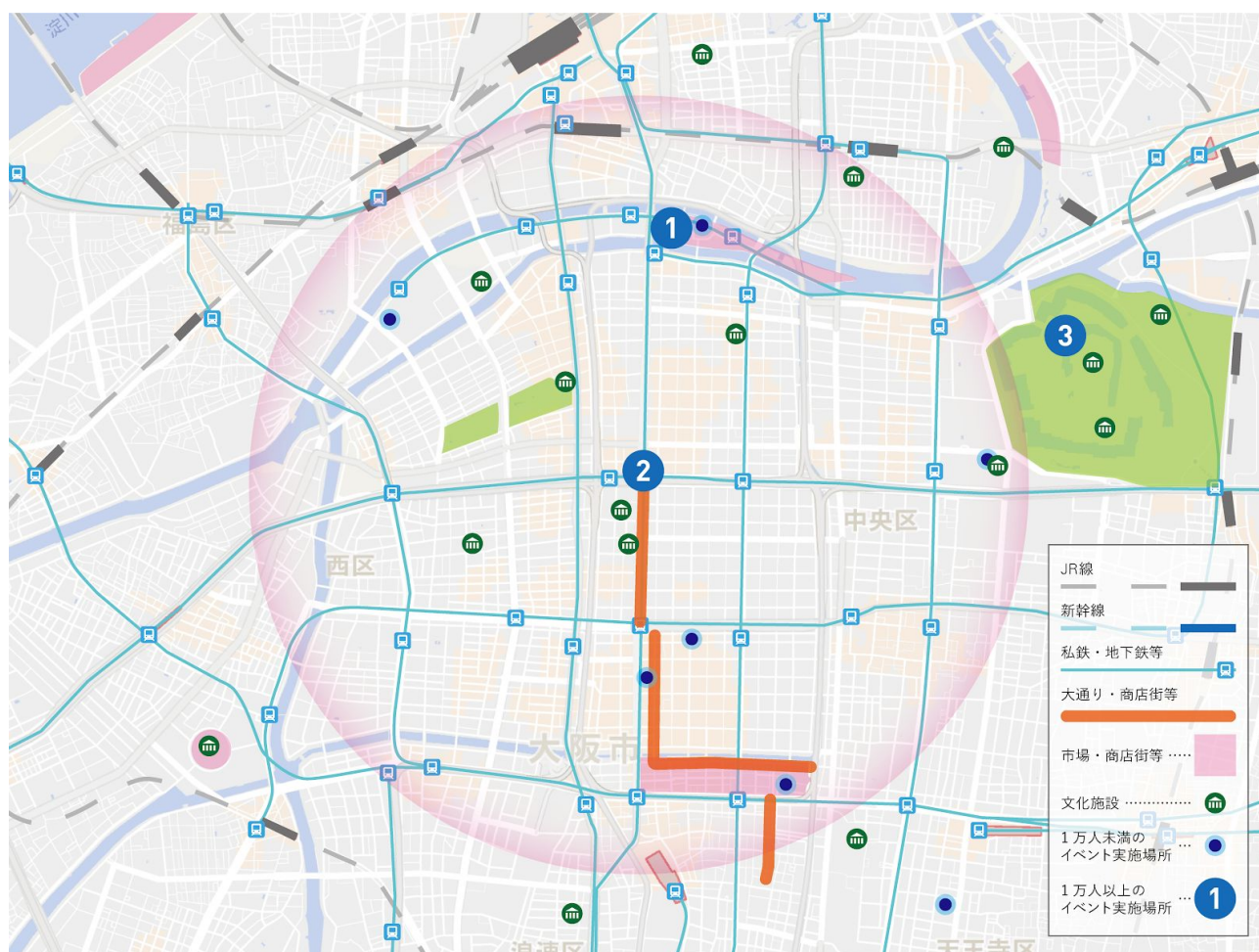
奈良屋記念杉本家住宅

国の重要文化財にも指定されており、町家としては市内最大規模に属し、各1間半の床と棚を装置した座敷、独立棟として西に張り出した仏間、大きな台所などに特色著しいものがある。保存状況は良好で、下京における大店の建築遺構として極めて高い価値を有する。

D&DEPARTMENT KYOTO by 京都造形芸術大学

本山佛光寺の境内にあり、地域のコミュニティと連動するギャラリーを併設。お茶所は季節を味わうカフェスペースとして展開している。また、定期的に勉強会を開催するなど、さまざまなデザイン活動を展開している。

9. 大阪府 大阪市 御堂筋周辺



過去のイベント実施実績

1. 大阪・光の饗宴2017

会場：御堂筋イルミネーション2017：御堂筋（阪神前交差点から難波西口交差点）、OSAKA光のルネサンス2017：大阪市役所周辺から中之島公園、エリアプログラム：府内各所

動員数：1日あたり約150,000人（2016年総動員数約2,260,000人）

期間：大阪・光の饗宴2017：2017年11月12日（日）～2017年12月31日（日）（御堂筋イルミネーション2017：2017年11月12日（日）～2017年12月31日（日）、OSAKA光のルネサンス2017：2017年12月14日（木）～2017年12月25日（月））

主催団体：大阪・光の饗宴実行委員会

概要：「御堂筋イルミネーション」と「OSAKA光のルネサンス」をコアプログラムに、府内23の光のプログラムとともに大阪の魅力を彩る「光のミュージアム」として展開し、「水と光の首都大阪」のブランド確立・向上や大阪の観光振興、活力向上に取り組む。

Webサイト：<http://www.hikari-kyoen.com/renaissance/>

2. 大阪クラシック

会場：大御堂筋を中心とした会場や中之島エリア

動員数：50,000～100,000人

期間：2017年9月10日（日）～2017年9月16日（土）

主催団体：大阪クラシック実行委員会（大阪市、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会、御堂筋まちづくりネットワーク）

概要：大阪の4大オーケストラと国内でも数少ないプロの吹奏楽団で繰りひろげるクラシック音楽の祭典。初秋の1週間、一流のクラシック音楽に誰でも気軽に親しんでいただく機会として、大阪のメインストリートである御堂筋や水の都大阪を象徴する中之島エリアにおいて、オフィスビルのエントランスやホテルのロビーなどで、小編成アンサンブルによる無料コンサート（59公演）や、低料金の有料コンサート（22公演）を開催。無料公演においては、車椅子を使用できる鑑賞スペースを十分に確保した会場を設けたり、障がいをもつ子たちのための貸切招待公演を開催している。

Webサイト：<http://www.osaka-classic.com/>

3. 御堂筋オータムパーティー2017 御堂筋ランウェイ

会場：御堂筋（久太郎町3交差点～新橋交差点）

動員数：1日あたり約300,000人

期間：2017年11月12日（日）14:00～16:00

主催団体：御堂筋パーティー2017実行委員会

概要：大阪のメインストリート「御堂筋」において集客力のあるイベントを実施することで、大阪の魅力を国内外にアピールする。

Webサイト：<http://www.midosuji-runway.com/>

4. 大阪文化芸術フェス2017

会場：大阪府内会場、万博記念公園

動員数：約45,600人（開催期間）

期間：2017年10月1日（日）～10月31日（火）

主催団体：大阪文化芸術フェスティバル実行委員会

概要：伝統芸能から現代の音楽、舞台芸術など、人々を惹きつける質の高い様々なコンテンツを、大阪をはじめ府外から集め、府内全域で特定期間に集中して見せることで、大阪のエンターテインメント性を際立たせ、多くの観光客を呼び込むとともに、大阪の魅力を国内外に発信していくことにより、国際エンターテインメント都市にふさわしい、世界に誇る文化イベントを目指す。

Webサイト：<http://www.pref.osaka.lg.jp/bunka/bunfes/index.html>

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

直近では、2018年の実施に向けて検討している。2020年以降のイベントについては未定。

○将来計画における課題・展望

追加アンケート調査期間内では把握できなかった。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	道路管理者である大阪市に確認の必要あり
騒音制限	道路管理者である大阪市に確認の必要あり
食品規制（飲食不可）	道路管理者である大阪市に確認の必要あり、火器使用の場合は消防局の許可が必要
道路使用許可	警察、大阪市道路管理者の許可が必要
車両乗り入れ規制	道路管理者である大阪市に確認の必要あり
利用時間規制	警察、大阪市との協議により確定
エリア内での特有な規制	沿道企業に交通規制や騒音が伴うイベントであることを事前に説明する必要あり
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	警察、大阪市等との協議による
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	大阪市、警察、消防局、地元団体・企業など

※本調査では関係市役所等に照会し留意すべき規制を記載しているが、本エリアについては関係者が多岐に渡り調査期間内で詳細な回答が困難であったため、確認の必要がある関係者の記載とした。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙げられている課題・要望について

- 沿道企業から、騒音、植栽の破損などによる苦情が出るケースがある。

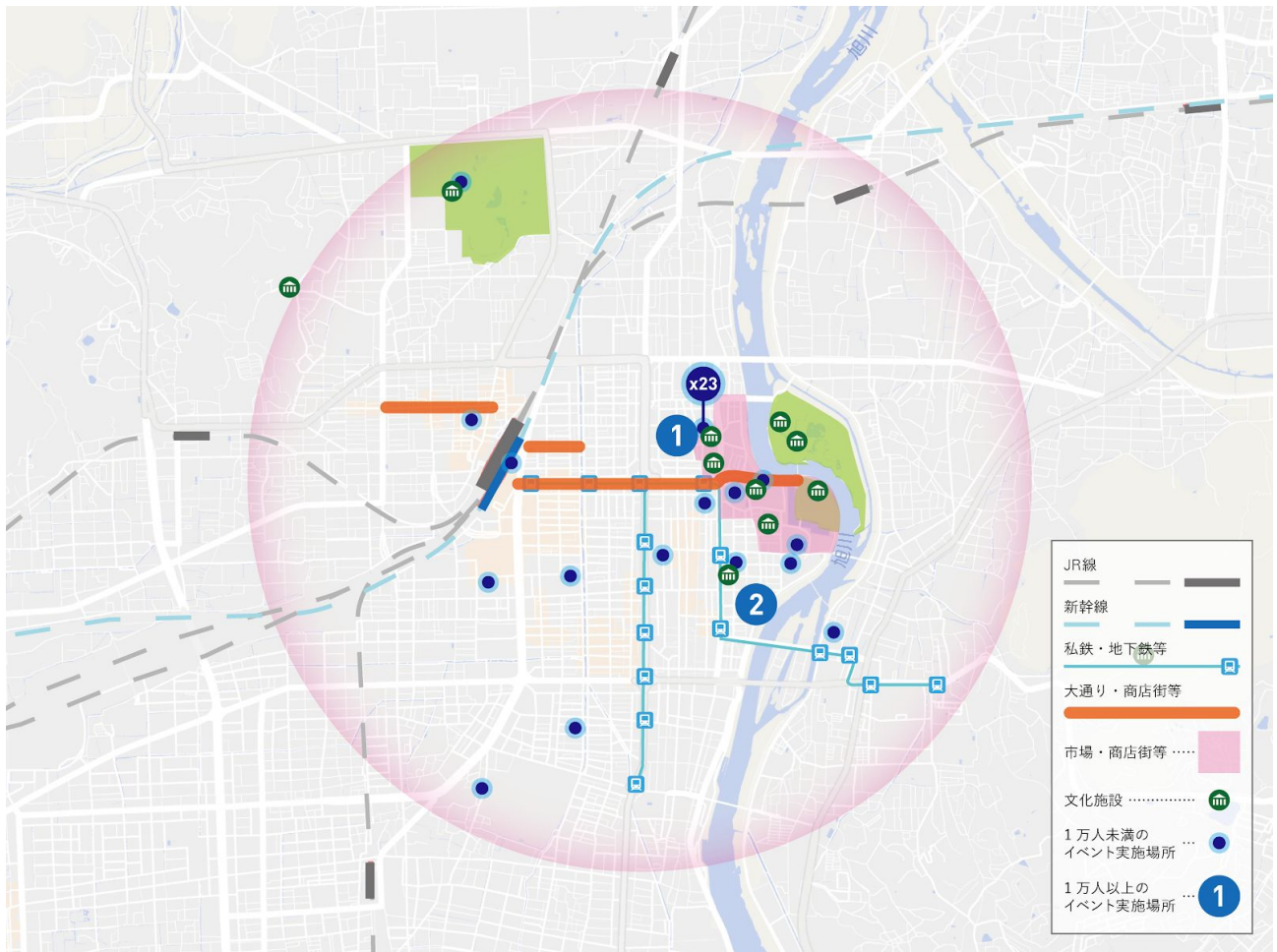
○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙げられている課題・要望について

- イベント開催の周知期間が短いという点。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- 御堂筋オータムパーティー
毎年、圧倒的なパフォーマンスをそなえたオンリーワンコンテンツを実施しており、出演者、演出など好評を得ている。テレビ、新聞、Webサイトで広く取り上げられている。

10. 岡山県 岡山市 桃太郎通りから岡山城周辺



過去のイベント実施実績

1. 第15回おかやま県民文化祭

会場：岡山県天神山文化プラザ 1階ホール

動員数：100,000人～

期間：2017年8月19日（土）～2017年11月30日（木）

主催団体：公益社団法人岡山県文化連盟、岡山県、おかやま県民文化祭実行委員会、開催地市町村

概要：県民が生き活きとした活動をするためには、文化の振興を通じて豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域を創造することが必要であり、文化の力を活用した地域づくりの推進、将来の文化の担い手育成に向け、県民総参加で文化の祭典を開催する。今年度から、2020年に開催される東京2020大会の「アクション&レガシー」を見据え、岡山においても積極的にムーブメントの一翼を担うべく、岡山文化の再認識と承継・発展、国内外への魅力発信に積極的に取り組む。また、ソーシャルインクルージョンを尊重する機運の醸成を図り、誰もが参加・交流し、成果を発表できる環境づくりを推進する。会場はバリアフリー対応とするとともに、外国語表記のチラシなどを用意し外国人との交流を促進する。

Webサイト：<http://www.o-bunren.jp/index.html>

2-1. 第17回おかやま桃太郎まつり・秋のおかやま桃太郎まつり

会場：納涼花火大会：旭川西中島河原一帯、うらじゃ：岡山市内各所・パレードは岡山市役所筋、秋のおかやま桃太郎まつり：岡山城

動員数：計1,040,000人（おかやま桃太郎まつり：8/5うらじゃ15万人、8/6うらじゃ40万人、8/5花火33万人、秋のおかやま桃太郎まつり：16万3千人）

期間：第17回おかやま桃太郎まつり：2017年8月5日（土）～6日（日）、秋のおかやま桃太郎まつり：2017年10月7日（土）～9日（月）

主催団体：おかやま桃太郎まつり運営委員会

概要：夏は花火大会やうらじゃ、秋は食と芸能と歴史のイベントを実施。

Webサイト：<http://www.okayama-momotaro-fes.jp/>

2-2. 京橋朝市、京橋朝市（全国有名朝市フェア）、京橋朝市（メ市）

会場：京橋西詰め旭川河川敷及び旭川堤防緑地一帯

動員数：京橋朝市25,000人、全国有名朝市フェア28,000人、メ市25,000人

期間：京橋朝市毎月第一日曜日、全国有名朝市フェア：2017年10月1日（日）、メ市：2017年12月29日（金）

主催団体：京橋朝市魅力アップ事業実行委員会

概要：県内出店者による展示即売、全国朝市の出店者（9市町）による特産品の展示即売、カヌー教室等イベント。

Webサイト：<http://www.kyoubashiasaichi.com/BD/home/>

スペースの活用性に関する実績

自由参加型：飲食イベント（秋のおかやま桃太郎まつり等）

観覧鑑賞型：パレードイベント（うらじゃ）、打ち上げ型イベント（花火）、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

2018年は、岡山城、後楽園等で以下のイベントを開催予定。

- ・ 4月下旬（岡山城：春の烏城灯源郷 岡山後楽園：春の幻想庭園）10日程度
- ・ 8月中（岡山城：夏の烏城灯源郷 岡山後楽園：夏の幻想庭園）1ヵ月程度
- ・ 8月上旬（岡山市内各公園及び市役所筋：うらじゃ 旭川河川敷：花火大会）2日程度
- ・ 10月中旬（岡山城：秋のおかやま桃太郎まつり）3日程度
- ・ 11月中旬（岡山城：秋の烏城灯源郷 岡山後楽園：秋の烏城灯源郷）10日程度
- ・ 12月上旬～中旬（岡山駅東口広場 MOMOTAROH FANTASY）1ヵ月程度

※2019年12月より、烏城公園（石山公園地区）は、公園施設撤去工事が開始されるため、使用不可となる予定。

○将来計画における課題・展望

- ・ おかやま桃太郎まつりに関して、外国人観光客の増加による外国語対応（案内業務、広報媒体）が課題。2017年度より、一部会場で外国語の会場アナウンスを実施するなどの対応をとっているが、反省点を活かして2018年度実施の際には外国語対応スタッフを仮設観光案内所に配置したり、外国語版の案内図等を作成して改善を図る予定で調整中。
- ・ そのほかの課題として、近年気温が高くなってきており、熱中症への対策が課題としてある。2018年度実施の際も、今年度に引き続き救護スタッフの配置や救護部品の充実を図り、引き続き安心・安全なイベント運営ができるよう調整していく予定。

-
- ・ おかやま桃太郎まつり運営委員会として規制を行っているのは、岡山県警に協力を仰いで実施する交通規制のみ。中心市街地で開催するまつりであることから、交通渋滞や騒音問題などまつり実施に際して様々な影響があるが、地元町内会、大型商業施設や宿泊施設等に事前の説明・協議を実施して地域協力のもとイベントを開催している。今後についても同様のスキームで実施予定。
 - ・ 近年のイベントでは、歩きスマホやドローンの飛行など、時代の流れに沿って危険な行為も見受けられることから、岡山市では事前に岡山県警との協議により歩きスマホを禁止する看板を設置したり、チラシやホームページ等で会場内でのドローンの飛行を禁止するルール作りを行っている。今後についても岡山県警との協議・調整を行いながら実施予定。
 - ・ おかやま桃太郎まつりでは、地元マスコミ（山陽新聞社・山陽放送・岡山放送・テレビせとうち）が運営に携わっていることから、情報発信には各地元マスコミの情報発信手段（TVCM告知、新聞掲載、ラジオ告知等）を活用して行っている。また、おかやま桃太郎まつりの公式ホームページを管理運営しており、そこで随時情報を更新しながら発信するとともに、紙媒体（チラシ、ポスター）やSNS（うらじゃFacebook等）での情報発信も行っている。また、市役所からのプレス発表や広報誌への掲載、市Facebookを活用した情報発信も併せて行っている。
 - ・ 2018年度で第18回目を迎えるおかやま桃太郎まつりだが、特にうらじゃに関しては第25回目を迎える年となり、岡山の代表的なまつり（踊り）として定着してきたと考える。今後は、岡山市外の観光客の方にもうらじゃの事を知っていただき、岡山市に訪れるきっかけになるように積極的に情報発信をするとともに、各種イベントを充実させながら来場者が楽しめるイベントにしていきたい。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	<ul style="list-style-type: none"> 屋外広告物条例 屋外広告物禁止地域、第1種許可地域及び第3種許可地域が混在しているため、それぞれの地域ごとに規制の内容が異なる。（詳しい区域分けは岡山市都市計画情報システム参照）また、桃太郎大通り、市役所筋、西側緑道公園筋・枝川筋、県庁通り沿いは屋外広告物モデル地区に指定されているため、追加の規制がある。ただし、国又は地方公共団体が公共的目的をもって表示する広告物や、祭礼等の一時的広告（2週間以内）であれば協議のうえ適用除外となる。
騒音制限	<ul style="list-style-type: none"> 騒音規制法に係る指定地域内であるため、40～70 d bの規制がかかる可能性がある。
食品規制（飲食不可）	<ul style="list-style-type: none"> 場所に関わらず、複数日にわたり、イベントを行う場合、保健所にて営業許可が必要（一日のみであれば届出）。屋台で営業を行う場合は、簡易な調理品しか扱うことができない。弁当など複雑な調理を伴う食品は扱えない。また、未加熱の調理品（寿司等）の提供は原則不可。 岡山城内には国重要文化財の城の櫓があるため、火気の使用には条件がつくことがある。
道路使用許可	<ul style="list-style-type: none"> 道路を使用する場合は必要。詳細は岡山県警察署に確認が必要。 許可の可否については、実施時期・規模などで個別に判断。
車両乗り入れ規制	<ul style="list-style-type: none"> 『烏城公園（石山公園地区を含む）』及び旭川烏城公園緑地及び石関緑地については、原則車両の乗り入れは不可（緊急車両を除く）。ただし、イベントに付帯する資材搬入車両のみ許可申請後、公園南の橋から可能だが、構造及び幅員の関係から4t以下の車両しか進入できない。 石山公園エリア及び旭川烏城公園緑地及び石関緑地への資材搬入のための車両乗り入れは、別途北側（旭川土手）からの進入も可能（この入り口から、烏城公園（本丸方面）へ進入走行することは不可）。車両の重量規制はない。
利用時間規制	<ul style="list-style-type: none"> 烏城公園（石山公園地区を含む）及び旭川烏城公園緑地及び石関緑地は、24時間開放の公園となっている。
エリア内での特異な規制	<ul style="list-style-type: none"> 岡山城、岡山後楽園ともに史跡であるため、文化財保護法の適用を受け、仮設物等の設置には、埋蔵文化財保護等の観点から一定の制限がある 烏城公園は、歴史公園となっているため、掘削等に規制がある 烏城公園（石山公園エリア）に隣接する旭川烏城公園緑地及び石関緑地は河川法の関係より、杭の打ち込み等は不可 後楽園は、国特別名勝であるため、その価値を損なうような使い方には配慮が必要
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	<ul style="list-style-type: none"> ○岡山城、後楽園等 4月下旬（岡山城：春の烏城灯源郷 岡山後楽園：春の幻想庭園）10日程度 8月中（岡山城：夏の烏城灯源郷 岡山後楽園：夏の幻想庭園）1ヵ月程度 8月上旬（岡山市内各公園及び市役所筋：うらじゃ 旭川河川敷：花火大会）2日程度 10月中旬（岡山城：秋のおかやま桃太郎まつり）3日程度 11月中旬（岡山城：秋の烏城灯源郷 岡山後楽園：秋の烏城灯源郷）10日程度 12月上旬～中旬（岡山駅東口広場 MOMOTAROH FANTASY）1ヵ月程度 ※上記を開催予定のため、別の催事は開催不可（その他、岡山城・岡山後楽園ともに年間催事あり）
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	<ul style="list-style-type: none"> 国（岡山河川事務所） 県（観光課、都市計画課、後楽園事務所、県警等） 市（各区役所地域整備課、都市計画課、観光コンベンション推進課、就学課、文化財課、消防局等） 岡山市公園協会 おかやま観光コンベンション協会 旭川南部漁協 地元町内会 等 JR岡山駅 等 その他民間土地所有者 等

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

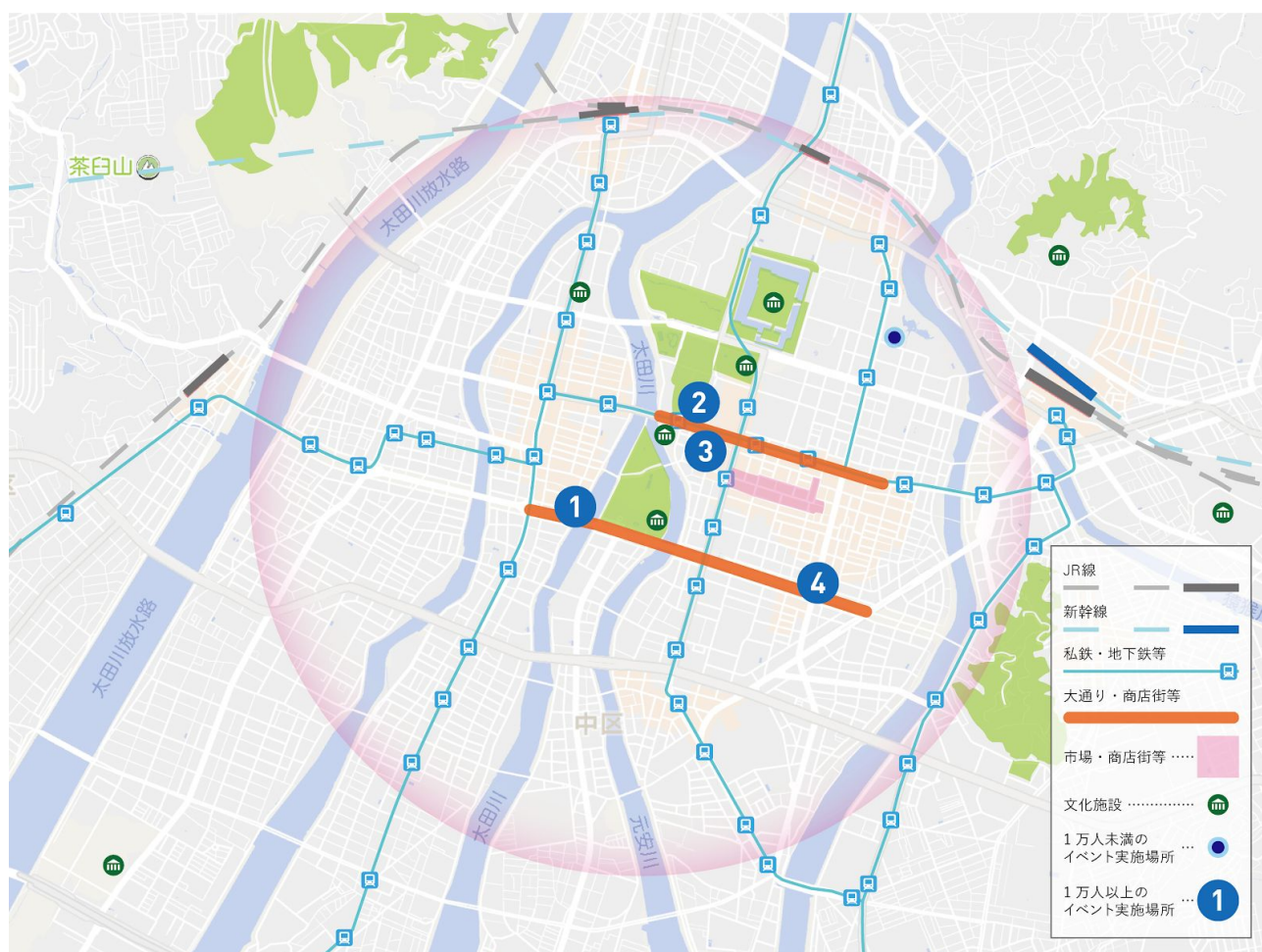
○様々なイベント実施者から挙げられている課題・要望について

石山公園をはじめ、公園でのイベントの際には、電気設備は持ち込みが原則となる点がイベント実施者から課題として挙げられている。また、公園内に、臨時的に用品類を収容できる倉庫がないことも課題。設営準備の際は、もともと人が集う観光地・公園であるだけに、来場者動線と搬出入動線が重なってしまうため、これへの対応（警備員）も必須となる。来場者の駐輪場、主催者用駐車場の確保も常に課題となっている。

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙げられている課題・要望について

岡山城でイベントを実施する際には、そもそも城目的で来た観光客にとって、イベントは「余計なもの」と受け止められることもある。特に城の天守閣前広場で何かイベントをすると、記念写真の撮影の妨げになる場合もあり、苦情となることもある。公園は市民の憩いの場でもあり、日常的に使用している市民からは、イベントが行われていると、通りにくくなったり騒々しくなったりすることで、これも苦情となることがある。

11. 広島県 広島市 平和記念公園周辺



過去のイベント実施実績

1. ひろしまフラワーフェスティバル

会場：平和大通り

動員数：約510,000人（3日間1,540,000人）

期間：2017年5月3日（水・祝）～5月5日（金・祝）

主催団体：ひろしまフラワーフェスティバル実行委員会

概要：「広島と世界を結ぶ平和の花の祭典」として開催される、広島を代表する春のお祭り。期間中は、平和大通りを中心会場にパレードをはじめ、踊りや音楽のステージ、物産展、フリーマーケットなど、多彩な催しが展開される。

Webサイト：<http://www.hiroshima-ff.com/>

2. ひろしまフードフェスティバル 冬の陣

会場：旧広島市民球場跡地

動員数：約38,000人（総動員数76,000人）

期間：2018年2月3日（土）10：00～2月4日（日）16：00

主催団体：「ひろしまフードスタジアム冬の陣」実行委員会（事務局：株式会社中国放送）

概要：広島冬の味覚が一堂に会する食のビッグイベント。目玉となるのが、直径3mの巨大鍋で作る、広島産の牡蠣がたっぷり入った「牡蠣鍋」。その他、広島のソウルフードお好み焼きをはじめ、県内の旬のグルメが集結する。

Webサイト：<http://rcc.jp/event/foodstadium/>

3. 「広島神楽」定期公演

会場：広島県民文化センター 多目的ホール

動員数：10,000～30,000人

期間：2017年4月5日（水）～2017年12月27日（水）

主催団体：RCC文化センター・イズミテクノホールマネジメントグループ共同事業体

概要：日本古来の神話や伝承、歴史物語を舞で表現する伝統芸能「神楽」。なかでも中国地方に伝わり現在でも150ちかい神楽団によって県内各地で盛んに行われている「広島神楽」（芸北神楽）を、広島平和記念公園にもほどちかい市内中心部のイベントホールで、4月から12月までの間の毎週水曜日の夜、年40回近く上演している。伝統芸能ながら娯楽性の高い「広島神楽」を中国地方の新たな観光資源として国内だけでなく、海外からの観光客の皆様にもご覧いただくために、英語の掲示物、案内を設置し、より深く神楽を楽しんでいただくために出演神楽団の紹介や上演演目の内容について英語のチラシを配布している。

Webサイト：<http://www.rcchall.jp/bunkac/>

4. ゆかたできん祭

会場：広島市内中心部一帯

動員数：1日あたり約13万人（3日間395,000人）

期間：2017年6月2日（金）～6月4日（日）

主催団体：ゆかたできん祭実行委員会

概要：広島に夏の訪れを告げる祭りで、広島地方のゆかたの着始めとなっているイベント。ゆかたファッションショーや踊りなどのイベントを実施するとともに、飲食ブースなど多彩な催しが展開される。

Webサイト：<http://www.chushinren.jp/eventinfo/yukata.htm>

○スペースの活用性に関する実績について

観覧鑑賞型：アートイベント、イルミネーションイベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

ひろしまフラワーフェスティバル（1977年から毎年開催）、ゆかたできん祭（2003年から毎年開催）、ひろしまフードスタジアム冬の陣（2016年から毎年開催）については、地域に定着しているため半永久的に継続されることが予想される。

○将来計画における課題・展望

追加アンケート調査期間内では把握できなかった。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	平和記念公園周辺は景観形成広告整備地区のため規制がある。
騒音制限	平和記念公園については不明。
食品規制（飲食不可）	平和記念公園については不明。
道路使用許可	道路使用許可は必要。
車両乗り入れ規制	平和記念公園園内への車両乗り入れは許可書が必要。
利用時間規制	平和記念公園については不明。
エリア内での特有害な規制	平和記念公園については不明。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	道路のため、原則利用不可。 ひろしまフラワーフェスティバルは県・市・地元経済界等の総意で例外的に開催している。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	国（国道）、市（緑政課、区役所など）、商店街など

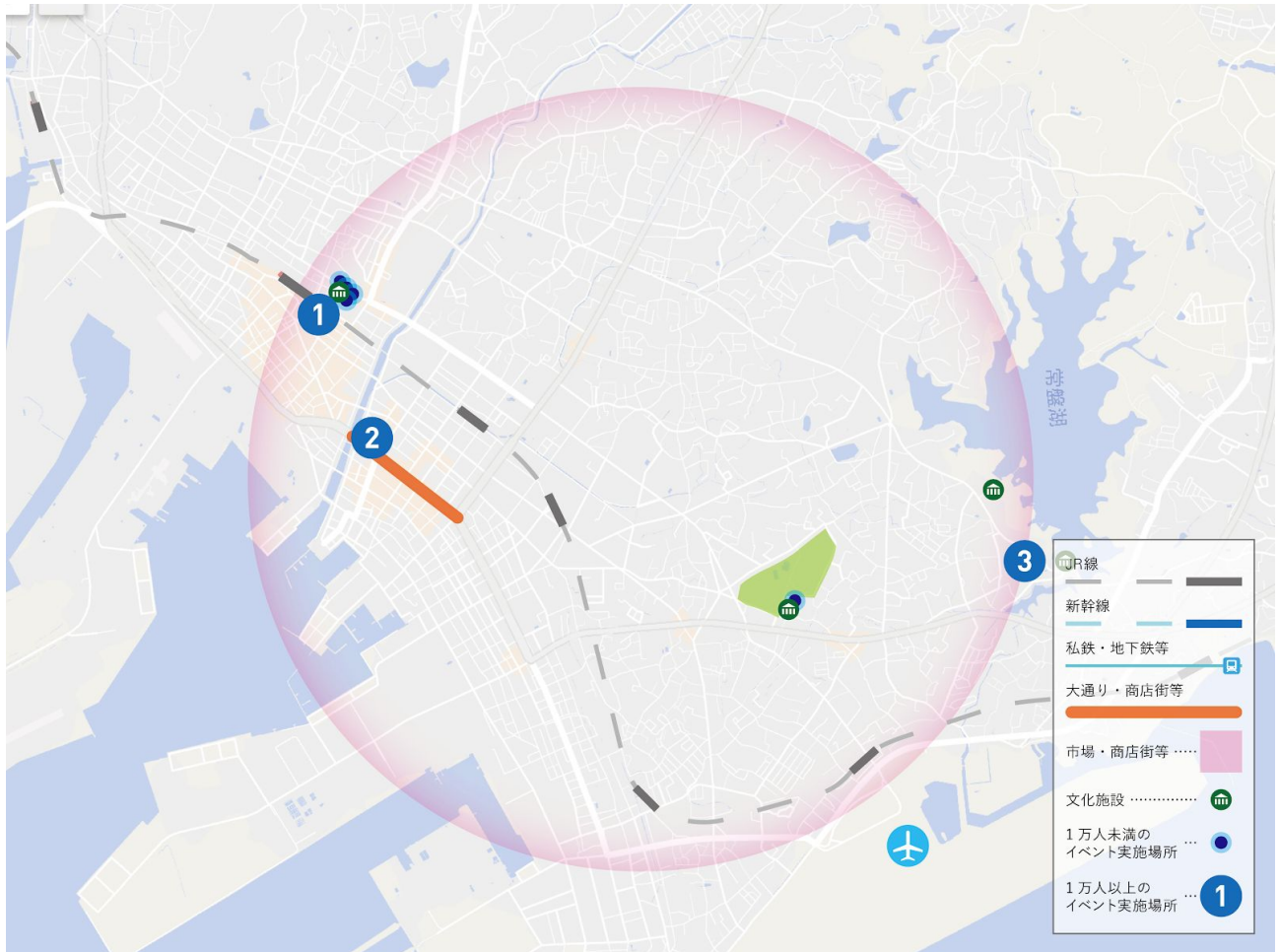
※本調査では関係市役所等に照会し留意すべき規制を記載しているが、本エリアについては関係者が多岐に渡り調査期間内で詳細な回答が困難であったため、確認の必要がある関係者の記載とした。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙げられている課題・要望について

- ・ ステージの設営や車両の移動に道路の木々が支障になる場合があるが、緑化推進の観点から勝手に剪定できない。

12. 山口県 宇部市 宇部市役所周辺



過去のイベント実施実績

1. 宇部市芸術祭

会場：宇部市文化会館（主会場）

動員数：10,000人～30,000人

期間：2017年9月3日（日）～2017年12月17日（日）

主催団体：宇部市・宇部文化連盟

概要：1969年の初開催以来、規模・内容を年々充実させ、2017年度は、展示部門、文芸部門、舞台部門、総合部門など、古典から現代まで様々な芸術分野にわたり、計27行事、また、芸術祭のさらなる活性化を狙った芸術祭活性化事業6事業の合計33事業が、宇部市文化会館などで多くの参加者のもと繰り広げられる山口県内でも有数な総合文化祭となっている。有料行事では、障がい者につき、介助者1名までは入場料無料とし、会場はバリアフリー対応・車椅子専用スペースを設けるなど、障がい者にとってのバリアフリーをなるべく取り除き、障害の有無に関わらず、誰もが文化事業等に参画できる社会の実現に向けた取り組みも併せて行いたいと考えている。

Webサイト：<http://ube-bunzai.jp/>

2. 第66回宇部祭り

会場：宇部市役所周辺

動員数：1日あたり約50,000人

期間：2017年11月4日（土）～11月5日（日）

主催団体：宇部まつり実行委員会（事務局：一般財団法人宇部観光コンベンション協会）

概要：石炭産業の隆盛により発展した宇部市で、1934年に「炭都祭」としてスタートした。中心街で2日間にわたり開催される市内最大のお祭りで、前夜祭ではステージイベント、本祭では、宇部市のメインストリート上で、「南蛮音頭」による大パレード・市民総踊り等が繰り広げられる。江戸時代、当地の石炭の採掘現場で使用された揚巻装置（南蛮車）の名前を由来とする「南蛮音頭」は広く市民に親しまれており、毎年5,000人以上が参加するイベントとなっている。メイン会場の市役所周辺街路などはバリアフリーで車椅子による平面移動に配慮し、また、手話通訳が可能なスタッフの配置をはじめ、案内・誘導など50人以上のスタッフのもと障がい者がお祭りに容易に参加できる体制を整えている。

Webサイト：http://www.city.ube.yamaguchi.jp/houdou/kouhou_kankou/h29/66ubematsuri2017.html

3-1. 第27回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）

会場：UBEビエンナーレ彫刻の丘（ときわ公園内）

動員数：約50,000人～100,000人

期間：2017年10月1日（日）～2017年11月26日（日）

主催団体：宇部市、UBEビエンナーレ運営委員会、毎日新聞社

概要：UBEビエンナーレは、山口県宇部市ときわ公園を会場に開催している野外彫刻の展覧会。1961年より開催を続け2011年には通算26回、50周年を迎えた。現在では、世界30カ国のアーティストが応募する世界でも最も古い歴史を持つ大規模な国際コンクールへと発展し、前回展の来場者は過去最高となる9万人を数えた。第27回展では、世界29カ国277点の応募の中から選ばれた18点の野外彫刻と40点の入選模型作品を展示し、様々な関連イベントを開催する。会場は段差の無いバリアフリーとなっており、出品作品のほとんどは直接触れることが可能。また、外国人向けのサイトや、パンフレット・チラシ等を作成している。

Webサイト：<http://ubebiennale.com/>

3-2. 第27回UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ2017

会場：UBEビエンナーレ会場：UBEビエンナーレ彫刻の丘（ときわ公園内）他3会場（うべの里アートフェスタ会場：市内北部地区）、（まちなかアートフェスタ会場：中心市街地）、芸術祭主会場（宇部市文化会館）

動員数：約100,000人

期間：2017年10月1日（日）～2017年11月26日（日）

主催団体：宇部市、第27回UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ2017実行委員会

概要：戦災からの復興や公害克服の過程で、日本で初めて「彫刻によるまちづくり」に取り組んだ先人たちの精神（こころ）と取組を受け継ぎ、まちづくりの原点に立ち返り、“ひと”と“まち”の活力を生み出すため、UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）を核として、芸術作品から身近なアートまで、そして、宇部の食（グルメ）や文化を見て、感じて、体験できる楽しい空間がまちじゅう（市内4会場）にひろがる魅力的なイベントの創出に取り組み、新たな宇部の魅力を創出します。各会場においては、バリアフリー対応とし、ホールは車椅子対応席を設けるなど、障害の有無に関わらず、誰もが文化事業等に参画できる社会の実現に向けた取り組みを併せて行いたいと考えています。

Webサイト：<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント、コスプレイベント

観覧鑑賞型：大型ステージイベント、パレードイベント、映像コンテンツイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

2020年までのイベント実施予定

- ・ 宇部まつり（毎年11月第一日曜とその前日の前夜祭が行われ、2020年には69回を迎える。）
- ・ 新川市まつり（毎年5月3日～5日開催。5日は道路規制をして「うべ狐の嫁入り行列」が行われる。）
- ・ 宇部市花火大会（毎年7月の第4土曜日開催。2020年には66回を迎える。）
- ・ まちなかアートフェスタプレイベント（2018年）
- ・ まちなかアートフェスタ（2年に1度開催、次回は2019年に開催予定）
- ・ 宇部市芸術祭（1944年から毎年開催 今後も継続開催予定）
- ・ 市街地から車で10分のときわ公園では、世界で最も歴史のある野外彫刻展「第28回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」を2019年に開催予定。2018年は、第28回UBEビエンナーレ応募作品展（模型展など）。
- ・ ①「UBEビエンナーレ」に、中心市街地の②「まちなかアートフェスタ」、北部地区の③「うべの里アートフェスタ」、文化会館・記念会館がメイン会場の④「宇部市芸術祭」を加えた、「ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」を2018年に開催する予定。

2020年以降のイベント実施予定

- ・ 宇部まつり、新川市まつり、宇部市花火大会・宇部市芸術祭はすべて2020年以降も実施する予定
- ・ UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）は隔年開催で、2020年以降も継続的に開催予定

○将来計画における課題・展望

訪日外国人の増加により、英語サインおよび外国語対応スタッフの人材確保が課題となっている。空き店舗を使って作品等を展示しているため、毎回同じ会場が使えるとは限らない。また、長期で店舗を借りる人が現れた場合、会場変更を余儀なくされる可能性があるため、イベント自体を流動的に考えていく必要がある（まちなかアートフェスタ）。また、周辺住民の高齢化や訪日外国人の受入環境の整備も必要。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	山口県屋外広告物条例に基づく規制地域は存在する。
騒音制限	騒音規制法に基づく規制区域が定められている地域がある。また、渡辺翁記念会館・宇部市文化会館をはじめ宇部市の中心市街地（住宅の多い）であるため、音量には注意する必要がある。
食品規制（飲食不可）	渡辺翁記念会館及び宇部市文化会館文化ホールの客席内及びステージ上は飲食不可。他はロビーを含めて飲食可。 また、常盤通り等でのイベントにおいては、保健所の指導によるが、特別な規制はなし。
道路使用許可	宇部まつりやまちなかアートフェスタのイベントは道路使用許可が必要。また、実際に許可がおり通行規制をしている。
車両乗り入れ規制	渡辺翁記念会館は11トンまで可能。 宇部市文化会館は搬入口前の道路が狭いため、4トンまで。
利用時間規制	渡辺翁記念会館・宇部市文化会館共に開場時間は9時～22時。まちなかアートフェスタは、商店街で9時～19時30分。 宇部まつりは、近隣住民への配慮として、前夜祭は21時まで。ごみ収集は翌日6時～としている。
エリア内での特有な規制	渡辺翁記念会館は国重要文化財なので、建物保護の観点から、原則的に床や壁へのテープ張りは禁止。 また、渡辺翁記念会館の前庭部分への車両乗り入れ不可など。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	渡辺翁記念会館・宇部市文化会館：利用可能日数約300日程度。12/29～1/3、毎月第3火曜日は休館日。その他保守点検日あり。1月初頭の週末は出初式、成人式が必ず行われる。その他、毎年恒例となっている貸館の演奏会などが複数あり。 宇部まつりが開催される常盤通りや商店街は、地元や警察との調整の上、他のイベントとかぶらない限り可能。
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	渡辺翁記念会館・宇部市文化会館：一般財団法人宇部市文化創造財団（指定管理者）、道路管理者（国道、県道、市道）、警察、商店街、地元自治会、近隣住民など、駐車場管理者。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙がっている課題・要望について

- ・ 渡辺翁記念会館・宇部市文化会館ともに付随する駐車場が狭い。
- ・ 毎年開催する恒例イベントの内容マンネリ化など。

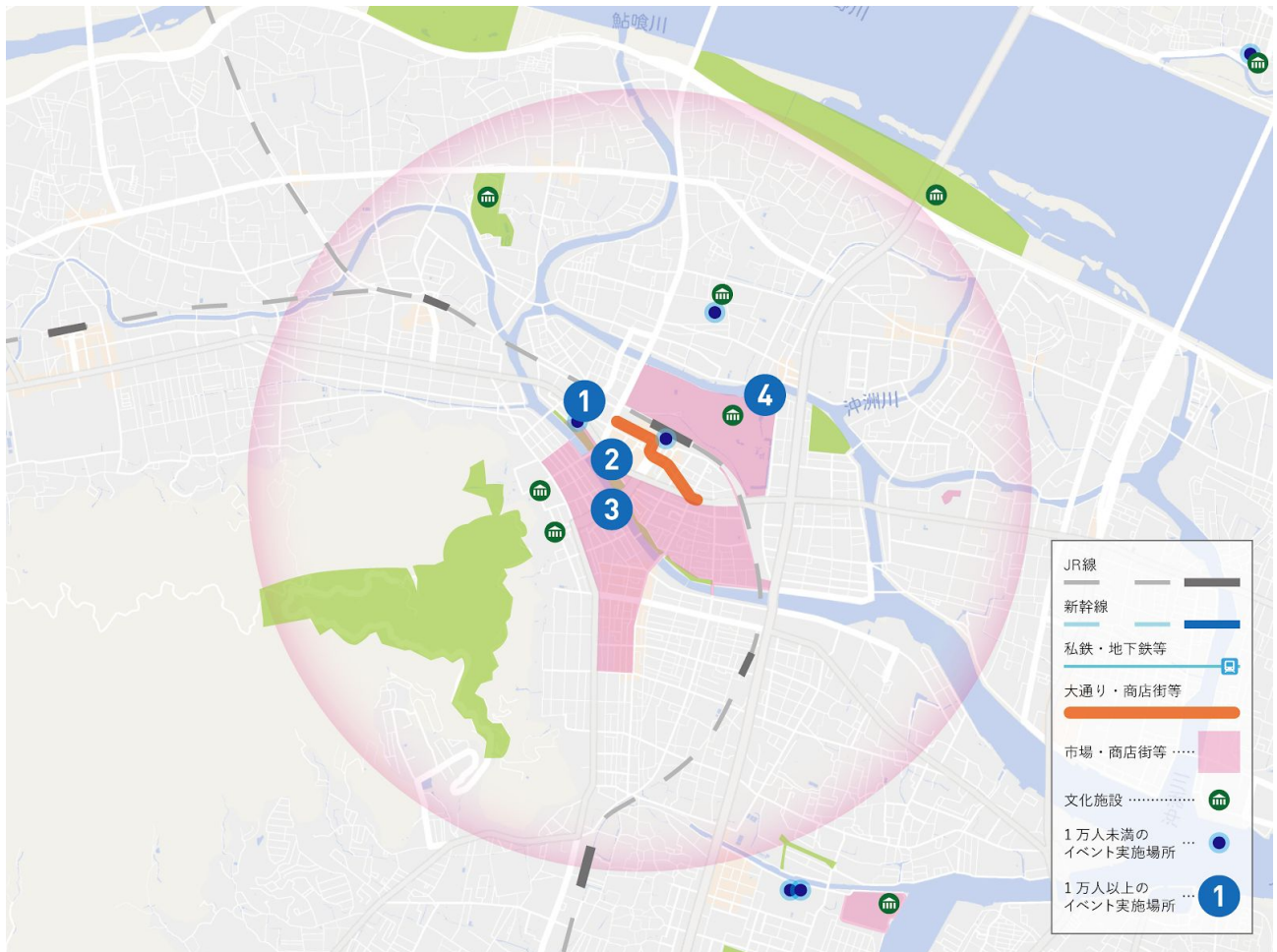
○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

- ・ 観光客、特に訪日外国人が利用すると思われる公共交通機関の運行頻度が少ない。
- ・ 渡辺翁記念会館2階席へ上がる手段が階段しかない（国重要文化財なので原則改修不可）。
- ・ 渡辺翁記念会館・文化会館の駐車場が少ないこと。
- ・ 市街地からクルマで10分のときわ公園は、近年、韓国人観光客が多く、園内にはハングルをはじめとする多言語表記が進んでいる。
- ・ 市街地に隣接する山口宇部空港からソウル/インチョンの国際定期便（冬季）が週3便運航されており、訪日外国人が増えているが、空港からの二次交通が弱い。空港隣接にJR駅があるが、1本/1時間程度。空港連絡バスは、市中心部を含め県内各地から発着。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- ・ 宇部市渡辺翁記念会館
日本を代表する建築家・村野藤吾氏の出世作とも言われる「宇部市渡辺翁記念会館」は、1937年の開館から80年を越えながらも現役で稼働するホールで国の重要文化財に指定されてる。昭和初期の重厚かつ歴史的な建築美を持ち、多くの建築関係者や愛好家、学生が見学に訪れる。1951年、バイオリン奏者・メニューインの来日時の演奏会場に指定されたことで音響効果の優れたホールとして注目を浴びようになり、今日まで多くの演奏家が訪れた。
- ・ ヒストリア宇部、宇部興産ビル（ANAクラウンプラザホテル宇部）
市役所前の常盤通沿いにある「ヒストリア宇部」や中心市街地の「宇部興産ビル（ANAクラウンプラザホテル宇部）」も同じく村野藤吾による設計であり、そのデザインの斬新さも含め、建物の素晴らしさを地域の新聞や雑誌等で取り上げられている。
- ・ サンタクロスロード
毎年11月末～翌1月初旬に「サンタクロスロード」では中心市街地である宇部中央銀天街が舞台のイルミネーションイベントが開催される。
- ・ パンマルシェ
2017年に宇部新天町名店街で実施した「パンマルシェ」は商店街の活性化に繋がったと地元住民から声をいただき、参加者からは普段購入できない関東圏などの有名パン屋のパンが地元で購入できた喜びの声をいただいた。
- ・ UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）
市街地からクルマで10分のときわ公園では、1961年から世界で最も歴史のある野外彫刻展を開催し、2017で第27回を迎えた（隔年開催）。また、2015年から、①「UBEビエンナーレ」に、中心市街地の②「まちなかアートフェスタ」、北部地区の③「うべの里アートフェスタ」、文化会館・記念会館がメイン会場の④「宇部市芸術祭」を加えた、「ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」を市内一円で開催している。2017年の期間は、10月1日（日）～11月26日（日）（来場者：165,763人）。
- ・ SNSでの動向
地元の若者がメインとなり地域活性のために行うイベントで、SNSでの情報発信を積極的に行っている。

13. 徳島県 徳島市 藍場浜公園周辺



過去のイベント実施実績

1. 第72回徳島県美術展・第13回徳島県こども美術展

会場：あわぎんホール

動員数：約10,000～30,000人

期間：2017年10月6日（金）～2017年10月25日（水）

主催団体：徳島県民文化祭開催委員会・徳島県美術家協会・徳島新聞社

概要：広く県民から個性と創造性豊かな作品を公募し、公開審査により、優秀な作品を選ぶ。優れた作品は、展示・表彰し、県内美術愛好家の活性化を図る。郷土の優れた美術鑑賞の機会を県民に提供することで、本県の芸術文化の発達振興に寄与する。展示会場においては、誰もがたやすく鑑賞できるようにバリアフリーに対応した会場とし、人にやさしい環境を整える。併せて、次世代の育成を目指して、小・中学生を対象とするこども美術展を開催する。

Webサイト：<https://toku-bikyo.info>

2. 徳島市 阿波おどり

会場：はなはるフェスタ：徳島市藍場浜公園、阿波おどり：県内各地（※徳島市では、市役所前演舞場、藍場浜演舞場、紺屋町演舞場、南内町演舞場他5カ所での開催）、秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻～：徳島市 アスティとくしま

動員数：【春】1日あたり約130,000人（総動員数250,000人）、【夏】1日あたり約310,000人（総動員数1,230,000人）

※徳島市阿波おどり、【秋】1日あたり約8,000人（総動員数23,000人）

期間：はなはるフェスタ：2017年4月15日（土）～16日（日）10:00～17:00、阿波おどり：8月11日（金）鳴門市から8月16日（水）まで県内各地（※徳島市阿波おどり8/12（土）～8/15（火））、秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻～：11月3日（金）～5日（日）

主催団体：【春】はな・はる・フェスタ実行委員会、徳島県、徳島市、徳島新聞社、【夏】徳島市観光協会、徳島新聞社、【秋】徳島県、徳島県観光協会

概要：阿波おどりは400年の歴史があり、徳島市の阿波おどりは毎年8月12日から15日まで4日間しており、120万人を超える人出で賑わう。また、現在は夏だけでなく、春には「はなはるフェスタ」秋には「秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻～」を実施し、年間を通じて開催している。徳島の街中が踊り一色となり、演舞場のみならずあらゆる場所で乱舞が繰り広げられる。世界的にも知られる阿波おどりは日本を代表する伝統芸能として海外にも出向きいろんなイベントで公演を行っている。演舞場を踊る連の中には外国人や障がい者の方も踊り込み、観光客の方も「にわか連」で踊りに参加して楽しむことも可能。期間中、阿波おどり総合案内所に通訳（英語・中国語）を配置している。有料演舞場の内、市役所前演舞場に車いす席と外国人専用席を設け、英語通訳を配置。また、仮設トイレの一部に洋式を採用。無料演舞場の内両国本町演舞場に福祉席を設けている。

Webサイト：<https://www.city.tokushima.tokushima.jp/kankou/awaodori/>

3. マチ★アソビ

会場：ポッポ街、JR徳島駅、あわぎんホール、新町橋東公園、ボードウォーク、東新町商店街、阿波おどり会館、眉山ロープウェイ、眉山山頂（すべて徳島市）

動員数：春開催時の1日あたり約27,400人（総動員数82,000人）、秋開催時の1日あたり約27,700人（総動員数83,000人）

期間：【春】2017年5月5日（金）～7日（日）：10:00～21:00、【秋】2017年9月23日（土）～10月9日（月）10:00～21:00

主催団体：アニメ映画祭実行委員会（事務局 徳島県）、アニメまつり実行委員会（事務局 徳島県）、NPO法人マチ★アソビ、徳島県

概要：「マチ★アソビ」は、クールジャパンの代名詞とも言われるアニメコンテンツを中心としたイベントで、『徳島をアソビ尽くす』ことを目的とした複合エンターテイメントとして、春と秋に開催。徳島のシンボルである眉山山頂や新町川周辺、地元商店街、JR徳島駅周辺、徳島阿波おどり空港のアニメジャックなど各地を巻き込み、各エンターテイメント関連会社や人気声優が一堂に会し、様々なイベントを実施している。

Webサイト：<http://www.machiasobi.com/>

4. 55周年記念徳島彫刻集団野外彫刻展

会場：徳島中央公園

動員数：約50,000～100,000人

期間：2017年10月1日（日）～2017年11月10日（金）

主催団体：徳島彫刻集団

概要：徳島城跡を背景にした野外の環境の中で彫刻展を開催し、多くの人々に彫刻に触れ親しみ楽しんでいただく。文化財としての公園内で地域の歴史や文化を感じながら創作のおもしろ白さを味わってもらおう。触れることのできる作品を設置したり、会場内をフラットにすることで、安心して障がい者も楽しむことができるように対応する。

Webサイト：<http://tokushima-tyoukoku.com/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：展示会イベント、飲食イベント、フェスティバルイベント、コスプレイベント

観覧鑑賞型：大型ステージイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

現時点で開催が決定しているものではないが、例年開催されている主なイベントは以下の通りである。

- ・ はなはるフェスタ（春の阿波おどり）
- ・ 徳島市阿波おどり（夏の阿波おどり）
- ・ マチ★アソビ（春はGW、秋は、体育の日を含む3連休）

○将来計画における課題・展望

阿波おどり、マチ★アソビなど、県外からの来訪者が増加される際の宿泊施設の確保が課題となっており、2017年の阿波おどり期間には、徳島市内にキャンプ場が設置されるなどの取り組みが行われている。

なお、阿波おどりの4日間は宿泊施設がなくなるが、一方で4日間以外の361日は宿が空いているという状態になってしまっている。現状は、徳島に宿泊できないために香川や淡路島に泊まっているケースもあり、宿泊施設に関する取りこぼしが発生している。夏だけでなく、はなはるフェスタなどもあるということで、別のタイミングで提案しており、繁忙期以外のタイミングで通年を通して集客していくことが重要となる。

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	都市公園内であり、屋外広告規制の対象ではない。
騒音制限	特に規制はなし。規制に関係なく、常識的な範囲の音量。
食品規制（飲食不可）	特に規制なし。別途、飲食提供者において、保健所への届け出が必要。
道路使用許可	都市公園であり、公園占用許可が必要（道路使用許可は不要）。
車両乗り入れ規制	車両重量4トン以下、荷物積載時8トン以下。
利用時間規制	明文での規制はなし。都度、協議。
エリア内での特異な規制	特になし。
会場の年間スケジュールと、利用できない時期や具体的な日数	例年イベントとしては、以下の通りとなる。その他、年ごとに随時イベントが実施され、日程は調整が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬（はなはるフェスタ） ・ゴールデンウィーク（ストーンフェア）、 ・お盆期間前後（8月初旬～8月中旬は、阿波おどりの演舞場が設置） ・10月上旬3連休（マチ★アソビ）
利用についての了承を取る必要がある地権者や団体	藍場浜公園については、徳島県が管理する都市公園であるため、県への公園占用許可が必要。

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○様々なイベント実施者から挙がっている課題・要望について

- ・ 宿泊施設の確保。

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙がっている課題・要望について

- ・ 案内などの多言語化、会場のユニバーサル対応などについては、更なる推進を図る必要がある。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- ・ 藍場浜公園周辺

例年開催しているマチ★アソビ、阿波おどり、新町川におけるクルーズ、SUPが好評である。なお、当該エリアは、JR徳島駅から「眉山」までのメインロードを含む徳島県の中心地であり、古くから現在に至るまで徳島市のシンボルとなっている。

- ・ 新町川

エリア内の水際公園からは新町川を巡るクルーズ船が周遊しており、毎月、徳島県内の厳選された農産物などを直売する「とくしまマルシェ」などが行われている。

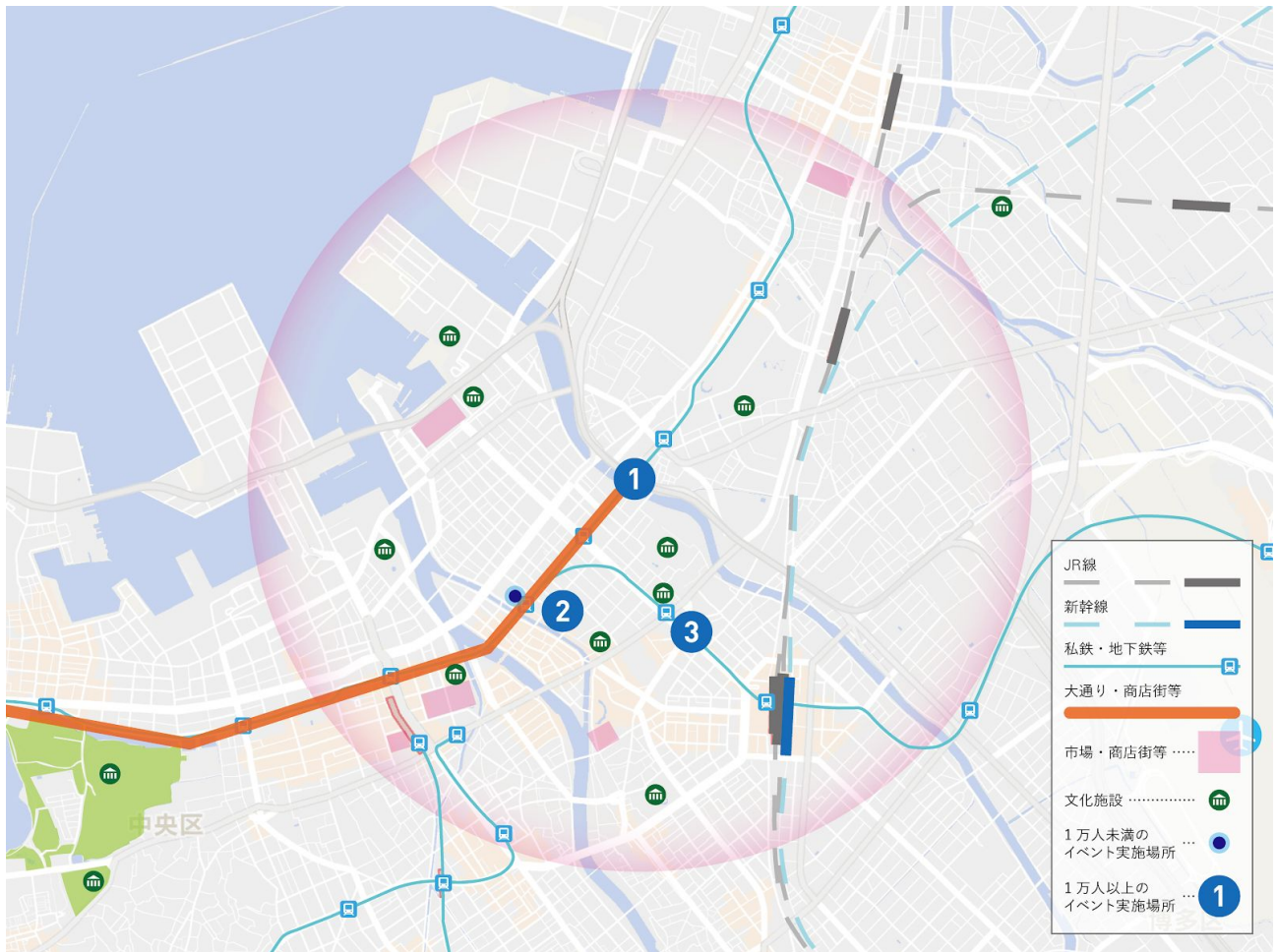
- ・ 眉山

万葉集にも歌われ、さだまさし原作の映画のタイトルにもなった眉山は、徳島市のシンボルとして親しまれている。麓の「阿波おどり会館」では、毎日阿波おどりが楽しめると共に、徳島県のお土産物が揃う「あるでよ徳島」が営業している。また、ロープウェイにより眉山山頂まで登ることが出来る。

- ・ 徳島中央公園

JR徳島駅に隣接し、江戸時代には徳島城が置かれ、公園の周辺一帯が徳島藩の城下町であった。現在では、桜の名所となっているとともに、徳島藩の資料展示などを行う徳島城博物館が設置されている。

14. 福岡県 福岡市 明治通り周辺



過去のイベント実施実績

1. 福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」

会場：パレード：明治通り、演舞台：市内各所（35か所程度）
動員数：1日あたり約1,000,000人（期間中に2,000,000人動員）
期間：毎年5月3日～4日

主催団体：福岡市民の祭り振興会（福岡市、福岡商工会議所、福岡観光コンベンションビューロー）

概要：「博多松囃子」を起源とする市民参加の祭り。市内各所に設置されたステージでの演舞や福岡・博多を横断する「明治通り」のどんたく広場（パレード）など、2日間で延べ200万人の人出を有する。

Webサイト：<http://www.dontaku.fukunet.or.jp/>

2. 博多座船乗り込み

会場：乗船式典：キャナルシティ博多、口上：川端ぜんざい広場前、式典：博多リバレイン
動員数：約30,000人

期間：2017年5月29日（月）

主催団体：船乗り込み実行委員会

概要：六月博多座大歌舞伎に出演する役者が、博多川を船に乗って下り、ご当地到着をお披露目するもので、江戸時代に始められた歌舞伎独特の伝統行事である。現在は大阪と福岡のみで行われ、全国的にも珍しいものとなっている。

Webサイト：<http://www.kabuki-bito.jp/news/4073>

3. 博多祇園山笠

会場：博多区の大博通りを中心とする周辺一帯（13日の集団山見せは一部中央区）

動員数：1日あたり約200,000人（期間中に約3,000,000人）

期間：7月1日～15日

主催団体：博多祇園山笠振興会

概要：700年余の伝統を誇る博多総鎮守・櫛田神社の奉納神事。勇壮豪快な昇山笠を七つの流が担ぎ、博多の街を疾走する。2016年12月にはユネスコ無形文化遺産に登録され、祭り期間中300万人の人出を有する。

Webサイト：<http://www.hakatayamakasa.com/>

○スペースの活用性に関する実績について

自由参加型：夜市

観覧鑑賞型：パレードイベント、音楽イベント

地域における将来計画

○今後のイベント実施予定

県主催事業については、指定のエリアでの開催は未定。

民間事業で実施している博多どんたく、博多祇園山笠、放上会、玉せせり、十日恵比寿のイベントは例年開催予定。

○将来計画における課題・展望

各地域の受入体制の整備（ボランティアスタッフ、外国人対応スタッフ）

イベント実施にあたって留意すべき規制

規制	留意すべき内容
屋外広告物規制	「どんたく」や「山笠」の開催期間中掲出される屋外広告物については、福岡市屋外広告物条例第6条第2項第3号に規定する「祭礼等のため一時的に表示する広告物又はこれの掲出物件」に該当するため、屋外広告物の許可は不要としている。 ただし、福岡市屋外広告物条例第9条で定められている規格について順守する必要がある。
騒音制限	催事に係る騒音制限は、騒音規制法による騒音の規制の対象ではないが、福岡県警所管の「騒音防止条例」（福岡県条例第十一号 1955年4月1日公布）の対象となる可能性が考えられる。「騒音防止条例」では音響機器等の基準が定められている。なお、騒音の音量の規制ではないが、当該地域には環境基本法第16条第1項の規定に基づく騒音に係る環境基準がかかっている。明治通り周辺は商業地域であり、昼間（6～22時）については60dB以下、夜間（22時～翌6時）は50dB以下が望ましいという基準値が設けられている。 さらに、車線を有する道路に面した地域は昼間65dB以下、夜間60dB以下、幹線交通を担う道路に近接する空間は昼間70dB以下、夜間65dB以下と基準値が設けられている。
食品規制（飲食不可）	路上やイベント会場等において、食品を客に提供・販売する場合、調理形態や品目によっては食品衛生法に基づく営業許可が必要となる場合がある。 営業許可の取得にあたっては、必要な設備の基準がある。 簡易な施設で取り扱うことのできる食品や調理工程には制限がある。 そうざいやアイスクリーム等、販売するだけでも許可が必要となる食品がある。 ※路上を占有する場合は道路使用許可にも該当するため、確認が必要。
道路使用許可	明治通りなどの道路使用許可の必要性等については交通管理者（福岡県警）に確認をする。 大型イベントの実施は、「周辺地域・施設等の認可（説明及び同意が必要）」、「察協議後、道路使用許可及び占有許可が必要」、「電線及び車両感知器が横断しているため、高さ制限（5m）」の条件により可能となる。（新規イベント等については、沿道警備等の手法についてかなり厳しい条件を要求される） 一般的に道路を使用し、イベントを行う際は、道路法に基づく道路占有許可（露店や看板、街頭装飾など道路上（上空等も含む）に物件を設置する場合）、道路交通法に基づく道路使用許可を得る必要がある。 道路占有許可については、道路区域内に設置する物件ごとに基準を定めている。例えば、露店やオープンカフェ、その他食事施設や購買施設を設置する場合においても、歩道上であれば視覚障がい者誘導用ブロックから60cm以上離すことや、物件設置後の有効幅員を2～3m以上とることなど基準を満たす必要がある。また、設置する物件の内容や、設置の方法、設置場所（とくに交通規制をかけ車道も使用する大規模なイベントを行う場合など）によっては、国家戦略特区などによる占有特例制度を活用しなければ占有許可ができない場合がある。また、明治通りには電線及び車両感知器が横断しているところがあるため、高さ制限（5m）を設ける場合もあると聞いている（山笠等の市担当部署による）。 また、道路空間を活用したイベントを行う際は、道路管理者および交通管理者との事前協議は必須。とくに大規模なイベントを行う際は、交通規制時間や沿道警備手法、占有物件の構造や設置方法などについて十分に協議する必要がある。 明治通りは都心部で交通量の多い主要路線。準備期間を十分確保するように計画を立てる必要がある。
車両乗り入れ規制	重量制限、高さ制限等について、明治通りに関しては一般的な限度を超えなければ、特別な規定はない。ただし、道路使用許可との関係から場所によっては道路上に電線等の横断があるため、占有許可および使用許可の中で制限することがある ※国交省HPを参照 http://www.ktr.mlit.go.jp/road/sinsei/road_sinsei0000007.html
利用時間規制	イベントの内容によって、利用時間の制限を行うことが考えられる。 さらに車道等の交通規制等を行う場合は、とくに明治通りは都心部の主要路線になるため、必要最低限の時間とすることが道路使用許可および道路占有許可の条件となることが想定されている。時間帯については、準備段階での交通管理者、道路管理者等との協議において指示がある。
エリア内での特有な規制	明治通りは都心部で交通量の多い主要路線であるため、上記以外に関係する規則が出てくる可能性がありますので、準備期間を十分確保するように計画を立ててください。

<p>会場の年間スケジュールと、 利用できない時期や具体的な 日数</p>	<p>○主な祭り パレード...博多どんたく（5月3・4日）、博多祇園山笠（7月1日～15日） 夜市...放上火（9月12日～18日）、玉せせり（1月3日）、十日恵比寿（1月8日～11日） ○明治通り沿いで会場になりうる場所 屋外：冷泉公園、天神中央公園など 屋内：アクロス福岡、旧福岡県公会堂貴賓館、博多座など</p>
<p>利用についての了承を取る必要 がある地権者や団体</p>	<p>明治通り使用に関しては、福岡市（住宅都市局都市景観室、環境局環境保全課、保健福祉局食品安全推進課。経済観光文化局にぎわい振興課、道路下水道局路政課）、福岡県警察に確認が必要。公園に関しては、各公園管理事務所。</p>

イベント実施者・参加者・ソーシャルメディアからの評価

○イベント参加者・利用者（訪日外国人含む）から挙げられている課題・要望について

- ・ Wi-fi整備に対する要望が上がっている。

○エリア内において評価の高いイベント・場所について

- ・ パレードにおいては、博多どんたく、博多祇園山笠、夜市においては、放上火、玉せせり、十日恵比寿のイベントが評価の高いイベントとなっている。

○46道府県アンケート一覧

県名	回答ページ	イベント	動員数	場所名
新潟県	新潟市	にいがたアニメ・マンガフェスティバル2017	1日あたりの動員者数 ・1日平均5万人（日曜10万人） ・動員訪日外国人数200人程度（2017開催時）	【万代エリア】 ・万代シテイBP2 ・新潟市マンガ・アニメ情報館 ・万代シテイパーク（万代シテイバスセンター2F） ・NST 【古町エリア】 古町通5～7番町 ・新潟市マンガの家、JAM日本アニメ・マンガ専門学校 ・NEXT21アトリウム ・新潟市民プラザ（NEXT21ビル6F） 【白山エリア】 新潟県政記念館 ・燕喜館 ・上古町商店街 ・神明宮
	新潟市	白根大凧合戦	1日あたりの動員者数：1日平均5万人（日曜10万人） 動員訪日外国人数：200人程度（2017開催時）	・中ノ口川堤防上
	新潟市	わらアートまつり	1日あたりの動員者数 ・9月2日（土）21,000人 ・9月3日（日）26,000人	・上堰潟公園
北海道	札幌市	さっぽろ雪まつり	1日あたりの動員者数 ・大通会場 約275,000人（総動員数1,920,000人） ・つどーむ会場 60,250人（総動員数723,000人） ・動員訪日外国人数273,000人	・大通会場 ・つどーむ会場 ・すすきの会場
	札幌市	さっぽろ夏まつり「福祉協賛さっぽろ大通ビアガーデン」	1日あたりの動員者数 ・約38,700人（総動員数1,430,000人） ・動員訪日外国人数計測していない。	・大通公園4丁目～11丁目（9丁目を除く）
	札幌市	YOSAKOIソーラン祭り	1日あたりの動員者数 ・377,600人（総動員数1,888,000人） ・動員訪日外国人数計測していない。	・大通公園をメイン会場として、札幌市内約20会場で開催
三重県	三重県	上野天神祭り	1日あたりの動員者数 ・56,000人（2016年開催期間合計）	・上野天神宮 ・伊賀市街地 ・三筋町等
	三重県	桑名石取祭	1日あたりの動員者数 ・300,000人（2016年開催期間中合計）	・春日神社
	三重県	鈴鹿サーキットF1グランプリ	1日あたりの動員者数 ・137,000人（2017年開催期間中合計）	・鈴鹿サーキット

徳島県	徳島市	本場徳島の阿波おどり	1日あたりの動員者数 ・【春】約13万人（総動員数25万人） ・【夏】約31万人（総動員数123万人）※徳島市阿波おどり ・【秋】約8,000人（総動員数23,000人）	【春：はなはるフェスタ】 徳島市藍場浜公園 【夏：阿波おどり】 県内各地 【秋：秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻～】 徳島市 アスティとくしま
	徳島市	マチ★アソビ	1日あたりの動員者数 ・約27,400人（総動員数82,000人） ・※5月5日～7日 約27,700人（総動員数83,000人）※10月7日～9日	・ポッポ街 ・JR徳島駅 ・あわぎんホール ・新町橋東公園 ・ボードウォーク ・東新町商店街 ・阿波おどり会館 ・眉山ロープウェイ ・眉山山頂（すべて徳島市）
	徳島市	とくしまLEDデジタルアートミュージアム	1日あたりの動員者数 ・約32,000人（総動員10日間・約32万人）※H28LED・デジタルアートフェスティバル ・動員訪日外国人数屋外での自由参加形式のイベントであり、正確なカウントではないが、外国人参加者も確認している	【常 設】（チームラボ作品） ①文化の森に憑依する滝（徳島市 徳島県文化の森総合公園） ②お絵かきスマートタウン（那賀郡那賀町 川口ダム自然エネルギーミュージアム） ③Flowers in the Sandfall-Tokushima（徳島市 阿波銀行本店） ④巨大！つながるブロックのまち（海部郡海陽町 マリンジャム） ⑤とくしまLED・デジタルアートフェスティバル（徳島市 新町川、万代倉庫、徳島県庁、徳島城公園）
岐阜県	岐阜県	ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」高山祭、古川祭、大垣祭	1日あたりの動員者数 ・【高山市】（H28春）16.2万人（開催期間中） （H28秋）15.5万人（開催期間中） ・【古川祭】（H28）4.4万人（開催期間中） ・【大垣祭】（H28）31.0万人（開催期間中）	【高山祭】 （春）高山市 日枝神社、市街地 （秋）高山市 櫻山八幡宮、市街地【古川祭】 飛騨市古川市街地 【大垣祭】 大垣市 大垣八幡神社、東外側通り、大垣駅通りほか
	岐阜県	関ヶ原合戦まつり	集計なし	・岐阜県不破郡関ヶ原町
	岐阜県	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン	1日あたりの動員者数 ・（H28）8万人（開催期間中）	・岐阜メモリアルセンター
山口県	山口県	錦帯橋芸術祭「今はじまる千年の物語～第1章～」	1日あたりの動員者数 ・約2,500人	・錦帯橋及びその周辺
	山口県	第66回宇部まつり	1日あたりの動員者数 ・約50,000人	・宇部市役所周辺
	山口県	All Yamaguchi Ride Festa2017	1日あたりの動員者数 ・約5,000人（台風接近のため。予測では11,000人）	・美祿市秋吉台カルストロード及び周辺地域 ・山口県庁前パークロード及び周辺地域 ・山口市十種ヶ峰MTBパーク及び周辺地域
大阪府	大阪市	OSAKA光のルネサンス（大阪光の饗宴コアプログラム）	1日あたりの動員者数 ・開催期間中のため未定（参考：昨年度は総動員数約1293万人）	・大阪市役所周辺～中之島公園
	大阪府	大阪文化芸術フェス2017	1日あたりの動員者数 ・約45,600人（開催期間）	・大阪府内会場、万博記念公園

	大阪府	御堂筋オータムパーティー2017 御堂筋ランウェイ	1日あたりの動員者数 ・約30万人	・御堂筋（久太郎町3交差点～新橋交差点）
高知県	高知市	よさこい祭り	1日あたりの動員者数 ・総観客数100万人	・高知市追手筋本部競演場ほか全16会場
	高知市	2020よさこいで応援プロジェクト事業	1日あたりの動員者数 ・総観客数100万人	・全国
鳥取県	鳥取県	伯耆国「大山開山1300年祭」	来年開催	・鳥取県
	鳥取県	しゃんしゃん祭	1日あたりの動員者数 ・平均約12万人（総数358,000人）	・鳥取市街
秋田県	秋田県	新・秋田の行事	1日あたりの動員者数 ・約3~6万人/日	・H29:大仙市 大曲駅前・花火通り商店街周辺
	秋田県	秋田竿燈まつり	1日あたりの動員者数 ・約30万人（H29:4日間で131万人）	・田市竿燈大通り
	秋田県	横手の雪まつり かまくら・ぼんでん	1日あたりの動員者数 ・約10~20万人	・横手市（横手市役所本庁舎前道路公園、二葉町かまくら通り、羽黒町武家屋敷通り、横手公園 他）
栃木県	宇都宮市	とちぎ版文化プログラムリーディングプロジェクト事業	1日あたりの動員者数 ①約20,000人（県民の日記念イベント約40,000人） ②約12,000人（2日間合計）	①お祭り屋台引き回しパレード、伝統芸能ステージ 宇都宮市役所～栃木県庁の約1.2Km、栃木県庁 ②プロジェクションマッピング in 県庁「ヒカリノタビ ～文化が彩る 栃木への誘い～」 栃木県庁昭和館
奈良県	奈良県	春日若宮おん祭り	1日あたりの動員者数 ・約3000人～10000人（日程による） ・動員訪日外国人数約300人～1000人（日程による）	・春日大社 ・ならまち（奈良市三条通り等）
埼玉県	さいたま市	埼玉 WABI SABI 大祭典	1日あたりの動員者数 ・約1万9000人	大宮公園（さいたま市）
	さいたま市	第5回アニ玉祭（アニメ・マンガまつりin埼玉）	1日あたりの動員者数 ・10,500人 ・動員訪日外国人数約40人	・ソニックシティ（大ホール・小ホール・市民ホール・第1展示場・イベント広場・鐘塚公園）
	さいたま市	第40回記念大会 日本スリーデーマーチ	1日あたりの動員者数 ・約3万人（総動員数約10万人） ・動員訪日外国人数約200人	・中央会場（東松山市立松山第一小学校校庭）
宮城県	仙台市	仙台・青葉まつり	1日あたりの動員者数 ・約48万人 ・動員訪日外国人数不明	・市民広場 ・勾当台公園 ・定禅寺通 ・東二番町通
	仙台市	仙台七夕まつり	1日あたりの動員者数 ・およそ70万人 ・動員訪日外国人数不明	・仙台市中心部および周辺商店街
	仙台市	SENDAI光のページェント	1日あたりの動員者数 ・約12万人 ・動員訪日外国人数不明	・仙台市定禅寺通

	仙台市	東北絆まつり	1日あたりの動員者数 ・2017年6月10日（土） 163,000人 ・11日（日）269,000人（総動員数452,000人） ・動員訪日外国人数502人以上	・仙台市内（西公園、市民広場、勾当台公園、一番町アーケード、定禅寺通、東二番丁通）
山梨県	山梨県	信玄公祭り	1日あたりの動員者数 ・約121,500人（総動員数145,000人）	・JR甲府駅周辺 ・舞鶴城公園 ・甲府市中心街
岡山県	吉備中央市	備前加茂大祭	1日あたりの動員者数 ・10,000人 ・動員訪日外国人数100人未満	総社宮（岡山県加賀郡吉備中央町加茂市場1565-1）
	岡山市	第17回おかやま桃太郎まつり 秋のおかやま桃太郎まつり	1日あたりの動員者数 ・第17回おかやま桃太郎まつり（8/5うらじゃ15万人、8/6うらじゃ40万人、8/5花火33万人、10/7～9秋もも16万3千人） ・動員訪日外国人数 不明	第17回おかやま桃太郎まつり：納涼花火大会（旭川西中島河原一帯）・うらじゃ（岡山市内各所、パレードは岡山市役所筋）秋のおかやま桃太郎まつり（2017年10月7日～9日）：岡山城にて開催
	岡山県	藤まつり	1日あたりの動員者数 ・京橋朝市25,000人、全国有名朝市フェア28,000人、 ×市25,000人（予想） ・動員訪日外国人数把握していない	・和気町 藤公園
神奈川県	横浜市	Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015	1日あたりの動員者数 ・約16,000人（来場・参加者数106万人） ・動員訪日外国人数約1,000人	・横浜市内全域（横浜の「街」そのものが舞台）
	横浜市	横浜音祭り2016	1日あたりの動員者数 ・約16,000人（来場・参加者数106万人） ・動員訪日外国人数 約1,000人	・横浜市内全域（横浜の「街」そのものが舞台）
	相模原市	相模原市民桜まつり	1日あたりの動員者数* ・正確には把握しておりません。/ ・主催者発表数（土）12万人（日）26万人 ・動員訪日外国人数把握しておりません。	・市役所さくら通りほか
京都府	京都市	二条城桜まつり2017	開催日程 2017年3月24日（金）～2017年4月16日（日） 1日あたりの動員者数 ・平均13,000～14,000人	・世界遺産・二条城
石川県	石川県	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭	1日あたりの動員者数 ・約14,000人（総動員数111,840人） ・動員訪日外国人数集計していない	・石川県立音楽堂 ・金沢市アートホール ・金沢駅周辺 ・加賀地区・能登地区等
静岡県	静岡市	大道芸ワールドカップ in静岡	1日あたりの動員者数 ・46万人（平均）	・静岡市駿府城公園 ・静岡市葵区呉服町通り ほか

	静岡市	徳川家康公顕彰プロジェクト 静岡マラソン 2018	1日あたりの動員者数 ・約14,000人 ・動員訪日外国人数240人 (マラソンエントリー者)	・静岡市役所静岡庁舎前 (スタート) ・市内各所 ・JR清水駅東口 (ゴール)
	佐賀県	唐津くんち	1日あたりの動員者数 ・3日間60万人 ・動員訪日外国人数カウントしていません	・唐津市 ・唐津神社周辺
佐賀県	佐賀県	かしま伝承芸能フェスティバル	1日あたりの動員者数 ・約5,000人 ・動員訪日外国人数不明	・鹿島市 ・祐徳稲荷神社
	佐賀県	鹿島ガタリンピック	1日あたりの動員者数 ・3万人 (2017年大会) ・動員訪日外国人数大会参加者数：約80人、観覧者数は不明	・鹿島市 ・七浦海浜スポーツ公園
岩手県	岩手県	盛岡さんさ踊り	・記載なし	・盛岡市中央通り
	岩手県	北上・みちのく芸能まつり	・記載なし	・JR北上駅前大通り
	岩手県	春の藤原まつり	・記載なし	・平泉町内 ・中尊寺 ・毛越寺
鹿児島県	鹿児島市	おはら祭	・記載なし	・鹿児島市東千石町ほか鹿児島市天文館電車通り一帯
	鹿児島市	初午祭	1日あたりの動員者数 ・約10万人	・鹿児島神宮
	鹿児島市	川内大綱引き	1日あたりの動員者数 ・約6万人	・薩摩川内市
福岡県	福岡市	博多座船乗り込み	1日あたりの動員者数 約3万人 動員訪日外国人数 不明	乗船式典：キャナルシティ博多口上：川端ぜんざい 広場前式典：博多リパレイン
	福岡市	福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」	1日あたりの動員者数 約100万人 (期間中に200万人動員) 動員訪日外国人数 不明	・パレード：明治通り 演舞台：市内各所 (35か所程度)
	福岡市	博多祇園山笠	1日あたりの動員者数 ・約20万人 (期間中に300万人動員) ・動員訪日外国人数不明	・博多区の大博通りを中心とする周辺一帯 (13日の集団山見せは一部中央区)
熊本県	熊本県	八代妙見祭 (H28年ユネスコ無形文化遺産登録)	1日あたりの動員者数 ・約20万人	・八代市砥崎河原など
	熊本県	山鹿灯籠まつり	1日あたりの動員者数* 約3万人	・山鹿市山鹿小学校グラウンド
	熊本県	牛深ハイヤ祭り	1日あたりの動員者数* 約2万人	・天草市ハイヤ通り ・岡一二商店街通り
愛知県	名古屋市	世界コスプレサミット	1日あたりの動員者数 ・約140,000人 (メインイベントが開催される2日間の1日平均) ・動員訪日外国人数把握していない	・愛知県芸術文化センター ・オアシス21 など

名古屋 市	名古屋まつり	1日あたりの動員者数 ・約220万人（2日間合計） ※2017年は行列等が雨天中 止のため、2016年実績 動員訪日外国人数不明	・（土）名古屋駅～栄～矢場町 ・（日）市役所～栄～矢場町 会場 久屋大通公園会場、オアシス21会場、名古屋 城会場等"	
	愛知県	サムライ・ニンジャ フェスティバル2017	1日あたりの動員者数 約 35,000人 把 動員訪日外国人数 握していない	・ 県営都市公園大高緑地
広島 県	広島市	ゆかたできん祭	1日あたりの動員者数 ・約13万人（3日間395,000 人）	・ 広島市内中心部一帯
	広島市	ひろしまフラワーフェ スティバル	1日あたりの動員者数 ・約51万人（3日間154万 人）	・ 平和大通り
広島 県	広島市	ひろしまフードスタジ アム冬の陣	1日あたりの動員者数 ・約3万8千人（総動員数、7 万6千人）	・ 旧広島市民球場跡地